令和８年度
湖西市消防防災センター第２期建設工事
（建築工事）

意匠									構造		
図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
	【共通】										
Ａ－００	図面リスト	——	３８	部分詳細図－２(OS-2)	図示	７６	部分詳細図－７（シャッター）	図示	Ｓ－０１	構造設計特記仕様（１）	——
０１	建築工事特記仕様書　1/9	——	３９	部分詳細図－３(OS-3)	図示	７７	部分詳細図－８（訓練スペース詳細図）	図示	０２	構造設計特記仕様（２）	——
０２	建築工事特記仕様書　2/9	——	４０	部分詳細図－４(SS-1)	図示	７８	部分詳細図－９（訓練スペース詳細図）	図示	０３	ＲＣ構造配筋標準図（１）	——
０３	建築工事特記仕様書　3/9	——	４１	部分詳細図－５(電動ﾎｲｽﾄｸﾚｰﾝ・ｻｲﾝ)	図示	７９	部分詳細図－１０（雑）	図示	０４	ＲＣ構造配筋標準図（２）	——
０４	建築工事特記仕様書　4/9	——	４２	部分詳細図－６(雑)	図示	８０	部分詳細図－１１（雑）	図示	０５	鉄骨構造標準図（１）	——
０５	建築工事特記仕様書　5/9	——				８１	部分詳細図－１２（雑）	図示	０６	鉄骨構造標準図（２）	——
０６	建築工事特記仕様書　6/9	——		【消防防災訓練塔・消防防災資機材塔】		８２	法チェック表	図示	０７	鉄骨構造標準図（３）	——
０７	建築工事特記仕様書　7/9	——	４３	仕上表（消防防災訓練塔）	——				０８	鉄骨構造標準図（４）	——
０８	建築工事特記仕様書　8/9	——	４４	仕上表（消防防災資機材塔）	——		【自家給油施設】		０９	ハイベースＮＥＯ工法設計施工標準	——
０９	建築工事特記仕様書　9/9	——	４５	平面図	1/100	８３	平面図・立面図	1/50	１０	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準	——
１０	工事区分表	——	４６	屋根伏図	1/100	８４	キャノピー詳細図	1/15・25	１１	ボーリング柱状図	——
１１	案内図	1/2500	４７	立面図	1/100	８５	設備図	1/50			
１２	公図写し	1/500	４８	断面図	1/100	８６	外構図－１（防火壁）	1/15・25		【消防団・防災資機材庫】	
１３	敷地求積図	1/200	４９	１階平面詳細図	1/50	８７	外構図－２（分離槽）	1/15	１２	杭伏図・１階床梁伏図	1/100
１４	配置図（現況）	1/200	５０	２・３階平面詳細図	1/50	８８	外構図－３（排水溝・衝突除け・アイランド）	1/15	１３	２階床梁伏図・屋根伏図	1/100
１５	配置図（改修後）	1/200	５１	断面詳細図－１（消防防災訓練塔）	1/30	８９	外構図－４（注油口・通気口）	1/15	１４	軸組図（１）	1/100
１６	床面積求積図－１	1/100	５２	断面詳細図－２（消防防災訓練塔）	1/30	９０	二重殻地下タンク構造図	図示	１５	軸組図（２）	1/100
１７	床面積求積図－２	1/100	５３	断面詳細図－３（消防防災資機材塔）	1/30	９１	地下タンク埋設図	1/20	１６	ＲＣ部材リスト	1/40
			５４	屋内階段詳細図－１（消防防災訓練塔）	1/30	９２	地下タンク関連構造図	1/20	１７	鉄骨部材リスト	1/30
	【消防団・防災資機材庫】	——	５５	屋内階段詳細図－２（消防防災資機材塔）	1/30				１８	雑詳細図・鉄骨詳細図	1/30
１８	仕上表・法チェック表	1/100	５６	建具キープラン	1/100		【外構図】				
１９	平面図	1/100	５７	建具表－１（消防防災訓練塔）	1/50	９３	外構図（改修後）	1/150		【消防防災訓練塔・消防防災資機材塔】	
２０	屋根伏図	1/100	５８	建具表－２（消防防災資機材塔）	1/50	９４	外構詳細図－１	1/20	１９	杭伏図・ピット伏図	1/100
２１	立面図	1/100	５９	家具キープラン	1/100	９５	外構詳細図－２	1/20	２０	１階床梁伏図・２階床梁伏図	1/100
２２	断面図	1/50	６０	家具図－１	1/60	９６	外構詳細図－３	図示	２１	３階床梁伏図・屋根伏図	1/100
２３	１階平面詳細図	1/50	６１	家具図－２	1/60	９７	排水区域図	1/150	２２	軸組図（１）	1/100
２４	２階平面詳細図	1/30	６２	訓練機器詳細図－１	図示	９８	道路工事承認図	1/20・1/100	２３	軸組図（２）	1/100
２５	断面詳細図－１	1/30	６３	訓練機器詳細図－２	図示	９９	外構部分詳細図－１（職員用駐輪場）	1/20	２４	ＲＣ部材リスト（１）	1/40
２６	断面詳細図－２	1/30	６４	訓練機器詳細図－３	図示	１００	外構部分詳細図－２（ホース洗い場）	1/20	２５	ＲＣ部材リスト（２）	1/40
２７	屋内階段詳細図	1/50	６５	訓練機器詳細図－４	図示	１０１	外構部分詳細図－３（倉庫１・設備基礎）	1/20	２６	ＲＣ部材リスト（３）	図示
２８	展開図－１	1/50	６６	訓練機器詳細図－５	図示	１０２	外構部分詳細図－４（サイン）	図示	２７	鉄骨部材リスト・雑詳細図	1/30
２９	展開図－２	1/50	６７	訓練機器詳細図－６	図示				２８	架構配筋詳細図	1/30
３０	展開図－３	1/50	６８	訓練機器詳細図－７	図示		【その他】		２９	鉄骨詳細図	1/30
３１	展開図－４	1/100	６９	訓練機器詳細図－８	図示	１０３	仮設計画図（参考）		３０	螺旋階段詳細図（１）	1/100
３２	建具キープラン	1/50	７０	部分詳細図－１（点検通路・点検階段）	図示	１０４	平均地盤算定図－１		３１	螺旋階段詳細図（２）	1/100
３３	建具表	1/100	７１	部分詳細図－２（点検通路・点検階段）	図示	１０５	平均地盤算定図－２				
３４	家具キープラン	1/50	７２	部分詳細図－３（点検通路・点検階段）	図示	１０６	日影図				
３５	家具図－１	1/50	７３	部分詳細図－４（点検通路・点検階段）	図示						
３６	家具図－２	図示	７４	部分詳細図－５（シャッター）	図示						
３７	部分詳細図－１(OS-1)	図示	７５	部分詳細図－６（シャッター）	図示						

※表中の縮尺はＡ１サイズの場合の縮尺を示す

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053－439－0333（代） ＦＡＸ：053－439－7500 E-mail: sarc@kdt.biglobe.ne.jp	検図	年月日	図面名称	縮尺	図面番号
					Ｒ８．５．２９	図面リスト	A1 A3	Ａ－００

建築工事特記仕様書

第１　工事概要

1 工事名称　令和8年度　湖西市消防防災センター　第２期建設工事(建築工事)
2 工事場所　湖西市古見　地内
3 敷地面積　5,814.4㎡
4 都市計画　○ 都市計画区域内　・ 準都市計画区域内　・ 都市計画区域外
・ 線引　（○ 市街化区域　・ 市街化調整区域 ）　・ 非線引
5 用途地域　○ 第1種住居地域　第2種住居地域
6 防火地域　・ 防火地域　・ 準防火地域　○ 指定なし
7 その他の地域・地区　・ 風力係数算定のための地表面粗度区分　（ ○ Ⅱ　・ Ⅲ ）
・ 風圧力算定のための基準速度　Vo＝32　m/s
・ 垂直積雪量　（　0.3　m ）
・ 騒音規制法に基づく指定区域　（ ・ 1 種　○ 2 種　・ 3 種　・ 4 種）
8 建物概要

建物名称	構造・階数	工事種別	建築面積㎡	延べ面積㎡	備考
消防団・防災資機材庫	S造・2階	新築	320.77	432.74	
消防防災資機材塔 消防防災訓練塔	RC造+(S造)・3階	新築	184.92	469.39	
自家給油施設	S造・1階	新築	4.42	4.42	
倉庫１	プレハブ造・1階	新築	9.62	9.62	
職員用駐輪場	その他・1階	新築	10.31	10.31	

9 工事内容
防災資機材庫・消防防災資機材塔・消防防災訓練塔・自家給油施設・倉庫１・職員用駐車場に係る
建築工事一式（外構工事を含む）

第２　仕様

1 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和７年版」(以下「標準仕様書」という。)によるほか、下記仕様書のうち、
○印を付けたものを適用する。
・ 建築工事標準詳細図(令和４年版)（以下「標準詳細図」という。）
・ 建築物解体工事共通仕様書(令和４年版)
・
・

2 仕様書に用いられている用語を次のとおり読み替える。
(1)「契約書」を「静岡県建設工事執行規則(昭和50年3月25日規則第16号)第11条の
静岡県建設工事請負契約約款（以下「約款」という。）」に読み替える。
(2)「監督職員」を「監督員」に読み替える。
(3)「検査職員」を「検査技監」、「検査監」及び「検査員」に読み替える。

3 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。
なお、電気設備工事の特記仕様書は（　　）図、機械設備工事の特記仕様書は（　　）図による。

4 本特記仕様書の表記
(1)項目は、番号の前に○印の付いたものを適用する。
(2)特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用とし、適用範囲は図示とする。
(3)特記事項に記載の(．．)の表示番号は、「標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4)[G] 印は「静岡県環境物品等の推進に関する基本方針」の公共工事に関わる特定調達品目を示す。
(5)受注者は南海トラフ地震に関連する情報（地震）が気象庁から出された場合には、工事中断の措置をとるものとし、これに伴う必要な補強・落下防止等の保全処置を講じなければならない。
上記事実が発生した場合は、約款第26条(臨機の措置)の規定による。
(6)標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令(条例を含む)の改正等により抵触する場合には、関係法令等の遵守(1.1.13)の規定を優先する。

第３　適用基準等

※ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部(令和５年版)）
・

１章　各章共通事項

○ 1 工事実績情報ｼｽﾃﾑ（ｺﾘﾝｽﾞ）への登録　(1.1.4)
受注時又は契約変更時に工事請負代金額500万円以上の工事について、工事実績情報ｼｽﾃﾑ(CORINS)に登録すること。また、契約変更により工事請負代金額が500万円未満になった場合は、すみやかに契約変更前の工事登録を削除すること。なお、契約金額の変更登録は、完成時のみとする。

○ 2 書面の書式及び取扱い　(1.1.5)
情報共有ｼｽﾃﾑの適用及び機能要件
情報共有ｼｽﾃﾑに関する特記仕様書による

○ 3 工事の一時中止　(1.1.9)
※ 工事一時中止ガイドライン（建築・建築設備工事編）に定めるところによる。
約款第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画書(以下「基本計画書」という。)を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。
また、工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。

4 遠隔臨場の実施　(1.1.14)
遠隔臨場の適用及び実施内容
遠隔臨場の実施要領（建築版）　特記仕様書 による

○ 5 施工図等の取扱い　(1.2.3)
施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

○ 6 設備工事との取合い
施工範囲　※ 工事区分表による　・
施工図　設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。

7 電気保安技術者　(1.3.3)
※ 適用しない

○ 8 発生材の処理等　(1.3.11)
・ 引渡しを要するもの
・　・
・ 現場において再利用を図るもの
・　・

○ 9 産業廃棄物管理票
(財)日本産業廃棄物処理振興ｾﾝﾀｰ（http://www.jwnet.or.jp）が運営する「情報処理ｾﾝﾀｰの登録(電子ﾏﾆﾌｪｽﾄ)により行うこと。これにより難い場合は監督員と協議する。

○ 10 建設副産物
発生材については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「資源の有効な利用の促進に関する法律」及び「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」その他関係法令の規定を遵守し、適正に処理する。
事前に建設副産物情報交換システム等(以下、「ｺﾌﾞﾅｽ・ﾌﾞﾗｽ」という。)に登録及び必要事項を入力し、ｺﾌﾞﾅｽ・ﾌﾞﾗｽより出力される以下計画書等を監督員に提出する。
①再生資源利用計画書(実施書)
②再生資源利用促進計画書(実施書)
③ｺﾌﾞﾅｽ・ﾌﾞﾗｽ登録済確認書(計画、実施)
工事完了時、ｺﾌﾞﾅｽ・ﾌﾞﾗｽより出力される上記①、②の実施書及び③の登録済証明書（実施）を監督員に提出する。

○ 11 特定建設資材の処理
本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第9条による分別解体等実施義務の対象建設工事となることが想定されるため、同法に基づき分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。
工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、予定していた条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。
また、分別解体・再資源化等の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督員に報告する。

・ 分別解体等の方法（新築、修繕、模様替え工事）

工程	作業内容
工程ごとの作業内容及び解体方法 (1)造成等	造成等の工事 ○ 有　・ 無
(2)基礎、基礎ぐい	基礎、基礎ぐいの工事 ○ 有　・ 無
(3)上部構造部材 外装	上部構造部材、外装の工事 ○ 有　・ 無
(4)屋根	屋根の工事 ○ 有　・ 無
(5)建築設備、内装等	建築設備、内装等の工事 ○ 有　・ 無
(6)その他（　　）	その他の工事 ・ 有　・ 無

・ 特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をする施設の名称	所在地
・ ｺﾝｸﾘｰﾄ		
・ ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鉄から成る建設資材		
・ 木材		
・ ｱｽﾌｧﾙﾄ、ｺﾝｸﾘｰﾄ		

通知に係る事項の説明時に上記と異なる施設(同種の再資源化等を行う施設に限る)を受注者が提示した場合は、当該施設に搬出することができる。ただし、当該施設への変更については設計変更の対象としない。

○ 12 環境への配慮　(1.4.1)
建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次のアからエを満たすものとする。
ア　合板、木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、構造用ﾊﾟﾈﾙ、集成材、単板積層材、MDF、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、その他の木質建材、ﾕﾘｱ樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗料は、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する(ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量)の区分に応じた材料を使用する。
イ　接着剤及び塗料は、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ及びｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝの含有量が少ない材料を使用する。
ウ　接着剤は、可塑性(ﾌﾀﾙ酸ｼﾞｰﾉｰﾌﾞﾁﾙ及びﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼ等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。
エ　アの材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

○ 13 材料の品質等　(1.4.2)
(1)本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2)備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。
(3)標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

○ 14 材料の検査等　(1.4.4)
現場に搬入したすべての材料について、自主検査記録(任意様式)を提出すること。ただし、次表に掲げる材料については監督員の検査を受ける。
なお、監督員の検査の結果、合格した材料と同じ種別の材料は以後原則として抽出検査とする。

材料名称		
仮設工事	**防水工事**	**塗装工事**
・	○ 防水材	○ 塗料
・	・ 断熱材、接着剤	・
土工事	○ ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・
※ 埋め戻し、盛土材	・	**内装工事**
・	・	・ ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ
・	**石、ﾀｲﾙ工事**	・ ｶｰﾍﾟｯﾄ
地業工事	・ 石材	・ 合成樹脂塗床材
○ 砕石	・ 取付金物	・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ
※ 杭	・ ﾀｲﾙ	・ 畳
○ 杭施工混和材	・ ﾀｲﾙ張付け用材料	・ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ
○ 溶接材料	・	・ 壁紙
○ 杭頭補強筋	・	・ 断熱、防露材
○ 杭盤改良材	**木工事**	・
・	・ 木材	**ﾕﾆｯﾄ、その他工事**
・	・ 集成材	・ ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌｫｱ
鉄筋工事	・	・ 可動間仕切
※ 鉄筋	・	・ ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ
○ 溶接金網	**屋根、とい工事**	・
○ ｽﾀｯﾌﾟ補強筋(既製品)	・ 長尺金属板	・
・	・ 折板	**排水工事**
・	・ 粘土瓦	○ 排水管
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	・ とい	○ 排水桝
○ 型枠	・	・
○ 特殊型枠(ﾌﾗｯﾄﾃﾞｯｷ他)	・	・
※ ｺﾝｸﾘｰﾄ	**金属工事**	**舗装工事**
・ ｾﾒﾝﾄ	○ 金属製品	○ 路床
・ 骨材	・ 軽量鉄骨天井下地	○ 路盤材
・ 水	・ 軽量鉄骨壁下地	○ ｱｽﾌｧﾙﾄ
・ 混和材	○ あと施工ｱﾝｶｰ	○ ｺﾝｸﾘｰﾄ
・	・	・ ﾌﾞﾛｯｸ系舗装材
・	・	・
鉄骨工事	**左官工事**	・
※ 鋼材	○ ﾓﾙﾀﾙ	**植栽工事**
○ 高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ	・ ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材	・ 樹木
○ ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	○ 仕上塗材	・ 芝、吹付けは種、地被類
○ ｽﾀｯﾄﾞ	・ ﾛｯｸｳｰﾙ	・ 支柱材
○ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	・	・ 肥料、土壌改良剤
○ 溶接材料	**建具工事**	・
・ 耐火被覆材	○ ｱﾙﾐ製、鋼製建具	・
○ 溶融亜鉛めっき	・ 木製建具	
・	○ 建具用金物	
・	○ ｶﾞﾗｽ	
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ他工事	○ ｼｬｯﾀｰ	
・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ	・	
・ ALCﾊﾟﾈﾙ	・	
・ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	**ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事**	
・	・	
・	・	

監督員の検査を受けて使用すべきとされた材料であっても、設計図書に定めるJIS又はJASのﾏｰｸ表示のある材料並びに規格、基準等の規格証明書が添付された材料で、監督員の承諾を受けた場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとして、取り扱うことができる。

13 地場産品
静岡県中小企業の受注者機会の増大による地域経済の活性化に関する条例に基づき地場産品の使用促進を図ることで地域経済の活性化に寄与することを目的とする。受注者は工事に使用する建設資材等について契約図書に規定する品質が規格値を満足した地場産品の優先使用に努めること。
「地場産品」とは「県産木材」及び「県産品」をいう。
「県産木材」とは「静岡県産材証明制度要綱」第２条に掲げるものをいう。
「県産品」とは建設資材又は製品等で、県内で最終工程が施されたものをいう。

○ 14 技能士
一級技能士又は単一等級の資格者を有する者の配置を適用する作業種別　(1.5.2)

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	○とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	○鉄筋組立作業
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	型枠施工	○型枠工事作業
	ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送施工	○ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	○構造物鉄工作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ、ALCﾊﾟﾈﾙ、押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	ﾌﾞﾛｯｸ建築	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業
	ｴｰﾄｸﾚｰﾊﾟﾈﾙ施工	・ｴｰﾄｸﾚｰﾊﾟﾈﾙ工事作業
防水工事	防水施工	○ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業
		○ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業
		・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業
		・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業
		・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業
		・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業
		○ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業
		・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ工法防水工事作業
		・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ常温粘着工法防水工事作業
		・FRP防水工事作業
石工事	石材施工	・石張り作業
ﾀｲﾙ工事	ﾀｲﾙ張り	・ﾀｲﾙ張り作業
木工事	建築大工	・大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	○内外装板金作業
金属工事	内装仕上施工	・鋼製下地工事作業
	建築板金	○内外装板金作業
左官工事	左官	○左官作業
建具工事	ｻｯｼ施工	・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業
	ｶﾞﾗｽ施工	・ｶﾞﾗｽ工事作業
	自動ﾄﾞｱ施工	・自動ﾄﾞｱ施工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工	・金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業
	ｻｯｼ施工	・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業
	ｶﾞﾗｽ施工	・ｶﾞﾗｽ工事作業
塗装工事	塗装	○建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業
		・ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上げ工事作業
		・木質系床仕上げ工事作業
		・ﾎﾞｰﾄﾞ仕上げ工事作業
	表装	○壁装作業
排水工事	配管	○建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	○溶解ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業
		・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	造園	・造園工事作業

配置できない場合は、監督員の承諾を得ること。

○ 15 化学物質の濃度測定
施工完了後、完成届の提出前に次により室内空気中の化学物質の濃度を測定し、測定結果を監督員に報告する。
測定対象室及び測定箇所数　(1.5.10)
測定対象室　※ 全ての居室及び常時換気しない書庫、倉庫　・ 図示
測定箇所数　・

室の床面積A (m2)	A≦50	50＜A≦200	200＜A≦500	500＜A
測定箇所数	1	2	3	4

使用した材料、室の形状、換気設備等の仕様が類似しており、同様の測定結果となることが予想される複数の室については、監督員と協議の上、そのうちの１室以上を測定する。
測定方法　※ ﾊﾟｯｼﾌﾞ採取による蒸気拡散式分析法　・ 厚生労働省の標準法
測定物質　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ

対象物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	0.08ppm（ 100μg/m3）
ﾄﾙｴﾝ	0.07ppm（ 260μg/m3）
ｷｼﾚﾝ	0.05ppm（ 200μg/m3）
ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.085ppm（ 370μg/m3）
ｽﾁﾚﾝ	0.05ppm（ 220μg/m3）

測定者　専門測定機関による測定　※ 現場作業員による測定　・
測定前準備　測定対象室を30分換気し、その後5時間閉鎖する。
測定時　測定前準備・測定時は換気設備又は空気調和設備を稼動させたまま行う。ただし、局所的な換気扇で常時稼動させないものは停止させたままとする。測定時間は、原則として24時間とする。ただし、24時間測定が行えない場合は8時間測定(10時30分～18時30分)とする。測定位置は、室中央付近の床から1.2m～1.5mの高さとする。
測定後　測定年月日、測定時刻、測定時の室温・湿度・天候、及び内装仕上げ工事の完了した年月日等を記載すること。

○ 16 検査　(1.6.1)(1.6.2)
中間検査　※ 対象工事（実施は中間検査実施基準による）　・ 対象外工事

○ 17 完成時の提出図書　(1.7.1)
※打合せによる

○ 18 設計GL
設計GL　※ 図示　・

○ 19 既存部の汚損等
工事施工に際し、既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造、仕上げ共、既存にならい補修する。

○ 20 事故報告
工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、事故発生報告書を監督員に速やかに提出すること。

○ 21 異常気象時の報告
異常気象時（大雨警報、暴風警報、大雪警報）及び震度4以上の地震発生時には、現場点検を行い速やかに監督員に報告する。

○ 22 公共事業労務費調査に対する協力
受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、以下の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。
(1)調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
(2)調査票等を提出した事業所を発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
(3)正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
(4)対象工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請負工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

２章　仮設工事

○ 1 足場その他　(2.2.4)
内部足場の種別　※ 脚立、足場板等　・
外部足場の種別　・ 枠組足場　○ くさび緊結式足場　・ 単管本足場
・ 仮設ｺﾞﾝﾄﾞﾗ　・ 移動式足場　・
工事で設置する足場については、標準仕様書2.2.4(2)によるほか、「手すり先行工法等に関するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」（厚生労働省令和5年12月）により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立てや解体等の作業は「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式、又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971(屋根工事用足場及び施工方法)の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置する。

○ 外部足場の防護ｼｰﾄによる養生
・ 養生ﾈｯﾄ　○ 養生ｼｰﾄ（ ○ Ⅰ類 ・ Ⅱ類 ）　・ ﾈｯﾄ状養生ｼｰﾄ（ ※ Ⅰ類 ・ Ⅱ類 ）
○ 防音ｼｰﾄ　・ 防音ﾊﾟﾈﾙ　・

2 監督員事務所　(2.3.1)
規模、仕様　・ 10㎡程度　・ 既存建物利用　・
備品等(標準仕様書によるほか下記による)
・ 机　・ 椅子　・ ｺﾞﾑ長靴　・ 雨がっぱ　・ 保安帽　・ 墜落制止用器具　・ 更衣ﾛｯｶｰ
以上は監督員　人分
・ 書籍　・ 白板　・ 掛時計　・ 寒暖計　・ 懐中電灯　・ 受注者加入電話の子機　・ 消火器
・ 冷暖房機器　・ ﾊﾟｿｺﾝ　(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ接続：　)
以上は各１ヶ

3 監理事務所
規模、仕様　・ 10㎡程度　・ 既存建物利用　・
備品等
・ 机　・ 椅子　・ ｺﾞﾑ長靴　・ 雨がっぱ　・ 保安帽　・ 墜落制止用器具　・ 更衣ﾛｯｶｰ
以上は　人分
・ 書籍　・ 白板　・ 掛時計　・ 寒暖計　・ 懐中電灯　・ 受注者加入電話の子機　・ 消火器
・ 冷暖房機器　・ ﾊﾟｿｺﾝ　(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ接続：　)
以上は各１ヶ

○ 4 工事用水
構内既存の施設　○ 利用できる
※ 有償　・ 無償
※ 利用可能口径　φ　本
・ 利用できない

○ 5 工事用電力
構内既存の施設　○ 利用できる
※ 有償　・ 無償
※ 利用可能容量　w　回路
・ 利用できない

3章　土工事

○1　理戻し及び盛土　(3.2.3)

材料および工法
※標準仕様書3.2.1による

種別	適用場所	土質	受渡場所
・A種			
○B種	施工業者による		
・C種			
・D種			

○2　建設発生土の処理　(3.2.5)

○ 場外指定場所に搬出し、搬出後、監督員へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。
搬出場所　：施工業者による
受入条件　：
搬出距離　：5km程度
仮置き場　：
なお、搬出場所、受入条件等は、設計図書作成時点のものであり、受注者は作成した施工計画や実施工程により、搬出予定時期の受入条件等を確認し、結果を監督員と協議する。施工計画の作成時には、工事現場から50kmの範囲内に建設発生土を利用する他の建設工事があるか静岡県建設発生土ﾏｯﾁﾝｸﾞｱｯﾌﾟｼｽﾃﾑ等により検討を行い、利用先がある場合はこちらを優先とする。また、確認の結果、受入条件等の変更により搬出が困難な場合は、近隣の受入先を調査の上、搬出場所、受入条件等が確認できる資料を監督員に提出する。監督員は、提出された資料をふまえ受注者と協議の上、新たな搬出場所等を指定するとともに、必要に応じて設計変更を行う。
土壌汚染のおそれ　○ 無　・ 有
該当有害物質：
分析調査　○ 無　・ 有

物質の種類

・クロロエチレン
・四塩化炭素
・1,2-ジクロロエタン
・1,1-ジクロロエチレン
・1,2-ジクロロエチレン
・1,3-ジクロロプロペン
・ジクロロメタン
・テトラクロロエチレン
・1,1,1-トリクロロエタン
・1,1,2-トリクロロエタン
・トリクロロエチレン
・ベンゼン
・カドミウム及びその化合物
・六価クロム化合物
・シアン化合物
・水銀及びその化合物
・セレン及びその化合物
・鉛及びその化合物
・ひ素及びその化合物
・ふっ素及びその化合物
・ほう素及びその化合物
・シマジン
・チオベンカルブ
・チウラム
・ポリ塩化ビフェニル
・有機リン化合物（パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン、メチルジメトン及びEPNに限る。以下同じ。）
・銅
・1,4-ジオキサン
・ダイオキシン類

・場内指定場所に敷き均し
・図示　・
・場内指定場所に堆積
・図示　・

○3　山留め

鋼矢板等の抜き後の処理　※直ちに砂等で充填する　・
山留めの残置　・行う（存置範囲 ※図示）

○4　建設汚泥の処理

処理対象　・図示　○ 杭残土
処理方法　※再生資源化施設へ搬出
なお、「建設汚泥の再利用に関するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ（平成18年6月12日国土交通省）」により建設汚泥の発生量の抑制に努めること。

4章　地業工事

○1　支持地盤等　(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6)

○ 杭基礎
支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む)　※図示
・直接基礎
支持地盤の位置及び土質(基礎底部の位置含む)　※図示
試験掘り(根切り底の状態の確認等)　・行う　・行わない
位置等　・図示

・杭の載荷試験
載荷試験の方法　・鉛直載荷試験
・地盤工学会基準JGS(　　)による　・
・水平載荷試験
・地盤工学会基準JGS1831による　・
試験の位置、本数、載荷荷重　・図示による　・
報告書の記載事項　・

・地盤の載荷試験
載荷試験の方法　平板載荷試験　・地盤工学会基準JGS1521による　・
試験の位置、載荷荷重　・図示による　・
報告書の記載事項　・

○2　既製コンクリート杭地業　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8)

種類　○ 遠心力高強度ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ杭(PHC杭)
・ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄ鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ杭(PRC杭)
・外殻鋼管付きｺﾝｸﾘｰﾄ杭(SC杭)
鋼管材料　・SKK400　・SKK490　・

杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継ぎ手の個所数等

		種類 種別	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度 (N/mm2)	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手 数	ｾｯﾄ 数	長期設計 支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭									
	中杭	構造図による								
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭	構造図による								
	下杭									

杭先端部形状　○ 開放形　・半開放形　・閉そく形　・
工法
・ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法
試験杭　試験杭の位置　・図示　・
掘削深さ　・図示　・
杭の支持層への根入れ深さ　・図示　・
杭の精度　水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・
建込み時の杭の鉛直度　・1/100以内　・
○ 特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
○ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法
α＝（　　）　β＝（　　）　γ＝（　　）
工法　・ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ拡大根固め工法　・中掘り拡大根固め工法　・
杭周固定液　・使用する　・使用しない
試験杭　試験杭の位置　・図示　・
杭の支持層への根入れ長さ　※評定等の評価内容による
杭の精度　水平方向の位置ずれ　※評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度　※評定等の評価内容による
○ 杭の継手の工法　・溶接継手
溶接材料　・7.2.5(1)(2)による　・図示　・
○ 機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※評定等を受けた工法
杭頭の処理等　○ 処理する　・処理しない
処理方法(切断に伴う補強方法含む)　・図示　・
杭頭の中詰め材料　・基礎のｺﾝｸﾘｰﾄと同調合のもの　・

3　鋼杭地業　(4.2.2)(4.4.1)(4.4.3)～(4.4.6)

鋼杭の材料　・
杭の種類、寸法、継手等

		種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (mm)	継手 数	ｾｯﾄ 数	長期設計 支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

・特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが下記の値を採用できる工法
α＝（　　）　β＝（　　）　γ＝（　　）
工法　・
試験杭　試験杭の位置　・図示　・
杭の支持層への根入れ長さ　・評定等の評価内容による
杭の精度　水平方向の位置ずれ　・評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度　・評定等の評価内容による
・杭の継手の工法
・ｱｰｸ溶接継手
形状　・JIS A 5525による　・
溶接材料　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・図示
・機械式継手
工法　※評定等を受けた工法
杭頭の処理等　・処理する　・処理しない
処理方法(切断に伴う補強方法含む)　・図示　・
杭頭の中詰め材料　・基礎のｺﾝｸﾘｰﾄと同調合のもの　・

4　場所打ちコンクリート杭地業　(4.2.2)(4.5.1)(4.5.4)～(4.5.6)

工法　・ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法
安定液　※使用する　・使用しない
・ﾘﾊﾞｰｽ工法
・ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法
孔内の水張り　・行う　・行わない
併用する工法　・場所打ち鋼管ｺﾝｸﾘｰﾄ杭工法
鋼管巻き材料　・SKK400　・SKK490
・拡底杭工法
安定液　・使用する　・使用しない
・

寸法等

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (mm)	ｾｯﾄ 数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭　試験杭の位置　・図示　・
孔壁の保持状況（孔壁測定）
測定箇所　・試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所　・
杭の支持層への根入れ長さ　・図示　・
杭の精度　水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・評定等の評価内容による
建込み時の杭の鉛直度　・1/100以内　・評定等の評価内容による

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径(mm)	備考
・SD295		
・SD345		

帯筋の加工及び組立　・図示　・
鉄筋の最小かぶり厚さ　・100mm　・
鉄筋かごの補強
組み立てた鉄筋の節ごとの継手　※重ね継手(重ね継手の長さ　・図示　・　　)
・
主筋の基礎底盤への定着長さ　・図示　・

ｾﾒﾝﾄの種類　※高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]
ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度　・図示　・
ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　・A種　・B種　・評定等の評価内容による
ｽﾗﾝﾌﾟ　※21cm　・18cm
構造体強度補正　※3N/mm2　・評定等の評価内容による

○5　砂利事業　(4.6.2)(4.6.3)

材料　○ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ[G]　・切込砂利及び切込砕石
範囲　○ 基礎下、基礎梁下、土間ｽﾗﾌﾞ下、土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下　・図示
厚さ　※60mm　○100mm

○6　捨ｺﾝｸﾘｰﾄ地業　(4.6.4)

範囲　○ 基礎下、基礎梁下、土間ｽﾗﾌﾞ下　・図示
厚さ　※50mm　・
ｺﾝｸﾘｰﾄの類別　・Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたｺﾝｸﾘｰﾄ）
・Ⅱ類（Ⅰ類以外でJIS A 5308に適合したｺﾝｸﾘｰﾄ）
・
ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　※普通ｺﾝｸﾘｰﾄ　・
設計基準強度　※18N/mm2　・
ｽﾗﾝﾌﾟ　※15cm又は18cm　・

○7　床下防湿層　(4.6.2)(4.6.5)

材料　○ ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上　・
範囲　○ 建物内の土間ｽﾗﾌﾞ及び土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下(ﾋﾟｯﾄ下を除く)
砂利地業の上に直接施工する場合は、防湿層の下に目つぶし砂敷均し(t=30)

○8　地盤改良　(4.7.2)(4.7.3)

・深層混合処理工法
材料　固化剤の種類　※ｾﾒﾝﾄ系固化剤　・
工法　方式　※機械撹拌方式　・
改良体の設計基準強度（Fc）、改良体長さ、改良率、改良体幅
・図示　・
室内配合試験
対象地層、共試体数　・図示　・
六価ｸﾛﾑ溶出試験　※行う　・行わない
試験施工　・行わない
・行う
位置等　・図示　・
改良工事完了後の試験
検査対象、ｺｱ採取方法、供試体数、検査方法　・図示　・
六価ｸﾛﾑ溶出試験　・行う　※行わない

○ 浅層混合処理工法　(4.8.2)(4.8.3)

材料　固化剤の種類　※ｾﾒﾝﾄ系固化剤　・
工法　方式　※原位置混合方式　・
改良体の設計基準強度（Fc）、改良対象土、改良範囲、改良厚さ
○ 図示　・
室内配合試験
対象地層、共試体数　○ 図示　・
六価ｸﾛﾑ溶出試験　※行う　・行わない
改良工事完了後の試験
検査対象、ｺｱ採取方法、供試体数、検査方法　・図示　・
六価ｸﾛﾑ溶出試験　○ 行う　※行わない

5章　鉄筋工事

○1　鉄筋　(5.2.1)

鉄筋の種類等

種類の記号	呼び径（mm）	備考
・SD295	・D16以下	
・SD345	・D19以上	
・	・	
・	・	

加工　・折曲げ角度が90℃未満も折曲げの内法直径(D)(　　)以上　・図示

○2　溶接金網　(5.2.2)

鉄線の形状等

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径(mm)	使用箇所
○ 溶接金網	WFP	100*100　φ6	ｺﾝｸﾘｰﾄ増打ち部分
・			

○3　鉄筋の継手　(5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)

鉄筋の継手の方法等

部位	継手の方法		呼び径(mm)
柱、梁の主筋	○ ｶﾞｽ圧接	・機械式継手	
	・溶接接手	・重ね継手	
耐力壁の鉄筋	・重ね継手　・		
その他の鉄筋（　　）	○ 重ね継手　・		

継手位置　・図示　・
柱及び梁主筋の重ね継手の長さ　○ 図示　・
耐力壁の重ね継手の長さ　・図示　・

○4　鉄筋の定着　(5.3.4)

鉄筋の定着長さ　○ 図示　・
機械式定着工法　・適用する　・適用しない
適用場所　○ 図示　・
種類　・摩擦圧接接合　・螺号ｸﾞﾗﾌﾄ固定　・嵌合ｸﾞﾗﾌﾄ固定　・
工法　※第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ　※評定等の評価内容による
補強筋形状　※評定等の評価内容による
かぶり厚さ　※評定等の評価内容による
品質確認　※評定等の評価内容による
検査　※評定等の評価内容による

○5　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)　(5.3.5)

最小かぶり厚さ　○ 図示　・
軽量ｺﾝｸﾘｰﾄを適用する場合　・有り　・無し
適用箇所　：
・最小かぶり厚さに加える厚さ(mm)　：
耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)　・有り　・無し
適用箇所　：
・最小かぶり厚さに加える厚さ(mm)　：

○6　各部配筋　○ 図示　・　(5.3.7)

○7　ガス圧接接手　(5.4.10)

圧接完了後の圧接部の試験　※超音波探傷試験
・引張試験
試験方法等　・図示　・

8　機械式継手　(5.5.3)(5.5.5)

適用箇所　※図示　・
H12建告第1463号に適合する性能　・A級　・
種類　・ねじ式鉄筋接手
充填方式　・無機ｸﾞﾗｳﾄ方式　・有機ｸﾞﾗｳﾄ方式
・端部ねじ加工継手
・ﾓﾙﾀﾙ充填式継手
・
工法　※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき　※評定等の評価内容による
品質の確認　※評定等の評価内容による
検査　※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象　※全数
試験項目及び合否判定　※標準仕様書 表5.5.1～表5.5.3による　・評定等の評価内容による
・
不合格となった場合の措置　※標準仕様書5.5.6(1)(ｱ)～(ｳ)による　・図示
・
・超音波測定試験
試験対象　・抜取り
ロット　・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする。
・
試験の個所数　1ロットに対して（　　）箇所
・全数
試験項目　※挿入長さ
不合格となった場合の措置　・図示　・

9　溶接継手　(5.6.3)(5.6.5)

適用箇所　・図示　・
H12建告第1463号に適合する性能　・A級　・
溶接接手の工法　・図示　・
鉄筋相互のあき　・標準仕様書5.3.5(4)による　・評定書の評価内容による　・図示
・
施工完了後の溶接部の試験
・外観試験
試験対象　※全数
・超音波測定試験
試験対象　・抜取り
・標準仕様書5.6.5(ｲ)による
・
・全数

6章　コンクリート工事

○1　レディーミクストコンクリート製造工場

※Ⅰ類ｺﾝｸﾘｰﾄの製造工場は、全国生ｺﾝｸﾘｰﾄ品質管理監査会議が策定した統一品質管理基準に適合している品質管理監査合格工場(○適を取得した工場)から選定する。

○2　コンクリート種類　(6.2.1)

ｺﾝｸﾘｰﾄの種別
※　Ⅰ類(JIS A 5308への適合を認証されたｺﾝｸﾘｰﾄ)
・　Ⅱ類(Ⅰ類以外でJIS A 5308に適合したｺﾝｸﾘｰﾄ)

○3　コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度　(6.2.1)～(6.2.4)(6.3.2)(6.10.1)(6.10.3)

普通ｺﾝｸﾘｰﾄ

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ (cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所
○ 24	・18・15	2.3程度	構造区による
○ 21	・18・15		構造区による
○ 27	・18・15		構造区による

★印は構造体強度補正値(S)を適用しない
構造体強度補正値　※標準仕様書6.3.2による　・

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所
・	※21		・1種　・2種	
・				
・				

構造体強度補正値　※標準仕様書6.3.2による　・

○4　セメント　(6.3.1)

種類
※　普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種
普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ、28日目で402J/g以下のものとする。
適用箇所　：
・高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]
適用箇所　：
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種[G]
適用箇所　：
・

○5　骨材　(6.3.1)

ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分　※A　・B

○6　混和材料　(6.3.1)

○ 混和剤
種類　※標準仕様書6.3.1(4)(a)による　・
・混和材
種類　※標準仕様書6.3.1(4)(b)による　・

○7　寒中コンクリート　(6.11.1)(6.11.2)

適用期間　・図示
構造体強度補正値　・標準仕様書6.11.2(3)(ｱ)による　・積算温度による

○8　暑中コンクリート　(6.12.2)

ｽﾗﾝﾌﾟ　※21cm　・
構造体強度補正値　※標準仕様書6.12.4による　・

9 マスコンクリート (6.13.1)(6.13.2)

適用箇所 ※図示による ・

ｾﾒﾝﾄの種類 ・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉ｾﾒﾝﾄB種[G] ・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種[G] ・ｼﾘｶｾﾒﾝﾄ
・

混和材料 ・混和剤
種類 ※標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による ・
・混和材
種類 ※標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による ・

ｽﾗﾝﾌﾟ ※15cm ・

構造体強度補正値 ※標準仕様書表6.13.1による ・

○10 無筋コンクリート (6.14.1)

ｺﾝｸﾘｰﾄの種類 ※普通ｺﾝｸﾘｰﾄ ・
設計基準強度 ※18N/mm2 ・
ｽﾗﾝﾌﾟ ※15cm又は18cm ・
ｾﾒﾝﾄの種類 ※普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種
・高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種[G]
適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)による

11 流動化コンクリート (6.15.1)

適用箇所 ・図示による ・
空気量 ※4.5% ・

12 高流動コンクリート (6.16.1)

適用箇所 ※図示による ・
材料及び調合 ｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ ※図示による ・
空気量 ※4.5% ・
単位粗骨材かさ容積 ※0.500m3/m3以上 ・

○13 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)

打継ぎの位置 ※標準仕様書6.6.4(1)による ○図示
目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)による ○図示
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 ○図示

○14 構造体コンクリートの仕上り (6.2.5)

合板せき板を用いるｺﾝｸﾘｰﾄの打放し仕上げ

種別	適用箇所
○A種	外壁、内壁、庇、パラペット、袖壁
・B種	
・C種	

ｺﾝｸﾘｰﾄ仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
○a種	外壁、内壁、庇、パラペット、袖壁
○b種	その他
・c種	

15 打増し厚さ(打放し仕上げ部) (6.8.1)

○打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
○20mm ・
○打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm ○20mm

16 型枠 (6.8.2)

せき板の材料及び厚さ ○合板[G] (※12mm ・)
・断熱材を兼用した型枠材
使用箇所 ・図示 ・
・MCR工法用ｼｰﾄ
適用箇所 ・図示 ・
打増し厚さ ・20mm ・
打増し範囲 ・図示による ・

ｽﾘｰﾌﾞの材種・規格等 ※図示 ・

○17 ｺﾝｸﾘｰﾄの単位水量測定 (6.5.1)

○行う ・行わない

レディーミクストコンクリート単位水量測定要領
(1) 単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(ｲ)(c)による。
(3) 単位水量の管理目標値は次のとおりとして、施工する。
1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合は、そのまま施工する。
2) 測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生ｺﾝ製造者に改善を指示し、その運搬車の生ｺﾝは打設する。その後設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
3) 設計値±20kg/m³を超える場合は、生ｺﾝを打ち込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生ｺﾝ製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。さらに、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
4) 3)の不合格生ｺﾝを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4) 単位水量管理についての記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、ｺﾝｸﾘｰﾄ温度等)と写真により提出する。
(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子ﾚﾝｼﾞ法)、ｴｱﾒｰﾀ法又は静電容量測定法による。

18 ｺﾝｸﾘｰﾄ供試体の確認 (6.9.3)

ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄを使用する場合、現場で採取した圧縮強度試験の供試体は、次に示すA法又はB法により確認するものとする。

(1) A法
1) ｺﾝｸﾘｰﾄ供試体型枠に投入したときの写真撮影時には、型枠外面に供試体を特定できる番号、記号等を記載し撮影する。
2)供試体頭部硬化後、型枠外面に記載した番号、記号等と同一のものを頭部にも記載し、2箇所の番号、記号等が1枚の写真で良く分かるよう撮影する。ただし、撮影は型枠脱型前に行う。
(2) B法
1) 供試体型枠の側面内側にｸﾞﾘｰｽ塗布後所定の事項(立会者所属氏名、採取年月日、受入れ検査値(ｽﾗﾝﾌﾟ空気量、温度、塩化物ｲｵﾝ量等)、構造物及び規格、工事名等)を記入した市販のQC版等の供試体確認ｼｰﾙを貼付け、ｺﾝｸﾘｰﾄを打設する。
2) 強度試験を実施する前にQC版等の供試体確認ｼｰﾙにより、試料採取時と同一のものであることを確認する。

7章 鉄骨工事

○1 鉄骨の製作工場 (7.1.3)

※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
( )ｸﾗｽ以上
・監督員の承諾する製作工場

○2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (7.1.4)

・配置する ・配置しない

○3 鋼材 (7.2.1)(7.2.10)

種類等

種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格
構造図による		・JISによる ・
		・JISによる ・
		・JISによる ・
		・JISによる ・
		・JISによる ・
		・JISによる ・

板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験
・行う 適用箇所:
・行わない

○4 高力ボルト (7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.4.7)

ﾎﾞﾙﾄの種類 ○ﾄｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ ○JIS形高力ﾎﾞﾙﾄ ・
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等 ・図示 ・
JIS形高力ﾎﾞﾙﾄの締付け(本締め)
ﾅｯﾄ回転法の場合で、ﾎﾞﾙﾄの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・図示 ・
摩擦面の処理方法 ○標準仕様書7.4.2(1)による
・
・すべり試験の実施
・すべり係数試験 ・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.4.2(1)(ｲ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片により行うこと。

○5 普通ボルト (7.2.3)(7.3.2)(7.3.8)

ﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄの材料
○標準仕様書 表7.2.3による
・JIS B 1180(六角ﾎﾞﾙﾄ)及びJIS B 1181(六角ﾅｯﾄ)による
・JIS B 1180(六角ﾎﾞﾙﾄ)付属書JA(規定)及びJIS B 1181(六角ﾅｯﾄ)付属書JA(規定)による
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞｰｼﾞ等
・図示 ・
母屋又は胴縁の取付けに使用するﾎﾞﾙﾄの孔径
※ねじの呼び径+1.0mm ・

○6 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)

ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等 ・図示による ・
摩擦面の処理方法 ・ﾌﾞﾗｽﾄ処理(表面粗度50μmRz以上) ・りん酸塩処理 ・
・すべり試験の実施
・すべり係数試験 ・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(ｱ)又は(ｲ)による摩擦面の確認は、同一の作業条件のもとで作成した対比試験片により行うこと。

7 アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2)

○構造用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
種類 ・ABR400 ・ABR490 ○図示
・建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
種類 ・SS400 ・
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差域ｸﾗｽ及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による
・標準仕様書7.2.4以外のｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
適用箇所 ・図示 ・
種類 ・SS400
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差域ｸﾗｽ及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による
・
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等 ・図示 ・

○8 溶接材料 (7.2.5)

溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による。 ・

9 ターンバックル (7.2.6)

種類 建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト ・
建築用ターンバックル胴 ※割枠式 ・
ねじの呼び ・図示 ・

○10 床構造用のデッキプレート (7.2.7)(7.8)

材質、形状及び寸法

	適用箇所	材質、形状、寸法	備考
・ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ単独の構法			
○ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄとｺﾝｸﾘｰﾄとの合成ｽﾗﾌﾞとする構法		構造図による	
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む) ・図示 ・
鉄骨部材への溶接方法 ・図示 ・
耐火認定 ・有り
耐火時間 ・図示 ・
・無し

○11 スタッド (7.2.8)

種類等

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16	構造図による	
・19		
・22		

○12 柱底均しモルタル (7.2.9)

無収縮ﾓﾙﾀﾙとする場合の材料、調合等 ※標準仕様書7.2.9(2)(ｱ)から(ｴ)による
・

○13 製作精度 (7.3.3)

鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6[鉄骨精度検査基準]に加えて、次による
通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(2)による
・
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの寸法 ※H12建告第1464号第二号イ(3)による
・
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ」による
・

14 仮組 (7.3.10)

仮組を行う範囲 ・図示による ・

15 溶接作業における技能資格者の技量付加試験 (7.6.3)

溶接作業者の技量付加試験 ※行わない ・行う
試験の要領 ・図示

○16 溶接接合 (7.6.4)(7.6.7)

開先の形状 ○図示による ・
鋼製ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞを切断する部分
切断する箇所 ○図示 ・
切断範囲 ・鋼製ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞ、裏当て金等は、梁ﾌﾗﾝｼﾞの端から5mm以下を残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をﾌｨｰﾚ状に加工する。
・
切断面の仕上げ ・標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による ・
ｽｶﾗｯﾌﾟの形状 ・図示 ・
固形ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞの使用
固形ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞを使用する場合は、鉄骨製作工場に十分な実績があり、AW検定協会による代替ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞ技量認定資格者又は日本ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞ協会の実施する施工講習終了者(溶接技能者A級以上)が施工することとし、監督員の承諾を受けること。
低応力高ｻｲｸﾙ疲労をうける部位 ・有り
位置 ※図示 ・

○17 溶接部の試験 (7.6.12)

平12建告第1464号第二号に関する試験
試験の方法
・「突合せ溶接継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ」3.5.2 受入検査による
・抜き取り検査① ※抜き取り検査②
JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験
試験の方法
・JASS 6 10.4[受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)による。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、全て標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
完全溶け込み部の超音波探傷試験
※行う ・行わない
・工場溶接の場合
AOQL(%) ※4.0 ・2.5

節	・全て	・	・	・	・
検査水準	※第6水準	・	・	・	・

・工事現場溶接の場合 ※全て

○18 錆止め塗装 (7.8.2、4)(18.3.2)

塗装の範囲
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示 ・
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※標準仕様書7.8.2(1)(ｱ)～(ｴ)による ・図示
塗料の種別
・下記以外の鉄鋼面は、18章[鉄筋工事]による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※A種 ・
・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別
・

19 耐火被覆 (7.9.2)～(7.9.8)

種類、材料、工法等

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ		
	・半乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ		
	・湿式ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸ｶﾙｼｳﾑ板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ﾛｯｸｳｰﾙ		
	・		
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	―		
・耐火塗料	・		

○20 アンカーボルトの設置等 (7.10.3)

構造用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの形状及び寸法
○図示による ・
構造用ｱﾝｶｰﾌﾚｰﾑの形状及び寸法
○図示による ・
建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの形状及び寸法
・図示による ・
建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法
種別 ・A種 ・B種
柱底均しﾓﾙﾀﾙの厚さ及び上法の種別
厚さ ○50mm
種別 ※A種 ・B種

21 軽量形鋼構造 (7.11.2)

ﾎﾞﾙﾄの接合部 ・普通ﾎﾞﾙﾄ接合 ・

8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造 (8.2.2)(8.2.3)(8.2.5)(8.2.7)(8.2.8)

ﾌﾞﾛｯｸの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・				・無 ・有		
・				・無 ・有		
・				・無 ・有		

ﾓﾙﾀﾙの調合(容積比) ※表8.2.1による ・ｾﾒﾝﾄ ( ) : 砂 ( )
各部の配筋 ※図示 ・
目地仕上げ ・押し目地仕上げ ・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のﾌﾞﾛｯｸのﾓﾙﾀﾙ又はｺﾝｸﾘｰﾄで充填する範囲 ※図示

2 コンクリートブロック帳壁及び塀 (8.3.2)～(8.3.4)

ﾌﾞﾛｯｸの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・				・無 ・有		
・空洞ﾌﾞﾛｯｸC(16)				・無 ・有		
・型枠状ﾌﾞﾛｯｸ 20				・無 ・有		

ﾓﾙﾀﾙの調合(容積比) ※表8.2.1による ・ｾﾒﾝﾄ ( ) : 砂 ( )
塀に用いるﾌﾞﾛｯｸの正味厚さ(mm) 塀の高さが2m以下 ※120 ・
2m越え ※150 ・
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※図示 ・
各部の配筋 ※図示 ・

3 ALCパネル (8.4.2)～(8.4.5)

ALCﾊﾟﾈﾙの区分等

区分			単位荷重(N/mm2) 正荷重	負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火時間(時間)	構法の種別
・外壁用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・1	・A種 ・B種
・間仕切壁用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・1	・C種 ・D種 ・E種
・屋根用	―	―	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	―	―	・	―	・	図示による	・1 ・2	

ﾊﾟﾈﾙの相互の接合部に挿入する耐火目地材 ・
外壁、屋根ﾊﾟﾈﾙの工法
1章 適用区分による風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の耐風圧性能
外壁ﾊﾟﾈﾙ構法及び間仕切り壁ﾊﾟﾈﾙ構法における耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300mm未満とする場合 ・図示 ・
目地幅(mm)
(ﾊﾟﾈﾙ短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁ﾊﾟﾈﾙの出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合部並びにﾊﾟﾈﾙと他部材との取合い部) ※10～20 ・
外壁、間仕切り壁ﾊﾟﾈﾙの伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない

4 押出成形セメント板(ECP) (8.5.2)～(8.5.5)

ECPの種類等

ﾊﾟﾈﾙの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁ﾊﾟﾈﾙ	・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60 ・	※600	・A種	
	・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60	・	・B種	
	・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ	60			
・間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ	・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60 ・	※600	・B種	
	・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ	・50 ・60	・	・C種	
	・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ	60			

外壁ﾊﾟﾈﾙのT法における耐風圧性能
1章 適用区分による風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の耐風圧性能
外壁ﾊﾟﾈﾙ構法及び間仕切り壁ﾊﾟﾈﾙ構法における耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300mm未満とする場合 ※図示
ﾊﾟﾈﾙ相互の目地幅(mm)
・ﾊﾟﾈﾙ幅900mm以下 長辺( ) 短辺( )
・ﾊﾟﾈﾙ幅900mm超える 長辺( ) 短辺( )
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※15程度 ・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理 ※ﾊﾟﾈﾙ製造所の仕様
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。

		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のﾊﾟﾈﾙの残りの部分の幅
ﾊﾟﾈﾙに孔あけを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	150mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下
ﾊﾟﾈﾙに欠き込みを設ける場合	短辺	ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
	長辺	500mm以下	300mm以下

9章 防水工事

○1 アスファルト防水 (9.2.2)～(9.2.5)(表9.2.3)～(表9.2.9)

【屋根保護防水】
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材[G]	絶縁用ｼｰﾄ
・A-1			※ｽﾀｲﾛﾌｫｰﾑ厚さ0.15mm以上又はﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m2程度 ・
・A-2			
・A-3			
○B-1	屋根		
・B-2			
・A1-1		(種類) ※JIS A 9521に基づく押出法ｽﾀﾘﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(ｽｷﾝ層付き)	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m2程度 ・
・A1-2			
・A1-3			
・B1-1		(厚さ)(mm) ・	
・B1-2			

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.6による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・非露出単層防水用 ・非露出複層防水用
材料による区分 ※R種
厚さ(mm以上) :
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・露出単層防水用 ・露出複層防水用
材料による区分 ※R種
厚さ(mm以上) :
立上り部への断熱材及び絶縁ｼｰﾄ ※設置しない ・設置する
平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ こて仕上げ ※水下80mm以上
床ﾀｲﾙ張り ※水下60mm以上
立上りの保護工法
・乾式保護材(品質・性能、試験方法は別表による)
窯業系ﾊﾟﾈﾙⅠ類 厚さ(mm) :
幅(mm) :
・れんが押え
※JIS R 1250 ・
・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え
・ﾓﾙﾀﾙ押え(屋内)

【屋根露出防水】
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材[G]	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用[G]
・D-1			・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	・適用する
・D-2					・適用する
・DI-1		9.2.2(9)による 種類 : 厚さ(mm) :			・適用する
・DI-2					・適用する

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.8による
・JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・露出単層防水用 ・露出複層防水用
材料による区分 ※R種
厚さ(mm以上) :

【屋根露出防水】
防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材[G]	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用[G]
・D-1			・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様 ・	・適用する
・D-2					・適用する
・DI-1		9.2.2(9)による 種類 : 厚さ(mm) :			・適用する
・DI-2					・適用する

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.2.8による
・ JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・ ・
材料による区分 ※ R種
厚さ(mm以上) :
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.2.7及び表9.2.8による
・ JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・ ・ 露出複層防水用
材料による区分 ※ R種
厚さ(mm以上) :
絶縁断熱工法及びﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定 ・
設置数量 ※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定 ・ ( ) 個

【屋内防水】
防水層の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層 ・ 設ける
※ 図示
・ 設けない
E-1の工程３を行う部位 ※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位 ・
防水層の下地の立上り ※ ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ 標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種
・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 L-30×15×2.0mm程度 ・
防水層の下地のﾓﾙﾀﾙ塗り ・ 適用する
施工範囲 ※ 図示 ・
・ 適用しない
屋上排水溝 ※ 図示 ・

2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1)～(表9.3.3)

【屋根露出防水】
防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材[G]	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用[G]
・AS-T1				・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・AS-T2						・適用する
・AS-T3						・適用する
・AS-T4						・適用する
・AS-J1						・適用する
・ASI-T1		標準仕様書 9.3.2(3)(ｱ) 種類 :	・設ける (改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様) ・設けない			・適用する
・ASI-J1		厚さ(mm) :				・適用する

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.3.1及び表9.3.3による ・
・ JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・ 非露出単層防水用 ・ 非露出複層防水用
材料による区分 ※ R種
厚さ(mm) : ・
※ 標準仕様書表9.3.1及び表9.3.3による ・
・ JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・ 非露出単層防水用 ・ 非露出複層防水用
材料による区分 ※ R種
厚さ(mm) :
粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.3.2及び表9.3.3による
・ JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・ 非露出単層防水用 ・ 非露出複層防水用
材料による区分 ※ R種
厚さ(mm以上) :
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.3.2及び表9.3.3による
・ JIA A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・ 非露出単層防水用 ・ 非露出複層防水用
材料による区分 ※ R種
厚さ(mm以上) :
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法 ※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 L-30×15×2.0mm程度 ・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定 ・
設置数量 ※ ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定 ・ ( ) 個

3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2)～(9.4.4)(表9.4.1)～(表9.4.3)

防水層の種別

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材種	断熱材[G]	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水[G]
・S-F1				・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・S-F2						・適用する
・S-M1				・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・S-M2						・適用する
・SI-F1			標準仕様書 9.4.2(3)(ｴ)(b)(種類) (厚さ)(mm) ・	・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・SI-F2						・適用する
・SI-M1			標準仕様書 9.4.2(3)(ｴ)(a)(種類) ・ (厚さ)(mm) ・	・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・	・適用する
・SI-M2		※ 発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ ・				・適用する

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様 ※ 非歩行仕様 ・ 軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム ・ 設置する ・ 設置しない

【屋内防水】
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のﾓﾙﾀﾙ塗厚	保護層 立上がり部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗厚
・S-C1	・	・	※ 7mm以下 ・

平場のモルタル床塗りにおける目地の目地群および種類
目地割 ※ 目地割2m2程度、最大目地間隔3m程度 ・
目地の種類 ※ 押し目地 ・
合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による
・ JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類 :
厚さ(mm以上) :
固定金具の材質、形状及び寸法
※ 厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ｽﾃﾝﾚｽ鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの
・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
設置数量 ※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・ ( ) 個
接着工法の場合のﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地の目地処理
・ 行う
・ 図示 ・
・ 行わない
ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ部材の入隅部の増張り (種別S-F1、SI-F1の場合)
・ 行う
・ 図示 ・
・ 行わない
機械的固定工法の場合の一般部のﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの張付け
1章 適用区分による風圧力の (・1 ・) 倍の風圧力に対応した工法

○ 4 塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	高日射反射率防水[G]
○ X-1		・主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する
○ X-2		・主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・		・適用する
・Y-1	※ 地下外壁防水 ・				
・Y-2	※ 屋内防水 ・			・適用する ・ 保護ﾓﾙﾀﾙ ・ 保護ｺﾝｸﾘｰﾄ ・適用しない	

ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水X-1脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※ 主材料の製造所の仕様 ・
設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様 ・ ( ) 個

5 ケイ酸質系塗布防水 (9.6.4)(表9.6.1)

防水層の下地
壁 ※ ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ (表6.2.4 B種) ・
天井部 ※ ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ (表6.2.4 B種) ・
下地処理
ｺﾝｸﾘｰﾄの打継ぎ箇所の処理
※ 打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙを充填する。
・ 図示
・
標準仕様書9.6.4(2)の(ｲ)、(ｳ)以外の下地処理
・ 図示 ・

○ 6 シーリング (9.7.2)(9.7.3) (9.7.5)(表9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。
ただし、外壁ﾀｲﾙ接着剤張り目地の場合のｼｰﾘﾝｸﾞは11章に、ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ目地の場合のｼｰﾘﾝｸﾞは17章による

施工箇所	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(記号)
図示	

仕上げを行わない施工箇所 ・ 図示 ・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の目地寸法 ※ 標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
・ 図示
・
接着性試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 ・

10章 石工事

1 施工 (10.1.3)

石材の割付け ・ 図示

2 石材等 (10.2.1)(10.2.3)(表10.2.1)(表10.2.2)

天然石

施工箇所	岩石の種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		・ 図示 ・			

ﾌﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上げのﾍﾞﾌ仕上げの有無 ・ あり ・ なし

ﾃﾗｿﾞﾌﾞﾛｯｸ

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 1.5～12	・ 平もの ・ 役もの	・ 片面 ・ 両面			

ﾃﾗｿﾞﾀｲﾙ

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石 ・ 花こう岩	※ 1.5～12 0	・300型 ・400型			

その他の材料
取付け用ﾓﾙﾀﾙ ※ 専門工事業者の指定する製品 ・
既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ ※ 専門工事業者の指定する製品 ・
浸透性吸水防水剤 ※ 専門工事業者の指定する製品 ・
石裏面処理材 ※ 専門工事業者の指定する製品 ・
裏打ち処理材 ※ 専門工事業者の指定する製品 ・
ﾄﾞﾚﾝﾊﾞｲﾌﾟの材質 ※ 樹脂ﾈｯﾄ性ﾊﾟｲﾌﾟ ｸﾛｽﾒｯｼｭ巻き 25～36φ ・
金物の固定に使用する充填材料等 ※ 専門工事業者の指定する製品 ・

3 外壁湿式工法 (10.2.2)(10.2.3)(10.3.2)(10.3.3)

受金物
材質 ※ SUS304 ・
形状及び寸法 ・ 図示 ・
ｱﾝｶｰの材質及び寸法
材質 ※ SS400 ・
寸法 ・
あと施工ｱﾝｶｰの材質、寸法等
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
ﾄﾞﾚﾝﾊﾞｲﾌﾟ
・ 設ける
位置 ・ 図示
・ 設けない
石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない
裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない
下地ごしらえ ※ あと施工ｱﾝｶｰ・横筋流し工法 ・ あと施工ｱﾝｶｰ工法 ・ 流し筋工法

目地
一般目地

種別	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
※ ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による ・

伸縮調整目地
位置 ・ 図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類 ※ 標準仕様書表9.7.1による ・
目地寸法 ※ 幅・深さとも10mm以上 ・ 図示

4 内壁空積工法 (10.2.2)(10.4.2)(10.4.3)

受金物
材質 ※ SUS304 ・
形状及び寸法 ・ 図示 ・
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法等
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない
裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない
下地ごしらえ ※ あと施工ｱﾝｶｰ・横筋流し工法
・ あと施工ｱﾝｶｰ工法

一般目地

	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による ・

伸縮調整目地
位置 ・ 6m程度 ・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類 ※ 標準仕様書表9.7.1による ・
目地寸法 ・

5 外壁乾式工法 (10.2.2)(10.5.2)(10.5.3)(表10.2.4)

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
※ 標準仕様書表10.2.4による
方式 ・ ｽﾗｲﾄﾞ方式 ・ ﾛｯｷﾝｸﾞ方式
・ 図示
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法等
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
だぼ穴の位置 ※ 標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による ・ 図示
裏打ち処理 ・ 適用する ・ 適用しない
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法
1章 適用区分による風圧力の (※ 1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力に対応した工法
ｼｰﾘﾝｸﾞ材
種類 ※ 標準仕様書9章7節による ・
目地幅及び深さ ・

6 床及び階段の石張り (10.6.2)(10.6.3)

石材の厚さ(mm) 床 ( )、階段 ( )
浸透性吸水防水剤
床石張り ・ 適用する ・ 適用しない
石裏面処理
床石張り ・ 適用する ・ 適用しない
階段張り ・ 適用する ・ 適用しない
裏打ち処理
床石張り ・ 適用する ・ 適用しない
一般目地

	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※ 標準仕様書9.7.1による ・

伸縮調整目地
位置 ・ 標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)による ・ 図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類 ※ 標準仕様書表9.7.1による ・
目地寸法 ※ 幅・深さとも10mm以上 ・ 図示

7 笠木、甲板等の石張り (10.2.2) (10.7. 2)

取付工法 ・ 湿式工法 ・ 乾式工法
特殊部位用金物
材質 ※ SUS304 ・
寸法等
引金物 ※ 標準仕様書表10.2.3による ・
だぼ ※ 標準仕様書表10.2.3による ・
かすがい ※ 標準仕様書表10.2.3による ・
受金物 ※ 図示 ・
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
ファスナー ※ 標準仕様書表10.2.4に準ずる
方式 ・ ｽﾗｲﾄﾞ方式 ・ ﾛｯｷﾝｸﾞ方式
・ 図示
あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法等
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
石材の厚さ(mm)
石裏面処理 ・ 適用する ・ 適用しない
乾式工法の場合の取り付け代 ※ 70mm程度
石材の裏面の補強用ﾓﾙﾀﾙ ・ 適用しろ ・ 適用しない
一般目地

	目地幅(mm)	深さ(mm)	種類
・目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ	・		
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材	・	・	※ 標準仕様書表9.7.1による ・

伸縮調整目地
位置 ・ 標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)による ・ 図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類 ※ 標準仕様書表9.7.1による ・
目地寸法 ・ 図示

8 隔て板 (10.7.3)

石材の厚さ(mm)

11章 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)(表11.1.1)

位置 ※ 標準仕様書表11.1.1による ・ 図示
目地寸法 ・ 図示

2 見本焼き、試験施工 (11.1.4)

見本焼き ・ 行う
施工箇所 ・
・ 行わない
試験張り ・ 行う (範囲、仕様等は図示による) ・ 行わない

3 セメントモルタルによるタイル張り (11.2.2)(11.2.6)

ﾀｲﾙの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材の適用[G]	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
既調合ﾓﾙﾀﾙ (品質・性能、試験方法は別表による)
ﾓﾙﾀﾙ下地としたﾀｲﾙ工事に使用する張付け用ﾓﾙﾀﾙとして、ｾﾒﾝﾄ、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
既調合目地材 (品質・性能、試験方法は別表による)
下地ﾓﾙﾀﾙ塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理 ※ 目荒し工法(高圧水洗処理)
・ MCR工法
・
壁ﾀｲﾙ張りの工法
内外装ﾀｲﾙ ・ 密着張り ・ 改良積上げ張り
内装ﾀｲﾙ以外のﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ ・ ﾏｽｸ張り ・ ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り

4 有機系接着剤によるタイル張り (11.3.2)～(11.3.5)

ﾀｲﾙの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材の適用[G]	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施釉	うわぐすり 無釉	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装ﾀｲﾙ接着剤張りの接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※ F☆☆☆☆ ・
下地調整材塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の下地処理 ※ 目荒し工法(高圧水洗処理)
・ MCR工法
・
目地のｼｰﾘﾝｸﾞ材
打継ぎ目地 ※ ｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
ひび割れ誘発目地 ※ ｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
伸縮調整目地 ※ 変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
外装タイルの目地詰め ・ 行う ・ 行わない

12章　木工事

1　表面仕上げ　(12.1.4)

※ ﾌﾚｰﾅｰ加工仕上げ　適用部材(部位)　・図示　・
・ 超自動機械かんな掛け仕上げ　適用部材(部位)　・図示　・
・ ｻﾝﾀﾞｰ掛け仕上げ　適用部材(部位)　・図示　・

2　施工一般　(12.2.1)

材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※ 標準仕様書12.2.1(1)(9)による　・

3　製材[G]　(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

県産木材の適用がない場合でも可能な範囲で県産木材の使用に努めること
報告：静岡県産材証明制度の「県産材販売管理票」により報告すること

・ JAS 1083-5 に基づく下地用製材

施工箇所	樹種名	等級(材面の品質)	寸法(mm)	含水率	保存処理	県産木材の適用
		※ 2級　・		※ A種　・ B種　・		・ 有　・ 無
		※ 2級　・		※ A種　・ B種　・		・ 有　・ 無
		※ 2級　・		※ A種　・ B種　・		・ 有　・ 無

・ JAS 1083-2 に基づく造作用製材

施工箇所	樹種名	等級(材面の品質)	寸法(mm)	含水率	保存処理	県産木材の適用
見係面		※ 上小節 ・		※ A種　・ B種　・		・ 有　・ 無
見係面以外		※ 小節以上 ・		※ A種　・ B種　・		・ 有　・ 無

・ JAS 1083-6 に基づく広葉樹製材

施工箇所	樹種名	等級(材面の品質)	寸法(mm)	含水率	保存処理	県産木材の適用
		※ 1等 ・		※ 10%以下 ・ A種　・ B種		・ 有　・ 無
						・ 有　・ 無
						・ 有　・ 無

・ JAS 1083(製材)以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	県産木材の適用
		(　　) 造作材の場合 ※ A種　・ B種	・ 適用する ・ 適用しない	※ A種 ・ B種	・ 有　・ 無
					・ 有　・ 無
					・ 有　・ 無

4　造作用集成材[G]　(12.2.1)

・ JAS 1152 に基づく造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	見付け材面(面数)	寸法(mm)	見付け材面の品質	県産木材の適用
					※ 1等　・ 2等	・ 有　・ 無
						・ 有　・ 無
						・ 有　・ 無

・ JAS 1152 に基づく化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	寸法(mm)	見付け材面の品質	県産木材の適用
		化粧薄板： 芯材：				※ 1等 ・ 2等	・ 有 ・ 無
							・ 有 ・ 無
							・ 有 ・ 無

5　造作用単板積層材[G]　(12.2.1)(12.3.2)

・ JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質(表面の化粧加工)	防虫処理	県産木材の適用
			・ 無し(　・ 1等　・ 2等　・ 3等) ・ 有り(　・ 天然木化粧加工 ・ 塗装加工　　)	・ 適用する (　　) ・ 適用しない	・ 有 ・ 無
					・ 有 ・ 無
					・ 有 ・ 無

・ JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質(表面の化粧加工)	含水率	防虫処理	県産木材の適用
		・ 無し(　・ 1等　・ 2等　・ 3等) ・ 有り(　・ 天然木化粧加工 ・ 塗装加工　　)	※ 14%以下 ・	・ 適用する ・ 適用しない	・ 有 ・ 無
					・ 有 ・ 無
					・ 有 ・ 無

・ JAS 3079に基づく直交集成板[G]

施工箇所	品名	樹種名	強度等級(曲げ性能)	種別	接着性能(使用環境)	寸法(mm)	県産木材の適用
	・ 異等級構成直行集成板 ・ 同一等級構成直行集成板			・ A種構成 ・ B種構成	・ A ・ B ・ C		・ 有 ・ 無
							・ 有 ・ 無
							・ 有 ・ 無

6　合板等[G]　(12.2.1)(12.3.2)

・ JAS 0233に基づく普通合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	県産木材の適用
	※ 5.5 ・		※ 1類 ・ 2類	広葉樹　※ 2等以上　・ 針葉樹　※ C-D以上　・	・ 適用する (　　) ・ 適用しない	・ 有 ・ 無
						・ 有 ・ 無
						・ 有 ・ 無

・ JAS 0233に基づく構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	等級	板面の品質	曲げ性能(強度等級)	保存処理	防虫処理	県産木材の適用
	※ 12 ・	・ 特類 ・ 1類	・ 1級 ※ 2級以上	※ C-D以上 ・			・ 適用する (　　) ・ 適用しない	・ 有 ・ 無
								・ 有 ・ 無
								・ 有 ・ 無

※ 屋外又は常時湿潤状態となる場所に使用する場合は、接着の程度を特類とする

・ JAS 0233に基づく化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	県産木材の適用
			・ 1類　・ 特類	・ 適用する (　　) ・ 適用しない	・ 有 ・ 無
					・ 有 ・ 無
					・ 有 ・ 無

※ 屋外又は常時湿潤状態となる場所に使用する場合は、接着の程度を特類とする

・ JAS 0233に基づく天然木化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理
		・ 1類　・ 2類		・ 適用する (　　) ・ 適用しない

・ JAS 0233に基づく特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	表面性能	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・ 1類 ・ 2類	・ F ・ FW ・ W ・ SW		・ ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ ﾌﾟﾘﾝﾄ ・ 塗装 ・	・ 適用する (　　) ・ 適用しない

・ JIS A 5908に基づくﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ

施工箇所	種類	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	厚さ(mm)
			※ 13タイプ ・	※ Pﾀｲﾌﾟ又はMPﾀｲﾌﾟ ・	※ 15 ・

・ JAS 0360 に基づく構造用ﾊﾟﾈﾙ

施工箇所	寸法(mm)	曲げ性能(等級)　常態曲げ試験	湿潤曲げ試験
		・ 1級　・ 2級　・ 3級　・ 4級	・ 1級　・ 2級　・ 3級　・ 4級

・ JIS A 5905に基づくMDF

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)

7　接合具等　(12.2.2)(12.2.3)

造作材の化粧面釘打ち　※ 隠し釘打ち　・ つぶし頭釘打ち　・ 釘頭潰し
諸金物の形状、寸法及び材質
かすがい　※ 標準仕様書 表12.2.3に示す程度の市販品　・
座金　※ 標準仕様書 表12.2.4に示す程度の市販品　・
箱金物及び短冊金物　※ 標準仕様書 表12.2.5に示す程度の市販品　・
接着材
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※ F☆☆☆☆　・

8　防腐・防蟻・防虫処理等　(12.3.1)(12.3.2)

・ 工場における薬剤の加圧注入等
・ 標準仕様書12.3.1(7)(a)による加圧注入

適用部材(部位)	保存処理性能区分
	・ K2　・ K3　・ K4　・
	・ K2　・ K3　・ K4　・
	・ K2　・ K3　・ K4　・

・ 標準仕様書12.3.1(7)(b)による加圧式保存処理
保存処理の性能　ｲﾝｻｲｼﾞﾝｸﾞ　・ 適用する　・ 適用しない
・ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材(部位)	処理の方法	薬剤の種類
	・ JIS K 1571に適合する表面処理用木材保存剤又は同等品 ・ JIS K 1571に付属書Aに基づく表面処理用木材保存剤（種類：　　）	※ 薬剤の製造所の仕様による ・

・ 合板、集成材、単板積層材の薬剤注入等による防腐・防蟻処理
適用部材(部位)　・ 図示　・

9　不燃処理木材等　(12.3.3)

不燃材料　適用部材(部位)　・ 図示　・
準不燃材料　適用部材(部位)　・ 図示　・
難燃材料　適用部材(部位)　・ 図示　・

10　内部間仕切軸組及び床組み　(12.4.1)

・ 間仕切軸組に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ 杉または松　・
・ 床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ 杉または松　・
・ 土間ｽﾗﾌﾞの類いの場合の土台、転ばし大引き及び転ばし根太
※ ひのき又は保存処理木材　・

11　窓、出入口その他　(12.5.1)

・ 窓、出入口その他に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ 吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉

12　床板張り

・ 縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）　(12.6.1)
※ 桧　・

13　壁及び天井下地

・ 壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ 杉又は松　・　(12.7.1)

13章　屋根及びとい工事

1　長尺金属板葺　(13.2.2)(12.2.3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※ JIS G 3322の屋根用 着色　・ 有　・ 無 ・	・ 5類(AZ150) ・	・ 0.4 ・ 0.5	・ 心木なし瓦棒葺 ・ 立平葺 ・ 蟻掛葺 ・ 横葺 ・	

下葺材料　・ ｱｽﾌｧﾙﾄｰﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940
・ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｰﾙｰﾌｨﾝｸﾞ下葺材
・ 一般ﾀｲﾌﾟ　・ 粘着層付ﾀｲﾌﾟ
工法
1章 適用区分による風圧力の(　・ 1　・ 1.15　・ 1.3　)倍の風圧力に対応した工法
横葺の場合のけらば納め　・ つかみ込め納め　・ けらば包み納め
雪止め　・ 設置する
形状及び施工箇所　・ 図示　・
・ 設置しない

○ 2　折板葺　(13.3.2)(13.3.3)（表13.2.1）

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分　山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
屋根	・ 重ね形 ○ はぜ締め形 ・ かん合形	166	500	(　　)種	○ 鋼板性 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板性	0.8・0.6	○ あり ・ なし	・ ・

※ JIS A 6514のうち、5.3 及び 5.4 は適用しない
材料
折板の材質の種類　○ JIS G 3322の屋根用
着色　○ 有　・ 無
・
塗装の耐久性の種類、めっき付着量　・ 5類(AZ150)　・
断熱材張り　・ 行う
断熱材の種別　：
厚さ(mm)　：
防火性能　：
・ 行わない
工法
1章 適用区分による風圧力の(　・ 1　・ 1.15　・ 1.3　)倍の風圧力に対応した工法
耐雪性能に対応した工法の適用　・ 適用する
※ 図示　・
・ 適用しない
折半のけらば納め　※ けらば包みによる方法　・
雪止め　・ 設置する
形状及び施工箇所　・ 図示　・
・ 設置しない

○ 3　粘土瓦葺　(13.4.2)(13.4.3)

施工箇所	種類　製法による区分	形状による区分	寸法による区分	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
屋根	釉薬瓦	J形	49A			・ 適用する ・ 適用しない
						・ 適用する ・ 適用しない

JIS A 5208に基づく凍害試験等　・ 行う　・ 行わない
瓦桟木　材質　※ 杉　・
寸法　※ 幅21×高さ15(mm)以上　・
棟補強用心材　材質　※ 杉　・
寸法　※ 幅40×高さ30(mm)以上　・
瓦緊結用釘及びねじ
種類　：
径　：
長さ　：
棟補強等に使用する金物等
材質　・ ステンレス製　・ 溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法　※ 図示による　・
工法
1章 適用区分による風圧力の(　・ 1　・ 1.15　・ 1.3　)倍の風圧力に対応した工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等　※ 図示　・
瓦桟木の留付け工法　※ 図示　・
棟の工法　・ 7寸丸伏せ棟
・ F型用冠瓦伏せ棟
・ のし積み棟
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・ ﾓﾙﾀﾙ　・ 瓦葺き用しっくい　・

○ 4　とい　(13.5.2)(13.5.3)

といその他の材種　・ 配管用鋼管
・ 硬質ｻﾞﾗ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　○ ｽﾃﾝﾚｽ
○ ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ
○ 表面処理鋼板
・ 表面及び裏面の塗膜の種類　：
・ 耐酸被覆鋼板　：
という受金物　材種　※ 標準仕様書13.5.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状　※ 市販品（とい径100以下）
・ 25x4.5(mm)以上（とい径100を超えるもの）
・
取付間隔　※ 標準仕様書13.5.2による　・
足金物　材種　※ 標準仕様書13.5.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状　※ 市販品
取付間隔　※ 標準仕様書13.5.2による　・
多雪地域　・ 適用する　・ 適用しない
防露材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※ F☆☆☆☆　・
鋼管製といの防露巻き　※ 標準仕様書表13.5.4による　・
ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝの材種その他

種別		呼び				施工箇所
○ ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ ねじ込み式	・ 80	○ 100	・ 125	・ 150	
○ ろく屋根用横形Ⅰ型	※ ねじ込み式	・ 80	○ 100	・ 125	・ 150	
○ ﾊﾞﾙｺﾆｰ中継用	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	○ 100		
	・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100		
・ ﾊﾞﾙｺﾆｰ	・ ねじ込み式	・ 50	・ 80	・ 100		
	・ 差し込み式	・ 50	・ 75	・ 100		

14章　金属工事

○ 1　アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　(14.2.1)（表 14.2.1）

種別	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）	色合い等
・ AB-1種		
・ AB-2種		
・ AC-1種		
・ AC-2種		
・ BA-1種		
・ BA-2種		
・ BB-1種		
・ BB-2種		
・ BC-1種		
・ BC-2種		
・ C種		

・ 常温乾燥形の塗装の場合　(　　)
陽極酸化皮膜の着色方法　※ 二次電解着色　・ 三次電解着色

○ 2　鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、ﾀﾗｯﾌﾟ以外）
○ 溶融亜鉛めっき	・ A種	
	○ B種	図示
	・ C種	
・ 電気亜鉛めっき	・ D種	
	・ E種	
	・ F種	

3　軽量鉄骨天井下地　(14.4.2)～(14.4.4)(表14.4.1)

野縁等の種類
屋外　※ 25形　・ 19形
屋内　※ 19形　・ 25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、吊りﾎﾞﾙﾄ及びｲﾝｻｰﾄの間隔　・ 図示　・
周辺部の端からの間隔　・ 図示　・
野縁の間隔　・ 図示　・
工法
・ 吊りﾎﾞﾙﾄの間隔が900mmを超える場合
補強方法　※ 図示　・
・ 天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　※ 図示　・
・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　・ 図示　・
補強方法　※ 図示　・
耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
屋外の軒天上、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の(　・ 1　・ 1.15　・ 1.3　)倍の風圧力に対応した工法

4　軽量鉄骨壁下地　(14.5.3)(14.5.4)(表14.5.1)
ｽﾀｯﾄﾞ、ﾗﾝﾅ等の種類　※標準仕様書表14.5.1によるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類
・図示
・
ｽﾀｯﾄﾞの高さが5.0mを超える場合　※図示　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※標準仕様書14.5.4(5)による　・図示

5　金属成形板張り　(14.6.2)(14.6.3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理	
					種別	色合い等
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・押出し ・ﾛｰﾙ	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形				
	・ﾌﾟﾚｽ ・	ﾊﾟﾈﾙ形				
・						

取付け用下地　※標準仕様書14.4による　・図示
伸縮調整継手　・設ける
施工箇所　・図示　・
・設けない
屋外の軒天上、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の(　※1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

○6　アルミニウム製笠木　(14.7.2)(14.7.3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)
種類　○ 200形　・300形　・350形
笠木本体　※押出部材　・
表面処理
種別 (　B　)種
色合等　○ 標準色(　　)　・特注色(　　)
笠木の固定金具の工法等
1章 適用区分による風圧力の(　※1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

15章　左官工事

○1　モルタル塗り　(15.3.2)(15.3.5)
ﾓﾙﾀﾙ　・現場調合材料　・既調合材料(　　)
既製目地材　・設ける　施工箇所　:
形状　※図示　・
・設けない
床目地　○ 設ける
種類　※押し目地　・
目地割　※2m程度（最大目地間隔3m程度）　・
・設けない
屋外ﾀｲﾙ張り下地、屋内の吹抜け部分等のﾀｲﾙ張りの下地ﾓﾙﾀﾙ塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する　・適用しない
防水剤　品質・性能、試験方法は別表による

2　ラス系下地　(15.2.4)
下地の種類
・通気構法　(・二層下地　・単層下地　)
換気口部の措置　(※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3(2)(ｳ)　・　)
・直張り工法　(・ﾗｽﾓﾙﾀﾙ下地　・ﾗｽｰﾄﾓﾙﾀﾙ下地　)
換気口部の措置　(※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3(2)(ｳ)　・　)
・外張断熱工法で断熱材の外側に野縁を金施工する形式の通気構法　・図示
・耐力壁、防火構造、準防火構造等の指定
材料
ﾗｽ材及び補強用ﾗｽ
材料記号　(※K　・　)
種類及び単位面積あたりの質量
・二層下地通気構法
・波形ﾗｽ(W700)　・こぶﾗｽ(K800)　・力骨付きﾗｽ(BP700)
・単層下地通気構法
※ﾀﾃﾞﾗｽC(RC800)に裏打ち材と一体型したﾗｽ　・
・
ﾗｽｰﾄの山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
※JIS(建築基準法に基づく耐力壁)　・
ｽﾃｰﾌﾟﾙの形状及び寸法
ﾘｯﾌﾟﾗｽC　※JIS1925TS以上　・
波形ﾗｽ　※JIS1019JS以上　・
施工
直張りﾗｽｰﾄﾓﾙﾀﾙ下地で建築基準法に基づく耐力壁のﾗｽｰﾄの施工
・図示　・

3　せっこうボード、その他のボード下地　(15.2.5)
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ及びせっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞの種類及び厚さ
種類　・GB-R　・GB-L　・
厚さ(mm)　:
木質系ｾﾒﾝﾄ板の種類及び厚さ
種類　・
厚さ(mm)　:

4　こまい下地　(15.2.6)
建築基準法に基づく耐力壁の指定　・あり　・なし

5　木ずり下地　(15.2.7)
木ずり用小幅板の種類　※杉(芯去り材)　・

6　仕上塗材仕上げ　(15.6.2)
内装仕上げに用いる素材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・
仕上塗材の種類
・薄付け仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・			・適用する	
・			・適用する	

・厚付け仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り	防火材料
・			・適用する	・適用する	
・			・適用する	・適用する	

・複層仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・			樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候型 1種 ・耐候型 2種 ・耐候型 3種	
・					

・軽量骨材仕上塗材

種類(呼び名)	防火材料
・	
・	

7　マスチック塗材塗り
種別　標準仕様書15.7.2による

8　しっくい塗り　(15.10.2)(15.10.3)
しっくい　・既調合材料
色しっくい　・適用する　・適用しない
・現場調合材料
下地　・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ　・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ　・ﾓﾙﾀﾙ塗り　・木ずり
・こまい土壁塗り　・下塗りをせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰとし上塗りに使用する場合
・
既調合しっくいの調合
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ下地　※標準仕様書表15.10.1　・
・ﾓﾙﾀﾙ塗り下地　※標準仕様書表15.10.2　・
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ下地　※製造所の仕様による　・
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地　※標準仕様書表15.10.3　・
・せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ下地、こまい下地　※標準仕様書表15.10.4　・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・押え仕上げ　・なで切り仕上げ　・ﾊﾟﾀｰﾝ仕上げ

9　こまい壁塗り　(15.11.2)～(15.11.5)(15.11.7)(15.11.8)
のり　・土壁用ののり
※つのまた　・ふのり　・ぎんなんそう　・粉末海藻　・
・砂壁用ののり
・つのまた　※ふのり　・こんにゃくのり　・にかわ　・合成樹脂系混和材
色土　・土物仕上げに用いる色土の種類(　　)
・大津仕上げに用いる色土の種類(　　)
色砂の種類　・天然砂と岩石の砂砂　・人工的に着色、製造したもの
下塗りの調合　※標準仕様書表15.11.2　・
塗厚　※標準仕様書表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合(　　)
・
こまい壁の工程　※A種　・B種
こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物1工法　・水ごね土物2工法　・のりさし土物工法　・のりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・普通大津仕上げ工法　・大津みがき仕上げ工法
ちりじゃくり
・図示　・

10　ロックウール吹付け　(15.12.2)(15.12.3)
ﾛｯｸｳｰﾙのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・
仕上げ吹付け厚さ(mm)　・図示　・25　・

16章　建具工事

○1　防火戸　(16.1.3)
○ 建具表による　・

2　見本の製作等　(16.1.4)
建具見本の製作　・行う　建具符号　:
・行わない
建具見本の目的等　・
特殊な建具の仮組　・行う　建具符号　:
・行わない

3　防犯建物部品　(16.1.6)
・適用する　(　**適用箇所**　・建具表による　・　　)
・適用しない

○4　アルミニウム製建具　(16.2.2)(16.2.4)(16.2.5)(表14.2.1)(表16.2.1)(表16.2.2)
性能値等(建具符号、枠の見込み寸法は建具表による)
耐風圧性等級、機密性等級、水密性等級
※外部に面する建具の種別は標準仕様書 表16.2.1、表16.2.2による
・A種　○ B種　・C種　・D種　・E種
・
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・
材料
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　※SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※HL

形状および仕上げ
表面処理
外部に面する建具　種別　・BB-1　・BB-2　(表14.2.1)
着色　○ 標準色　・特注色
屋内の建具　種別　・BC-1　・BC-2　(表14.2.1)
着色　○ 標準色　・特注色
結露水の処理方法　・図示　・
工法
水切り、ぜん板　※図示　・
木下地の場合の内付け家具　・適用しない　・適用する(建具の製造所の仕様)

○5　網戸等　(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
○ 防虫網	※合成樹脂製 ・ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製 ○ ｽﾃﾝﾚｽ (SUS316) 製	※0.25mm以上 ・	・16ﾒｯｼｭ～18ﾒｯｼｭ
・防鳥網	ｽﾃﾝﾚｽ (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法　15mm

6　樹脂製建具　(16.2.5)(16.3.2)～(16.3.5)(表16.3.1)～(表16.3.3)
性能値等(建具符号、枠の見込み寸法は建具表による)
耐風圧性等級、機密性等級、水密性等級
※外部に面する建具の種別は標準仕様書 表16.2.1、表16.2.2による
・A種　・B種　・C種　・D種　・E種
・
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・T-1　・T-2
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
※外部に面する建具の種別は標準仕様書 表16.2.3による
断熱性の等級　・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8
・
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・
材料
ｶﾞﾗｽ　※複層ガラス(組合せは建具表による)　・
ｽﾃﾝﾚｽ製くつずりの仕上げ　※HL　・
形状および仕上げ
表面色　・標準色　・特注色
工法
水切り、ぜん板　※図示　・
木下地の場合の内付け家具　・適用しない　・適用する(建具の製造所の仕様)

○7　鋼製建具　(16.2.2)(16.4.2)～(16.4.4)(表16.4.2)
性能値等(建具符号は建具表による)
外部に面する鋼製建具の耐風圧性　○ S-4　・S-5　・S-6
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄの気密性等級、水密性等級　・標準仕様書 表16.4.1　・
耐震ﾄﾞｱ
面内変形追従性の等級　・
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・
材料
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　※SUS304,SUS430JIL又はSUS443JI
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※HL　・
点検口の類いくつずりの材料　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ　※標準仕様書表16.4.2による
・
使用箇所　・図示
・
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※建具表による

8　鋼製軽量建具　(16.2.2)(16.5.2)～(16.5.4)
性能値等(建具符号は建具表による)
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄの気密性等級　・A-3　・
耐震ﾄﾞｱ
面内変形追従性の等級　・
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・
材料
鋼板　・亜鉛めっき鋼板　・ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼板　・ｶﾗｰ鋼板　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・
召合わせ、縦小口包み板の性質　※鋼板
戸の心材　防音性能を求める戸
防音充填剤　・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ　・ﾛｯｸｳｰﾙ　・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※HL
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ(mm)　※標準仕様書表16.5.1による
・
使用箇所　・図示
・

9　ステンレス製建具　(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2)～(16.6.5)
性能値等(建具符号は建具表による)
外部に面する鋼製建具の耐風圧性　・S-4　・S-5　・S-6
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄの気密性等級、水密性等級　・標準仕様書 表16.4.1　・
耐震ﾄﾞｱ
面内変形追従性の等級　・
防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
遮音性の等級　・
断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ[G]
断熱性の等級　・建具表による　・
材料
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　※HL
耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
形状及び仕上げ
表面仕上げ　※HL　・鏡面仕上げ
工法
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

10　木製建具　(16.7.2)～(16.7.4)
建具材の加工、組立時の含水率　※A種　・B種
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※F☆☆☆☆　・標準仕様書16.7.2(2)(ｲ)(a)による
・ﾌﾗｯｼｭ戸
表面材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量等　※標準仕様書16.7.2(2)(ｲ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板[G]	表面の樹種　・ 板面の品質　※広葉樹1等　・ 接着の程度　※水掛り箇所1類、その他2類　・	
・天然木 化粧合板[G]	樹種名　・ 接着の程度　※水掛り箇所1類、その他2類　・	
・特殊加工化粧合板[G]	化粧加工の方法 ・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ化粧合板 ・ﾒﾗﾐﾝ化粧合板　・ 接着の程度　※水掛り箇所1類、その他2類　・	
・MDF[G]	表裏面の常態による区分　・ 曲げ強さによる区分　・ 接着材による区分　・ 難燃性による区分　・	

表面板の厚さ　※表16.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　・適用する　・適用しない
・かまち戸
かまち樹種　・
鏡板樹種　・
見込み寸法　※36mm　・建具表による
・ふすま
張りの種別　・Ⅰ類　・Ⅱ類
上張り(押入等の裏側以外)　・鳥の子　・新鳥の子又はﾋﾞﾆﾙ紙程度
縁仕上　・塗り縁　・生地縁(素地)　・生地縁(ｸﾘﾔﾝｸﾘﾔｰ塗装)
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
枠、くつずりの材料　・建具表による　・

○11　建具用金物　(16.8.2)(16.8.3)(表16.8.1)～(表16.8.5)
金物の種類及び見え掛り部の材質等
※標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※標準仕様書表16.8.2による　・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※標準仕様書表16.8.3による　・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※標準仕様書表16.8.4による　・建具表による
木製建具に使用する戸車及びﾚｰﾙ　※標準仕様書表16.8.5による　・建具表による
握り玉及びﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、押板類、ｸﾚｾﾝﾄの取付位置　・建具表による　・
ｼﾘﾝﾀﾞ錠錠及びｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠（品質・性能、試験方法は別表による）
ｸﾛｰﾃﾞ類（品質・性能、試験方法は別表による）

○12　鍵　(16.8.4)
ﾏｽﾀｰｷｰ　○ 製作する　・製作しない　(1期工事と共通とする)(鍵の仕様 美和ロック)
その他の鍵の製作本数　※各室3本1組（室名札付き）
鍵箱　※有　・無

13　自動ﾄﾞｱ開閉装置　(16.9.2)(16.9.3)
戸の開閉方式　・建具表による　・
自動ﾄﾞｱ開閉装置の性能
駆動装置の性能
※引き戸用駆動装置の場合、標準仕様書表16.9.1による
防錆　・適用する　・適用しない
・
車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置の性能
※標準仕様書表16.9.2による
防錆　・適用する　・適用しない
・
検出装置の種類
※引き戸用駆動装置の場合、標準仕様書表16.9.3による
防錆
・
引き戸用検出装置の種類(標準仕様書表16.9.4)
種類　・光線(反射)ｾﾝｻｰ　・熱線ｾﾝｻｰ　・音波ｾﾝｻｰ
・光電ｾﾝｻｰ　・電波ｾﾝｻｰ
・ﾀｯﾁｽｲｯﾁ(　・無線式ﾀｯﾁｽｲｯﾁ　・光電式ﾀｯﾁｽｲｯﾁ　)
・押しﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ
・車椅子使用者用便房用操作ｽｲｯﾁ
(　・大形(開・閉)押しﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ　・非接触ｽｲｯﾁ　)
凍結防止措置　・行う　・行わない

○14　自閉式上吊り引戸装置　(16.10.3)(表16.10.1)
性能　※標準仕様書表16.10.1による
・図示

○15　重量シャッター　(16.11.2)(16.11.3)
ｼｬｯﾀｰの種類　・管理用ｼｬｯﾀｰ　○ 外壁用防火ｼｬｯﾀｰ　・屋内用防火ｼｬｯﾀｰ　・防煙ｼｬｯﾀｰ
外壁開口部に設ける重量ｼｬｯﾀｰの耐風圧強度(pa)　・
開閉方式の種類　※電動式(手動併用)　・手動式
安全装置
電動式ｼｬｯﾀｰの急降下制御装置、急降下停止装置
設置箇所　○ 建具表による
電動式ｼｬｯﾀｰの障害物感知装置
設置箇所　・建具表による
屋内用防火ｼｬｯﾀｰ若しくは防煙ｼｬｯﾀｰの危害防止装置
設置箇所　・建具表による
管理用ｼｬｯﾀｰのｼｬｯﾀｰｹｰｽ　・設ける　○ 設けない
ｽﾗｯﾄ及びｼｬｯﾀｰｹｰｽ用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼及び鋼帯)
めっきの付着量　※Z12またはF12　・
ｶﾞﾗﾞﾚｰﾙ、まぐさ、雨掛かりに用いる座板及び座板ｶﾊﾞｰ、雨掛かりに用いるｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ類の蓋の材質
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　※SUS304、SUS430JIL又はSUS443JI　・

○ 16　軽量シャッター　(16.12.2)(16.12.3)(16.12.4)

開閉方式の種類　※ 手動式　○ 電動式(手動併用)
耐風圧強度(pa)　・
安全装置(電動ｼｬｯﾀｰ)
　急降下制御装置、急降下停止装置
　　設置箇所　○ 建具表による
　障害物感知装置
　　設置箇所　○ 建具表による
ｽﾗｯﾄの材質の種類　・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
　　めっきの付着量　※ Z06またはF06　・
　・JIS G 3322(塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑｰ亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
　　めっきの付着量　※ AZ90　・
ｽﾗｯﾄの形状　・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形　・ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾌﾟﾝｸﾞ形

○ 17　オーバーヘッドドア　(16.13.2)(16.13.3)

ｾｸｼｮﾝ材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙの材料
※ ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ﾌｨｯﾍﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・50 ・75 ・100 ・125	※ ﾊﾞﾗﾝｽ式 ・ﾁｪｰﾝ式 ・電動式	・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 ・ﾛｰﾍｯﾄﾞ形 ・ﾊｲﾘﾌﾄ形 ・ﾊﾟｰﾁｶﾙ形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

電動式ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱの障害物感知装置　設置箇所　○ 建具表による

○ 18　ガラス　(9.7)(16.14.2)～(16.14.4)(図16.14.1)

板ｶﾞﾗｽ

種類	原さ等	その他
○ ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	
○ 型板ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	
・網入板ｶﾞﾗｽ及び線入り板ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	
・合わせｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	落球衝撃はく離特性及びｼｮｯﾄﾍﾞｯｸ衝撃特性による種類 ・Ⅰ類　・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類
・強化ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	破片の常態及びｼｮｯﾄﾍﾞｯｸ衝撃特性による種類 ・Ⅰ類　・Ⅲ類
・熱線吸収板ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	性能による分類　・1類　・2類
・複層ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	断熱性による区分 ・T1　・T2　・T3　・T4　・T5　・T6 日射取得性及び日射遮蔽性による区分 ・G　・S 乾燥気体の種類　・空気　・ｱﾙｺﾞﾝ
・熱線反射ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	日射遮蔽性による区分　・1種　・2種　・3種 耐久性による区分(日射熱遮蔽性による区分が2種の場合) ・A種　・B種
・倍強度ｶﾞﾗｽ	※ 建具表による	

ｶﾞﾗｽの留め材及び溝の大きさ　(16.14.2)(表9.7.1)

建具の種類	ｶﾞﾗｽ留め材	ｶﾞﾗｽ溝の大きさ(mm)
ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	○ ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ※ ｸﾞﾚｰｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ ・	※ 建具製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	○ ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・	※ 建具製造所の仕様による ・
ｽﾃﾝﾚｽ製	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・	※ 建具製造所の仕様による ・
樹脂製	※ ｸﾞﾚｰｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ ・	※ 建具製造所の仕様による ・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ｶﾞﾗｽの切断、小口処理
　ｶﾞﾗｽ端部で枠にのみ込まない部分の小口処理　・建具表による

19　ガラスブロック　(16.14.5)

表面形状	呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調 ｸﾘｱ	色調 乳白	目地幅 平積み	目地幅 曲面積み	伸縮調整目地位置(mm)
正方形	・160×160	・#	・	・	※ 8～15	外側 ※ 15以下	※ 6m以下ごとに幅10～25mm
	・200×200	・#	・	・	・	・	・図示
			・	・		内側 ※ 6以上	・
長方形	・		・	・			
	・		・	・			

壁用金属枠及び補強材　※ 図示
力骨
　材質　※ ｽﾃﾝﾚｽ鋼 (SUS304)　・
　寸法　※ 径5.5mm　・
　形状　※ はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地ﾓﾙﾀﾙの色　・白　・ｸﾞﾚｰ
ｼｰﾘﾝｸﾞの種類　・SR-1　・PS-1
金属製化粧ｶﾊﾞｰ
　材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
　寸法　※ 図示　・
　形状　※ 図示　・
木下地の場合のﾌﾟﾗﾝｶﾞ等の取り付け間隔　・図示
目地部の横力骨の納まり　※ ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ製造所の仕様による　・図示　・
工法　1章 適用区分による風圧力の(　・1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法

17章　カーテンウォール工事

1　取付方法、性能等　(17.1.3)

耐風圧性	耐震性 水平方向(kH)	耐震性 垂直方向(kH)	水密性	気密性	耐火性	耐温度差性(℃)	遮音性	断熱性
	・1 ・	・1 ・			・30分間 ・1時間	・# ・# ・#		

耐風圧性　1章 適用区分による風圧力(　・1　・1.15　・1.3　)倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能(ｶﾞﾗｽを除く)

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m 以下	・たわみ量が±(1/150)×hかつ絶対量 20mm 以下であること ・
4m を超える	・

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
性能の確認方法及び判定方法
　※ 性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督員の承諾を受ける

2　メタルカーテンウォール　(17.2.2)(17.2.3)(17.2.5)(17.2.6)

金属系材料の種類　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ材　・鋼材　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼材
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(目地等)
　種類及び寸法等　※ 図示
ｶﾞﾗｽの取付け材料　・ｼｰﾘﾝｸﾞ
　　種類　・SR-1　・SR-1
　・構造用ｶﾞｽｹｯﾄ
　　形状・寸法等　※ 図示
断熱材[G]
　種類　・
　厚さ(mm)　・
　施行箇所　※ 図示　・
形状及び仕上げ
　製品の寸法許容差　※ 標準仕様書表17.2.1による
　製品の見え掛かり部の仕上げ
　　(ｱﾙﾐﾆｳﾑ材の場合)
　　規格等　標準仕様書16.2.3による
　　種別　(標準仕様書14.2.1)
　　着色　・標準色　・特注色
　　(鋼材及びｽﾃﾝﾚｽ鋼材の場合)
　　・
　ｶﾞﾗｽ溝の寸法、形状　※ ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙの製造所の仕様　・
取付け
　躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
　　鉛直方向　※ ±10mm　・
　　水平方向　※ ±25mm　・
　ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ部材の取付け位置の寸法許容差
　　目地の幅　※ ±3mm　・
　　目地の心の通り　※ 2mm　・
　　目地の両面の段差　※ 2mm　・
　　各階の基準墨から各部材までの距離　※ ±3mm　・
　耐火処理
　　適用部位、材料等　※ 図示
ｶﾞﾗｽの取付け材料
　ｶﾞﾗｽの取付け材料がｼｰﾘﾝｸﾞの場合のｶﾞﾗｽの支持方法　※ 4辺支持　・

3　PCカーテンウォール　(17.3.2)～(17.3.5)(表17.3.1)(表17.3.2)

材料
　ｺﾝｸﾘｰﾄ
　　種類　・普通ｺﾝｸﾘｰﾄ　・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ1種　・
　　品質　設計基準強度Fc　※ 30N/mm2　・
　　ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 12cm
　　気乾単位容積質量　・普通ｺﾝｸﾘｰﾄの場合 2.1t/m3を超え2.5t/m3以下
　　・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの場合 1.8t/m3～2.1t/m3
　　・
　　単位水量の最大値　※ 185kg/m3　・
　鉄筋　種類の記号　※ SD295　・
　補強鉄線　径 (mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
　　網目寸法　・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材(ｶﾞﾗｽの取付けは除く)

被着体の組合せ	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類 記号	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類 主成分による区分

ｶﾞﾗｽの取付材料　・構造ｶﾞｽｹｯﾄ
　　形状・寸法等

耐火処理　適用部位、材料等　※ 図示
断熱材[G]　種類　・
　厚さ(mm)　・
　施行箇所　※ 図示　・
先付けの材料　・表面仕上材
　　・ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ　・石材
　　・建具枠
　　・ｺﾞﾝﾄﾞﾗ用ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ
形状及び仕上げ
　製品の見え掛り部の寸法許容差
　　※ 共通仕様書 表17.3.1による
　　・上記以外
　　辺長　・
　　対角線長の差　・
　　板厚　・
　　開口部内法寸法　・
　　ねじれ、反り　・
　　曲がり　・
　　面の凹凸　・
　　先付け金物の位置　・
　PCｶｰﾃﾝｳｫｰﾙの仕上げ
　　・
　構造ｶﾞｽｹｯﾄを用いる場合のｱﾝｶｰ溝の寸法及び寸法許容差(mm)
　　※ 図示
製作
　PC版の配筋　※ 図示
取付け
　躯体付け金物の取付けの寸法許容差
　　※ 共通仕様書 表17.2.2による
　　・上記以外
　　鉛直方向　・
　　水平方向　・
　ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ部材の取付け位置の寸法許容差
　　※ 共通仕様書 表17.3.2による
　　・上記以外
　　目地の幅　・
　　目地の心の通り　・
　　目地両側の段差　・
　　各階の基準墨から各部位までの距離　・
ｶﾞﾗｽの取付け方法
　・ｶﾞﾗｽの取付材が構造用ｶﾞｽｹｯﾄで複層ｶﾞﾗｽ等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18章　塗装工事

○ 1　材料　(18.1.3)

屋内で使用する塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
防火材料　※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
　・次の箇所を除き防火材料とする
　　箇所　・

○ 2　素地ごしらえ　(18.2.2)～(18.2.7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※ B種　・A種
鉄鋼面	DP	※ B種　・A種　・C種
	DP以外	※ C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	※ B種
	鋼製建具等以外	○ A種　・B種
ﾓﾙﾀﾙ面及びせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面		※ B種　・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DP以外)及びALCﾊﾟﾈﾙ面		※ B種　・A種
押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		※ B種　・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DP面)		・B種　※ A種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及びその他ﾎﾞｰﾄﾞ類		※ B種　・A種

○ 3　錆止め塗料塗り　(18.3.2)(18.3.3)

下地面等			錆止め塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	SOP	As種	※ A種　・B種
		DP	1回目　Cs種 2,3回目　Ds種	標準仕様書表18.3.4
		EP-G	※ Bs種　・As種	※ A種　・B種
	見え隠れ部分	SOP	As種	※ B種　・A種
		DP	1回目　Cs種 2,3回目　Ds種	標準仕様書表18.3.4
		EP-G	※ Bs種　・As種	※ B種　・A種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	SOP	※ Az種　・Bz種	※ A種　・B種
		DP	Bz種	標準仕様書表18.3.6
		EP-G	Cz種	※ A種　・B種
	鋼製建具以外	SOP	※ Bz種　・Az種	※ B種　・A種
		DP	Bz種	標準仕様書表18.3.6
		EP-G	Cz種	※ B種　・A種

○ 4　塗装　(18.4.1)～(18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料[G]
○ 合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)	木部屋外	※ A種　・B種	―	―
	木部屋内	※ B種　・A種		―
	鉄鋼面	※ B種　・A種		・適用する
	亜鉛めっき鋼面	―		・適用する
・ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り(CL)		※ B種　・A種	―	―
・ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※ B種　・A種	―	―
○ 耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗塗料の等級　○ 1級	・適用する
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗塗料の等級　・	―
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種 ・C種	―	―
・つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面 ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他のﾎﾞｰﾄﾞ面等	※ B種　・A種	―	―
	屋内の鉄鋼面	※ B種　・A種	―	―
・合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)		※ B種　・A種	―	
・ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り(UC)		※ B種　・A種	―	―
・ﾋﾞﾆﾙｳｫｯﾄﾝｽﾀｲﾝ塗り				―
・木材保護塗料塗り(WP)		※ B種　・A種	―	―

高日射反射率塗装[G]を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。
ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗A種の工程2の適用　・適用しない
　　・適用する
　　着色剤　・溶剤系着色剤　・油性染色着色剤
ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗の工程1の着色の適用　・適用する　・適用しない

19章　内装工事

1　接着剤　(19.2.2)(表19.2.1)(表19.2.2)

ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ、ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
施工箇所の下地がｾﾒﾝﾄ系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別　・図示　・

2　下地の工法　(19.2.3)

標準仕様書19.2.3(1)(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法　・図示　・

3　ビニル床シート[G]　(19.2.2)(19.2.3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※ FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ)	・無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ柄 ・柄物	※ 2.0 ・	

接合部の処理　※ 熱溶接工法　・

4　ビニル床タイル[G]　(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考
※ KT(ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・TT(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FT(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FOA(置式きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FOB(薄型置き敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※ 2.0 ・2.5 ・3.0	

5　特殊機能床　(19.2.2)

ｼｰﾄ種別	種類	性能	寸法、厚さ、形状(mm)
・帯電防止床ｼｰﾄ			厚さ： ・
・帯電防止床ﾀｲﾙ			寸法：　厚さ： ・
・視覚障害者用床ﾀｲﾙ		―	形状： ・
・耐動荷重性床ｼｰﾄ		―	厚さ： ・
・防滑性床ｼｰﾄ		―	厚さ： ・
・防滑性床ﾀｲﾙ		―	寸法：　厚さ： ・

視覚障害者誘導用ﾌﾞﾛｯｸ等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による

6　ビニル幅木　(19.2.2)

種類　・硬質　・軟質
高さ(mm)　※ 60　・75　・100
厚さ(mm)　※ 1.5以上　・

7　ゴム床タイル　(19.2.2)

種類　・単層品　・積層品
色柄　・
厚さ(mm)　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)　・

8　カーペット敷き　(19.3.2)(19.3.3)(表19.3.1)(表19.3.2)

・織じゅうたん

織り方	ﾊﾟｲﾙ形状
・ｳｨﾙﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾌﾃﾞｯﾄﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用

色柄　※ 模様の無い無地　・
ﾊﾟｲﾙ糸の種類等　※ 無地の織りじゅうたんの種別
　・A種　・B種　・C種
　・
帯電性　・適用する　・適用しない
見切り、押え金物　・適用する
　　材質、形状等　・図示　・
　　・適用しない
織りじゅうたんの接合方法　※ ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾄﾞ工法　・つづり縫い
下敷き材　※ 反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ 8mm
　・

・ﾀｯﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ

ﾊﾟｲﾙ形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・5～7　・ ・4～6　・ ・	・全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用する ・適用しない	

下敷き材(ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法の場合)　※ 反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm
　・
ﾀｯﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
見切り、押え金物　・適用する
　　材質、形状等　・図示　・
　　・適用しない

・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ

ﾊﾟｲﾙの形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※ 第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・第一種 ・第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	

ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆
ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄの敷き方
　平場　※ 市松敷き　・模様流し　・
　階段部分　※ 模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　・適用する
　　材質、形状等　・図示　・
　　・適用しない

8　合成樹脂塗床　(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.4)(表19.4.5)～(表19.4.8)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材(弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床)			※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材(ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床)		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材		・	※ 平滑仕上げ

塗床材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ F☆☆☆☆

9　フローリング張り　(19.5.2)～(19.5.6)(表19.5.1)～(表19.5.6)

ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量等　※ 標準仕様書19.5.2(2)による　・
各工法に使用する接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※ F☆☆☆☆
県産木材の適用　・適用する　・適用しない
単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等	・釘留め工法(根太張り)	・	※ 標準仕様書表19.5.1による ・
	・釘留め工法(直張り)	・	※ 標準仕様書表19.5.3による ・
	・接着工法	・	※ 標準仕様書表19.5.5による ・
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等	・接着工法	・	・

複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ

種類	工法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ(天然化粧木)	・釘留め工法(根太張り)	・	標準仕様書表19.5.2による ・A種　・B種　・C種
	・釘留め工法(直張り)	・	標準仕様書表19.5.4による ・A種　・B種　・C種
	・接着工法	・	標準仕様書表19.5.6による ・A種　・B種　・C種

接着工法の場合の不陸緩和材　※ 合成樹脂発泡ｼｰﾄ　・

10　畳敷き　(19.6.2)(表19.6.1)

種別　・A種　(　畳表：　・JS　・JI　)
　　・B種
　　・C種　(　畳床：　・PS-C20　・PS-C25　・PS-C30　)
　　・D種　(　畳床：　・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N　)
下地の種類　・標準仕様書表12.6.1による床組み
　　・ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ床下地(ﾉﾝﾌﾛﾝ[G])
畳表及び畳床はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散がきわめて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳(畳表：　・C1　・C2　)

○ 11　せっこうボードその他ボード及び合板張り　(19.7.2)(19.7.3)(表19.7.1)

MDF及びﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※F☆☆☆☆　・
合板のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※標準仕様書19.7.2(3)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか
・
合板の防虫処理の適用
・行う　・行わない
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※F☆☆☆☆

種類等	厚さ(mm)、規格等
木毛セメント板[G]	
・木毛ｾﾒﾝﾄ板 ・硬質(HW)　・中質(MW)　・普通(NW)	※図示　・15　・20　・25
・木片ｾﾒﾝﾄ板 ・硬質(HF)　・普通(NF)	※図示　・12　・15　・18　・21　・30
繊維強化ｾﾒﾝﾄ板	
・けい酸ｶﾙｼｳﾑ板(ﾀｲﾌﾟ2)　普通ﾎﾞｰﾄﾞ0.8FK	※図示　・6　・8
火山性ｶﾞﾗｽ質複層板	
・火山性ｶﾞﾗｽ質複層板 種類　※図示	※図示
繊維板[G]	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF) ・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(無処理) ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板(RN) ・研磨板(RS) ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DI) ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(処理) ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板(RN) ・研磨板(RS) ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(DE)	※図示　・3　・7　・9　・12 ※図示　・2.5　・3.5　・5　・7
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ(A-IB) ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材	※図示　・9　・12　・15　・18
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ[G]	
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・無研磨板(VN) ・研磨板(VS)	※図示　・10　・12　・15　・18
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DV) ・ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DO) ・塗装(DC)	※図示　・10(難燃)　・12(難燃)
吸音材料	
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板(DR) ・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ・凹凸ﾀｲﾌﾟ	・9(不燃)　・12(不燃) ・12(不燃)　・15(不燃)
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(1号)	※図示　・25
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ(32K)	・25(ｶﾞﾗｽﾛｽ包み)
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	
○ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-R)	※12.5(不燃)　・15(不燃)
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-S)	・12.5　・不燃　・準不燃
・強化石膏ﾎﾞｰﾄﾞ(GB-F)	・12.5(不燃)　・15(不燃)
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-D)	・ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様 9.5(準不燃)
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ(GB-L)	・9.5
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(GB-NC) ・化粧無し(下地張り用) ・化粧有り(ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様)	・9.5(不燃)
合板類	
・普通合板[G] 品名　・ 板面の品質　・ 単板の樹種名　・ 防虫処理　・行う　・行わない	※5.5　・図示
・天然木化粧合板[G] 化粧板の樹種名　・ 防虫処理　・行う　・行わない	※図示　・
・特殊加工化粧合板[G] 品目　・ 接着の程度　・ 単板の樹種名　・ 化粧加工の方法 ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装 防虫処理　・行う　・行わない	※図示　・

天井のﾎﾞｰﾄﾞ類(ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板を除く)の重ね張りを行う場合　※図示
合板類の張付け　・A種　・B種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞの目地工法等　※仕上表による
突付け工法及び目隠し工法のｴｯｼﾞの種類　・ﾍﾞﾍﾞﾙｴｯｼﾞ　・ｽｸｴｱｴｯｼﾞ
天井又は壁に使用する合板は、関係法令により求められる場合のみ、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

12　壁紙張り　(19.8.2)(18.8.3)

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類						防火種別	備考
	紙	繊維	塩化ﾋﾞﾆﾙ	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他		
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃　・難燃	

ﾓﾙﾀﾙ、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面の素地ごしらえ　※B種　・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面の素地ごしらえ　※B種　・A種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及びけい酸ｶﾙｼｳﾑ板面の素地ごしらえ　※B種　・A種

13　断熱材[G]　(19.9.2)～(19.9.4)

ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材、保温材又は接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆
開口部等補修のための張付け用の接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆
・断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材　:	・	
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材（ｽｷﾝ層なし） ・2種bA　・3種bA　・3種bC　・3種bD	・	
・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材	・	
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材	・	

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　・A種1　・A種1H　・
吹付け厚さ(mm)　・
施工箇所　・図示
(品質、性能、試験方法は別表による)

20章　ユニット及びその他工事

1　フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工箇所	工法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上材	備考
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(ｴ)(a)～(c)による　・
・以下による
ﾊﾟﾈﾙ長さの寸法精度　:
ﾊﾟﾈﾙの平面形状(角度)の寸法精度　:
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの高さの寸法精度　:
帯電防止性能　・評価値(U)≧0.6以上　・評価値(U)≧1.2以上
感電防止性能　漏えい抵抗(R)≧1×10^6Ω
(品質・性能、試験方法は別表による)

2　可動間仕切　(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ	ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ	遮音性(db/500Hz)	防火性能
・ｽﾀｯﾄﾞ式(内装) ・ｽﾀｯﾄﾞ式(露出) ・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式 ・ﾊﾟﾈﾙ式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り	・0　・12 ・20　・28 ・36	・不燃

ﾊﾟﾈﾙ内に取り付ける建具　・あり
※図示　・
・なし
ﾊﾟﾈﾙ内に取り付ける家具のﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上げ材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
ﾊﾟﾈﾙ材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放出量　※F☆☆☆☆

3　移動間仕切　(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	ﾊﾟﾈﾙ圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	ﾊﾟﾈﾙ表面材 材質	ﾊﾟﾈﾙ表面材 仕上げ	遮音性(db/500Hz)
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ﾊﾝｶﾞｰｼｰﾙの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示
ﾊﾟﾈﾙをﾗﾝﾅに取り付ける部品
※ﾗﾝﾅに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
・
ﾊﾝｶﾞｰｼｰﾙ及びﾗﾝﾅ
※ﾊﾟﾈﾙ重量の5倍の荷重を、ﾊﾟﾈﾙ1枚に使用するﾗﾝﾄﾞ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
・
(品質・性能は別表による)
あと施工ｱﾝｶｰ
・使用する
種類　・
材質　・
寸法　・
・使用しない

4　トイレブース　(20.2.5)

表面材の材料	脚部 種類	脚部 材質
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板 ・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板 ・	※幅木ﾀｲﾌﾟ ・	※製造所の仕様による ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・表面材と同材

パネル材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

○ 5　手すり　(20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
・SUS304
表面処理　※HL程度　・
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
表面処理(標準仕様書表14.2.2による種別)　・　種
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ
表面処理(標準仕様書表14.2.1による種別)　・　種
色合等　・標準色　:　・特注色　:
手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材 材種　:	・ｸﾘｱﾌﾗｯｶｰ ・	・35程度 ・45程度 ・		
・ﾋﾞﾆﾙ製 ○金属製		・35程度 ○45程度 ・		

○ 6　階段滑り止め　(20.2.7)

材種　○ｽﾃﾝﾚｽ製　・黄銅製押出型材　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製押出型材　・
形状　※ﾀｲﾔ型(ﾀｲﾔの材質：ｺﾞﾑ又は合成樹脂)　・ﾀｲﾔﾚｽ型
端部の形状　・ﾌﾗｯﾄｴﾝﾄﾞあり　・ﾌﾗｯﾄｴﾝﾄﾞなし
寸法(幅)　○35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法　※接着工法　・埋め込み工法

7　黒板及びホワイトボード[G]　(20.2.9)

・黒板　区分　※焼き付け　・
種類　・鋼製黒板　・ほうろう黒板　・
色　※緑　・
・ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ

8　鏡　(20.2.10)

取付箇所　:
寸法(mm)　・図示　・
厚さ(mm)　※5　・

9　表示　(20.2.11)

衝突防止表示
・設置する
設置場所　※図示　・
形状・寸法　・30φ　・
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品
室名札、ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾌ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示

○ 10　タラップ　(20.2.12)

材質及び仕上げ　○ SUS304
スリップ止め加工　※あり　・なし
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
※標準仕様書表14.2.2による種別
※C種　・

11　煙突ﾗｲﾆﾝｸﾞ　(20.2.13)

適用安全使用温度　・
工法　※鋼製ﾕﾆｯﾄ煙突(煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材)　・

12　ブラインド　(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ・取付箇所
・横形	・電動	―				
	・手動	※ｷﾞﾔ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製[G] ・	※25 ・	※鋼製 ・	※図示 ・
・縦形	・電動	―				
	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	※図示 ・

縦型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞのｽﾗｯﾄの材質
・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ　焼けけ塗装仕上げ
・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。

13　ロールスクリーン　(20.2.15)

操作方法	ｽｸﾘｰﾝの材質	その他の材料	幅・高さ、取付箇所	品質
・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・電動式	・ｶﾞﾗｽ繊維製 ・合成、天然繊維製 ・木製	※製造所の仕様	・図示	・

ｽｸﾘｰﾝの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。

14　カーテン　(20.2.16)

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・ﾌﾟﾗﾝｽひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図示	

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。
暗幕ｶｰﾃﾝの両端、上部及び召合せの重なり　※300mm以上　・

15　カーテンレール　(20.2.16)

材料による区分　※ｱﾙﾐﾆｳﾑ又はｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の押出成型材
・ｽﾃﾝﾚｽ製
強さによる区分　※10-90　・
仕上げ　※ｱﾙﾏｲﾄ　・
形状　※角形　・

16　ブラインドボックス及びカーテンボックス
溝型x深さ(mm)　・90x150　・120x80　・120x150　・150x80　・図示
材種　・集成材
仕上げ　:
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　押出し型材（市販品）
標準仕様書14.2.1による種別　・BC-1種　・BC-2種
色合い　・標準色　:　・特注色　:
・鋼製
仕上げ　:

○ 17　天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・	・450×450 ○600×600	○一般形	○屋内外用 ・屋内用	○額縁ﾀｲﾌﾟ ・目地ﾀｲﾌﾟ	○額縁ﾀｲﾌﾟ ・目地ﾀｲﾌﾟ
		・気密形			

(品質・性能、試験方法は別表による)

18 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・鋼製	・450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とはﾎﾞﾙﾄ、ﾗｯﾁ等ﾒｶﾆｶﾙ構造にﾊﾟｯｷﾝを装着したものとする。
(品質・性能、試験方法は別表とする)

○ 19　耐震ｽﾘｯﾄ

方向	幅(mm)	ﾀｲﾌﾟ	耐火性能	防水性能	備考
○ 垂直	・25 ・	○ 完全(全貫通型) ・	・耐火型 ○非耐火型	○ 有り ・無し	
○ 水平	・25 ・				

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ) ・	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材(見え掛かり部のみ) ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材(内外共)
目地寸法	・ｽﾘｯﾄ幅×深さ10 ・	・ｽﾘｯﾄ幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

○ 20　止水板

形式　○ 差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示　・

○ 21　エキスパンションジョイント金物
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

22　くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ﾋﾞﾆﾙ又はｺﾞﾑ製 ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)製 ・	・ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304) ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・	

23　流し台ユニット

材種	寸法(mm) W	D	H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 ﾄﾗｯﾌﾟ付き 天板ｽﾃﾝﾚｽ製
・ｺﾝﾛ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 ﾍﾞｯｸﾎﾞｰﾄﾞ有り 天板ｽﾃﾝﾚｽ
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	―	―	市販品 ｽﾃﾝﾚｽ製 ・1段式　・

品質・性能　外観は、JIS A 4420「ｷｯﾁﾝ設備の構成材」の4.1による。
構成材は、JIS A 4420の8により試験を行ったとき、表1の規定による。
形状　※図示

24　旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・ﾃｰﾊﾟｰ式 ・同一断面式		・ﾍﾝﾄﾞﾙ式 ・ﾛｰﾌﾟ式	・埋込式 ・ﾍﾞｰｽ式 ・ﾍﾟﾝﾄﾞﾙ式	

25　旗竿受金物
・ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)　・

26　車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(m)
・上下式頭内蔵式 ・	・標準品 ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式	・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・	・ ・	・ ・
・				

27　フェンス
ﾌｪﾝｽの種類　・ﾋﾞﾆﾙ被覆ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　・樹脂塗装ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　・鋼管ﾌｪﾝｽ　・ｱﾙﾐﾌｪﾝｽ
高さ　・図示

28　プレキャストコンクリート　(20.3.2)～(20.3.4)
補強鉄線の径及び網目寸法
・図示　・
ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度
※水ｾﾒﾝﾄ比55%以下、単位ｾﾒﾝﾄ量の最小値300kg/m3を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
・図示
取付け方法
※図示

29　間知石及びｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ積み　(20.4.2)(20.4.3)

種別	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩		
・ｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ		・A ・B	

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示
伸縮調整目地
材種　・図示
厚さ　・図示

30　鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種

31　屋内掲示板
枠の材質　※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・
表面の材質　※塩ﾋﾞ発泡ｼｰﾄ張り　・

32　洗面カウンター
材種　・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板張り(芯材：集成材)　・大理石
奥行き(mm)　・約450　・約600

33　防煙垂れ壁
・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※網入り磨き板ｶﾞﾗｽ ・線入り磨き板ｶﾞﾗｽ	※6.8 ・	※500 ・	ｱﾙﾐ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式(巻取り型)	※不燃布(不燃認定品)	※500 ・800 ・	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ ※固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)
・回転降下式	鋼板製又はｱﾙﾐ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置(埋込型)

34　屋外掲示板
照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し
製造所　・

35　収納家具
合板類、MDF及びﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※F☆☆☆☆
材質、形状、寸法　※図示

21章　排水工事

1　屋外雨水排水　(21.2.1)(21.2.2)(表21.2.1)(表21.2.2)

材料

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管	・外圧管 (1種) ・	・B形管 ・	・図示　・	
○ 硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	・RF-VP[G]		・図示　・	
	・RS-VU[G]			
	○ VP		・図示　・	
	・VU		・図示　・	
・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管継手	・DV		・図示　・	
	・VU継手		・図示　・	

基床の厚さ及び種類　・図示
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管の継手に用いる材料　※接着剤　・ｺﾞﾑ輪　・
側塊の形状及び寸法　・図示
排水桝の種類　・図示
砂地業に用いる材料　・ｼﾙﾄ　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料　・再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ[G]　・切込砂利　・切込砕石
・現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
　設計基準強度(N/mm2)　※18
　ｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　※15又は18
・現場打ちの場合の鉄筋
　種類の記号　※SD295　・
・排水桝が現場打ての場合の足掛け金物
　※標準仕様書21.2.2(6)(ｲ)
　材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・防錆処理を行った鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料　・
　砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

○ 2　鋳鉄製ふた　(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製 ﾏﾝﾎｰﾙふた	・水封形 ・簡易密閉形(ﾊﾞｯｷﾝ式) ・密閉形(ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾞｯｷﾝ式) ・中ふた付き密閉形(ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾞｯｷﾝ式) ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による

○ 3　グレーチング　(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・ (　　)	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・ (　　)	・平形 ・
・ｽﾃﾝﾚｽ製	○ 受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	○ 溝ふた(横断用) ○ 溝ふた(側溝用) ○ 桝ふた用 ・U字溝用	・歩行用	・	―	・凹凸形 ・
			・T-2用 ○ T-6用 ・T-14用 ○ T-25用	・	―	・平形 ・

(品質・性能、試験方法は別表による)

○ 4　街きょ、縁石及び側溝　(21.3.1)(21.3.2)(表21.3.1)

街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
○ 縁石	・図示　・
・L形側溝	・図示　・
○ U形側溝	・図示　・
○ U形側溝ふた	・図示　・
・	・図示　・

砂地業に用いる材料　・ｼﾙﾄ　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料　○ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ[G]　・切込砂利　・切込砕石
砂利地業の厚さ(mm)　※100　・図示
・現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
　設計基準強度(N/mm2)　※18
　ｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　※15又は18
・現場打の場合の鉄筋
　種類の記号　※SD295
凍上抑制層に用いる材料　・
　砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

○ 5　埋戻し土　(21.2.1)

標準仕様書表3.2.1　※B種

22章　舗装工事

1　路床　(22.2.2)(22.2.3)　(22.2.4)(22.2.5)(表22.2.1)

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
○ 盛土	・標準仕様書 表3.2.1 ・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土[G]	○ 図示 ・
○ 凍上抑制層	○ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ[G] ・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・切込み砂利 ・砂(標準仕様書表21.2.2による)	○ 図示 ・
○ ﾌｨﾙﾀｰ層	標準仕様書22.2.3(3) ・	・図示 ・

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)　・行う　・行わない
・路床安定処理
　安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法
　路床安定化処理用添加材料
　　種類　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・高炉ｾﾒﾝﾄB種[G]　・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種
　　・生石灰　(　・特号　・1号　)
　　・消石灰　(　・特号　・1号　)
　　添加量(kg/m3)　・
　　CBR　※3以上　・
・ｼﾞｵﾃｷｽﾀｲﾙ
　単位面積質量(g/m2)　・60g/mm2以上
　厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
　引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
　透水係数　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・
試験
　路床土の支持力比(CBR)試験　・行う　・行わない
　路床締固め度の試験　・行う　・行わない
　現場CBR試験　・行う　・行わない

○ 2　路盤　(22.3.2)(22.3.3)　(22.3.5)(表22.3.1)

路盤の厚さ　○ 図示
路盤材料(標準仕様書表22.3.1による種別)
　・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ
　・粒度調整砕石
　○ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ[G]
　・再生粒度調整砕石[G]
　・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ[G]
　・粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞ[G]
　・水硬性粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞ[G]

3　アスファルト舗装　(22.4.2)～(22.4.6)(表22.4.4)

ｱｽﾌｧｯﾄ舗装の構成及び厚さ　※図示
材料
　ｱｽﾌｧﾙﾄ　○ 再生ｱｽﾌｧﾙﾄ[G]
　　標準仕様書表22.4.1による種類　・60～80　・80～100
　　・ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧｯﾄ
　骨材　・道路用砕石
　　・ｱｽﾌｧｯﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材[G]
　加熱ｱｽﾌｧｯﾄ混合物等の種類　○ 密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)
　　○ 細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)
　　・密粒度ｱｽﾌｧｯﾄ混合物(13F)
舗装の平たん性　※通行の支障となる水溜まりを生じない程度
　・
試験
　ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

○ 4　コンクリート舗装　(22.5.2)～(22.5.4)(22.5.6)(表22.5.1)(表22.5.3)

ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	車路及び駐車場	○ 図示	○ 図示
	歩行者用通路	・図示	※70　・図示

材料
　ｺﾝｸﾘｰﾄ　※普通ｺﾝｸﾘｰﾄ、標準仕様書表22.5.1による
　　・以下による
　　ｺﾝｸﾘｰﾄの種類　・
　　設計基準強度(N/mm2)　・
　　所定のｽﾗﾝﾌﾟ(cm)　※8　・
　　粗骨材の最大寸法(mm)　・
　早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・使用する　・使用しない
　注入目地材料　※低弾性ﾀｲﾌﾟ　・高弾性ﾀｲﾌﾟ
目地
　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による　・図示
　・以下による
　　種類　・
　　間隔　・　m以内ごと
　　構造　・図示
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
　・

5　カラー舗装　(22.6.2)(22.6.3)(22.6.4)

・加熱系ｶﾗｰ舗装
　構成・厚さ　・図示
　加熱系混合物の結合材　・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物
　　・石油樹脂系混合物
　　顔料添加量(%)　：
　添加剤
　　着色骨材　：
　　自然石　：
・常温系ｶﾗｰ舗装
　工法　・ｺｰﾄ工法
　　配合その他　：
　　・塗布工法
　　配合その他　：
　着色部の下部　・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装
　　・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
　　・
　舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
　　・

○ 6　透水性アスファルト舗装　(22.7.2)(22.7.3)(22.7.6)

舗装の構成　○ 図示　・
材料
　骨材　・道路用砕石
　　・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材[G]
　　標準仕様書表22.4.1による種類　・60～80　・80～100
舗装の平坦性　※著しい不陸がないもの
試験
　開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

7　ブロック系舗装　(22.8.2)(22.8.3)

・ｺﾝｸﾘｰﾄ平板舗装[G]

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

ｸｯｼｮﾝ材　※砂　・空練りﾓﾙﾀﾙ
普通平板は[G](再生材料を用いた舗装用ﾌﾞﾛｯｸ)、透水平板は[G](透水性ｺﾝｸﾘｰﾄ)とする。
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板間の段差は3mm以内
　・
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装[G]

種類	部位	形状・寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
※普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	車路	・図示 ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・ ・
※普通ﾌﾞﾛｯｸ(N) ・透水性ﾌﾞﾛｯｸ(P) ・保水性ﾌﾞﾛｯｸ(M)	歩行者用通路	・図示 ・	※60 ・	※3.0 ・	表面加工 ・ ・

ｸｯｼｮﾝ材　※砂　・空練りﾓﾙﾀﾙ
歩行者用通路に使用する普通ﾌﾞﾛｯｸは[G](再生材を用いた舗装用ﾌﾞﾛｯｸ)、透水性ﾌﾞﾛｯｸは[G](透水性ｺﾝｸﾘｰﾄ)とする。
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内

・舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	貼り方	基層	基層の厚さ(mm)
※花こう岩 ・	・割石 ・図示	・ ・	・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装 ・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	※70　・ ※70　・

ｸｯｼｮﾝ材　※砂　・空練りﾓﾙﾀﾙ
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内
・ｼﾞｵﾃｷｽﾀｲﾙ
　単位面積質量　・60g/m2以上　・
　厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
　引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
　透水係数　・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

8　砂利敷き　(22.9.2)

種別
　・A種　(施工範囲　：・図示　・通路　・　)
　・B種　(施工範囲　：・図示　・建物周囲その他　・　)

9　路面表示用塗料

路面表示用塗料はJIS K 5665による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
※3種1号 ・1種[G] ・2種[G]	溶融 常温 加熱	粉体状 液状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料[G]

23章　植栽及び屋上緑化工事

1　植栽地の確認等　(23.1.3)

土壌の水素ｲｵﾝ濃度指数(pH)試験　・行う　・行わない
電気伝導度(EC)の試験　・行う　・行わない

2　植栽基盤の整備　(23.2.2)(23.2.4)

樹木の植栽基盤の整備　・適用する　・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ(mm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 ※100　・120　・150 樹高7m以上～12m未満 ※80　・100 樹高3m以上～7m未満 ※60　・80 樹高3m未満 ※50　・60	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備　・設ける
　※図示　・
　・設けない

3　植込み用土　(23.2.3)

・現場発生土の良質土　・客土

4　土壌改良材　(23.2.3)

種類及び指定量等
　・ﾊﾞｰｸ堆肥[G]
　　施工箇所　※植栽範囲　・図示
　　使用量(植栽基盤面積1m2あたり)　・50L　・
　・汚泥発酵肥料(下水汚泥ｺﾝﾎﾟｽﾄ)
　　施工箇所　※植栽範囲　・図示
　　使用量(植栽基盤面積1m2あたり)　・10L　・
　　材料　「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする
　・

5　樹木　(23.3.2)

樹種、寸法、株立数　※図示
刈込みものの適用　・適用する
　数量　・
　・適用しない

6　支柱　(23.3.2)(23.3.3)

支柱材　※丸太(県産木材)[G]　・真竹　・
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材　・
形式　・図示

7　幹巻き用材料　(23.3.2)

材料　※幹巻き用ﾃｰﾌﾟ　・わら及びこも

8　芝　(23.4.2)(23.4.3)

種類　※ｺｳﾗｲｼﾊﾞ　・ﾉﾗｼﾊﾞ　・
芝張りの工法
　平地　※目地張り　・べた張り
　法面　・目地張り　※べた張り法面

9　吹付けは種　(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/m2)	備考
※芝類(採取後2年以内)	※発芽率80%以上		
・			

10　地被類　(23.4.2)

樹種	ｺﾝﾃﾅ径	単位面積当たりのｺﾝﾃﾅ数	芽立数
・	・	・	・
・	・	・	・

11　新植、芝等の枯保証、移植樹木の枯損処置　(23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)　(23.5.5)

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯補償の期間
　※引渡しの日から1年　・無し
移植樹木の枯損処置を行う期間
　※引渡しの日から1年　・無し

12　屋上緑化[G]

植栽基盤及び材料　(23.5.2)～(23.5.4)
・屋上緑化ｼｽﾃﾑ
　土壌層の厚さ　・図示　・
　排水層　・軽量骨材
　　層の厚さ　：
　　・透水配水管
　　・板状成形品
　植込み用土　※改良土　・人工軽量土
・屋上緑化軽量ｼｽﾃﾑ
樹木、芝及び地被類　※図示
　樹種又は種類、寸法、株立数　※図示
　刈込みものの適用　・適用する
　　数量　・
　　・適用しない
見切り材、舗装材、水抜き管、ﾏﾙﾁﾝｸﾞ材など　※図示
(品質・性能、試験方法は別表による)
支柱　・設置する
　　形式　・図示
　・設置しない
かん水装置　・設置する
　　種類　・図示　・
　・設置しない
工法　「屋根ふき材及び屋外に目する張壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日　建設省告示第1458号)に基づく風圧力に対応した工法
　・図示　・

工事区分表

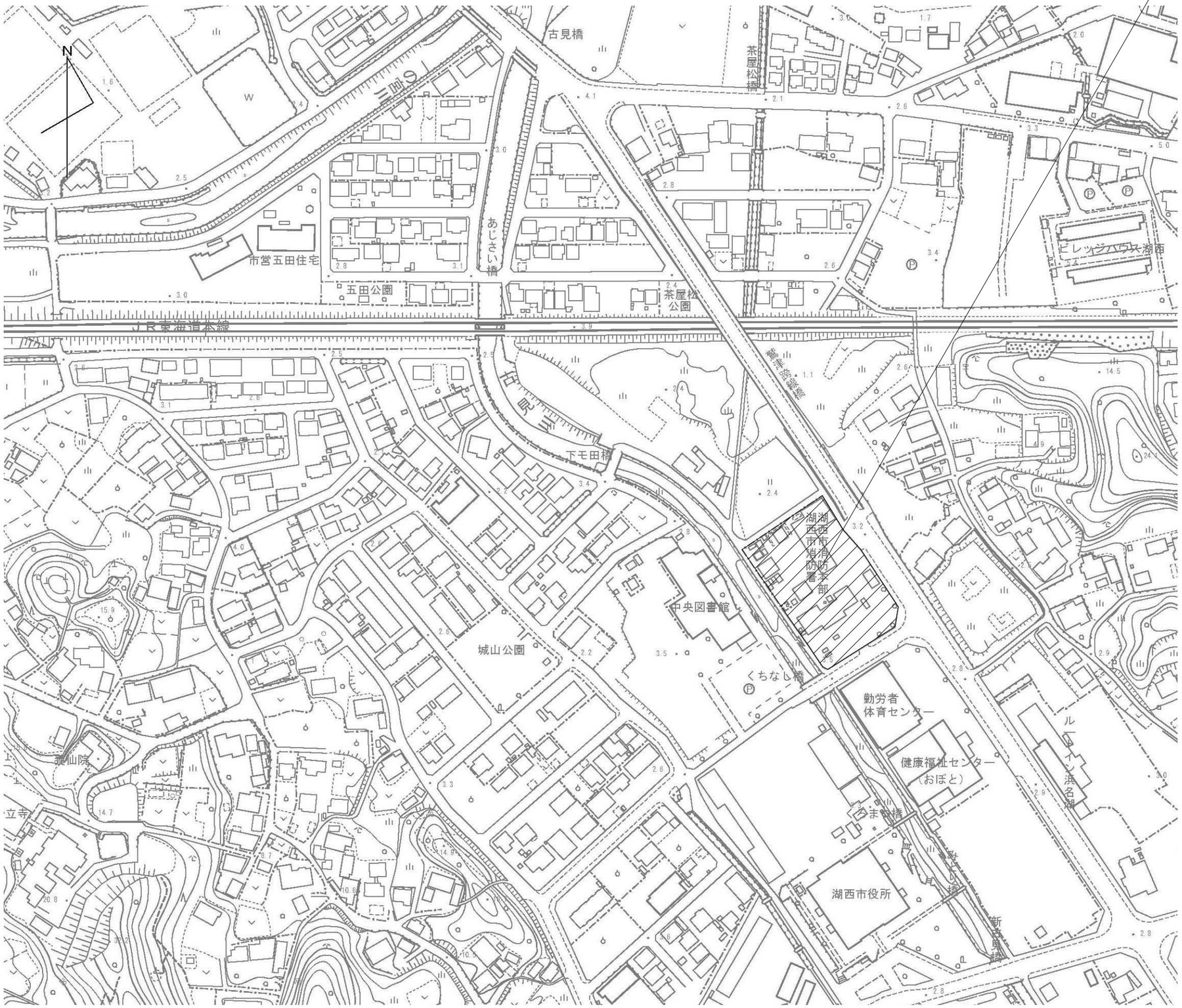
躯体関係

項目		建築	電気	衛生	空調	EV/運搬	別途	備考
1 ＲＣ造の（梁・壁・床）の貫通口・開口部	貫通スリーブ材及び取付け	●						
	補強を要する型枠材及び取付け	●						
	補強を要しない型枠材及び取付け	●						
	貫通孔・開口部の墨出し	●	●	●	●			
	貫通孔・開口部の補強	●	●	●	●			
	スリーブ・型枠の穴埋め	●	●	●	●			
2 Ｓ、ＳＲＣ造・梁貫通口	Ｓ・ＳＲＣ造貫通鋼管スリーブ・補強							
	使用されたスリーブの穴埋め							
	予備スリーブの穴埋め							
	床デッキプレートの切込み							
3 設備機器の基礎	建築設計図に記入のあるもの	●						
	室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）		●	●	●			
	屋外・屋上の基礎	●						
	屋上基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの		●	●	●			
	機器取付け用アンカー・架台		●	●	●			建築図にあるものを除く
	屋上ゲタ基礎上の鉄骨鋼材							
4 昇降機関連	昇降路・機械室の躯体							
	機械室の床開口、電気油圧配管用壁開口							
	機械室の床配管ピット・蓋							
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上げ・防塵塗装							
	巻上機周囲のチェッカープレート敷							
	昇降路内ピット防水・集水桝・点検用タラップ							
	各階出入口穴あけ・同補強							
	出入口扉・三方枠							
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修							
	昇降機がＲＣ造の時、軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式							
	天井フック取付							
	ホール押釦・インジケータ・鋼索などの壁開口							
	機械室換気設備							
	昇降路がＳ造の時の中層ビームブラケット受けピース							
	窓口となる室からインターホンまでの配線工事							
	油圧式の防油堤							
	動力用電源設備及び第３種アース引込み配管、配線工事							
	照明用電源引込み配管、配線工事							
	点検用コンセント配管、配線工事							
	外部インターホン用配管、配線引込み工事							
	電話中継盤までの遠隔監視用配管、配線工事							
	機械室防音用グラスウール等							
5 その他	トラフ・ピット類（ふたを含む）	●						
	湧水・汚水ピット・ＲＣ造各種水槽	●						
	同上用防水・マンホール・タラップ	●						
	避雷設備・同接地工事							
	既製コンクリート板等の壁開口・補強							
	防火水槽							
	屋上アンテナ鉄骨架台							

仕上げ関係

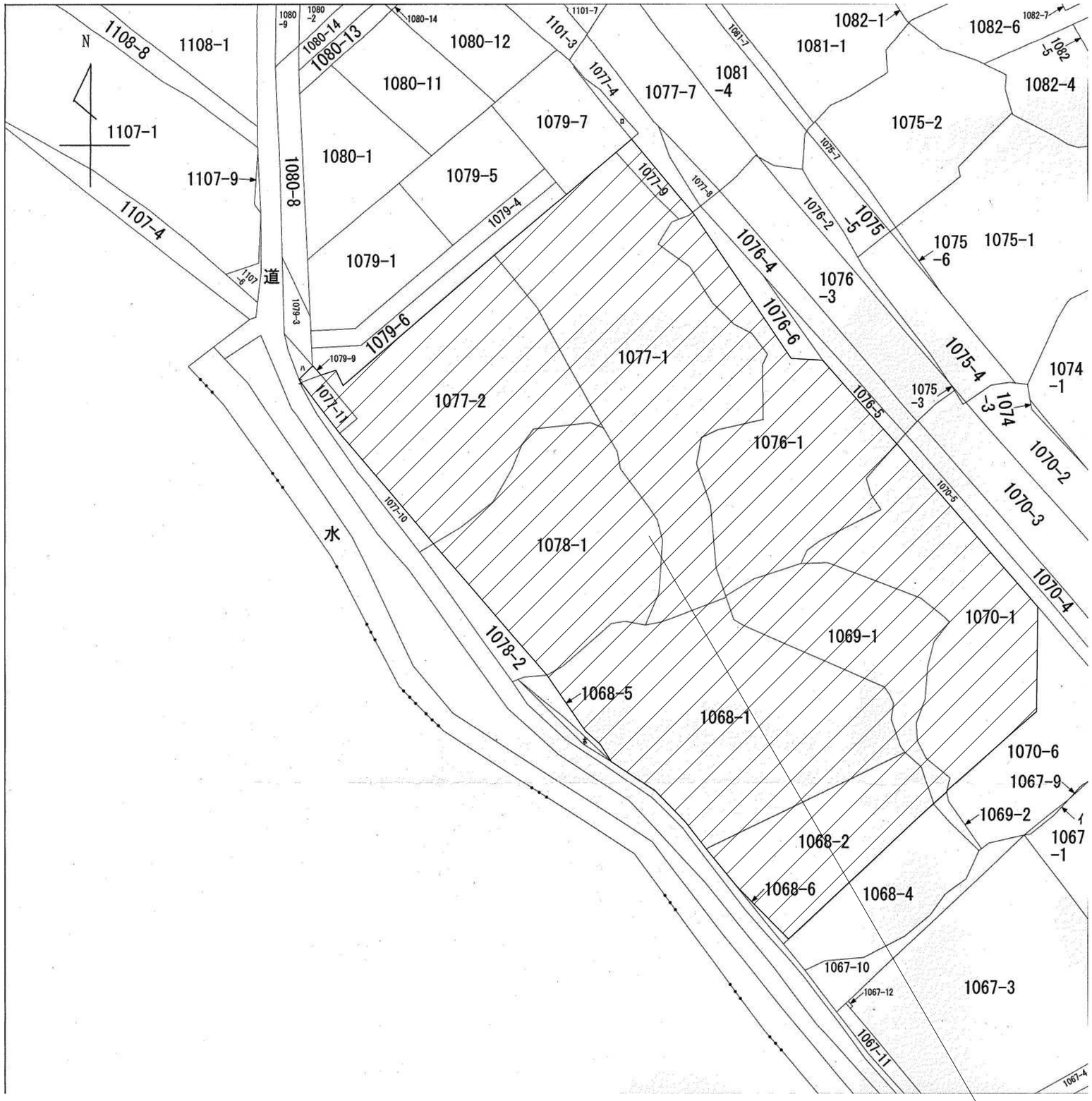
項目		建築	電気	衛生	空調	EV/運搬	別途	備考
1 軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の寸断・補強	●						
	補強を要しないボードの切り込み		●	●	●			
	開口部の墨出し		●	●	●			
2 既製間仕切	切り込み及び補強							
3 吊りボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		●	●	●			
4 外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	●						
	ウエザーカバー、ベンドキャップ			●	●			
	換気扇				●			
	シーリング	●	●	●	●			
5 便所まわり	洗面カウンター							
	鏡（規格寸法のみ）							
	ユニット型衛生器具							
	衛生器具廻り手すり							
	浴室及び便所の床排水金物							
6 その他	家具組み込みの洗面器							
	ステンレス流し台							
	調理台（水栓含む）							
	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	●						
	点検口（天井・床下）	●						
	自動開閉装置を取り付ける防火戸の切り込み補強及びドアチェック、フロアヒンジ	●						
	消火器ボックス	●						
	避難器具	●						
	自動扉・電動シャッターへの電源供給		●					
	自動扉・電動シャッターからの付属スイッチ・センサーへの配管工事		●					
	消火器本体及び申請、検査立会い	●						
	洗面化粧台							
	ユニットバス・ユニットシャワー							
	衛生器具裏板補強							
	サーバー室床吹出口							
	サーバー室免振床							
	セキュリティ鍵	●						電気工事不要のボタン錠

工事場所：静岡県湖西市古見1076



案内図	S=1/1250(A1) S=1/2500(A3)

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333(代) FAX：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					R　8.　5.　29	案内図	A1	1/1250	A－11
							A3	1/2500	



公図写し　S=1/300(A1)　S=1/600(A3)

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333（代） FAX：053-439-7500 E-mail：info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					R 8. 5. 29	公図写し	A1	1/300	A－12
							A3	1/600	

直角座標法求積表

地　番	消防署用地			
NO	Xn	Yn	Yn+1 － Yn−1	Xn・(Yn+1 － Yn−1)
KJ1	−141573.526	−88671.287	20.298	−2873659.430748
KJ2	−141560.471	−88668.859	−22.798	3227295.617858
KJ3	−141522.698	−88694.085	−30.913	4374891.163274
KS4	−141521.107	−88699.772	−16.983	2403452.960181
KS5	−141499.139	−88711.068	−19.425	2748620.775075
KCDK1	−141486.904	−88719.197	−53.765	7607043.393560
KAC101	−141517.740	−88764.833	−46.309	6553545.021660
KK.288	−141513.922	−88765.506	−2.724	385483.923528
KW.11	−141514.662	−88767.557	−2.873	406571.623926
SHA9	−141513.455	−88768.379	−4.036	571148.304380
SBB1	−141515.674	−88771.593	−2.993	423556.412282
SBB2	−141516.040	−88771.372	5.630	−796735.305200
KL2NO.20+5	−141524.996	−88765.963	13.548	−1917380.645808
KLNO.21	−141536.949	−88757.824	11.356	−1607293.592844
KW.12	−141541.671	−88754.607	11.258	−1593476.132118
KLNO.22	−141553.479	−88746.566	12.764	−1806788.605956
KW.13	−141560.414	−88741.843	11.258	−1593687.140812
KLNO.23	−141570.010	−88735.308	9.142	−1294233.031420
BK1	−141572.297	−88732.701	4.575	−647693.258775
BK2	−141575.418	−88730.733	5.149	−728971.827282
SK.255	−141579.996	−88727.552	5.768	−816633.416928
BK7	−141583.856	−88724.965	6.394	−905287.175264
BK3	−141590.326	−88721.158	8.332	−1179730.596232
BK4	−141596.545	−88716.633	6.780	−960024.575100
BK5	−141599.847	−88714.378	2.603	−368584.401741
SBK6	−141600.418	−88714.030	25.221	−3571304.142378
SK.250	−141584.698	−88689.157	42.743	−6051754.746614
			合　計	−11628.829496
			合 計 面 積	5814.4147480
			地　積	5814.41 ㎡

基準点座標

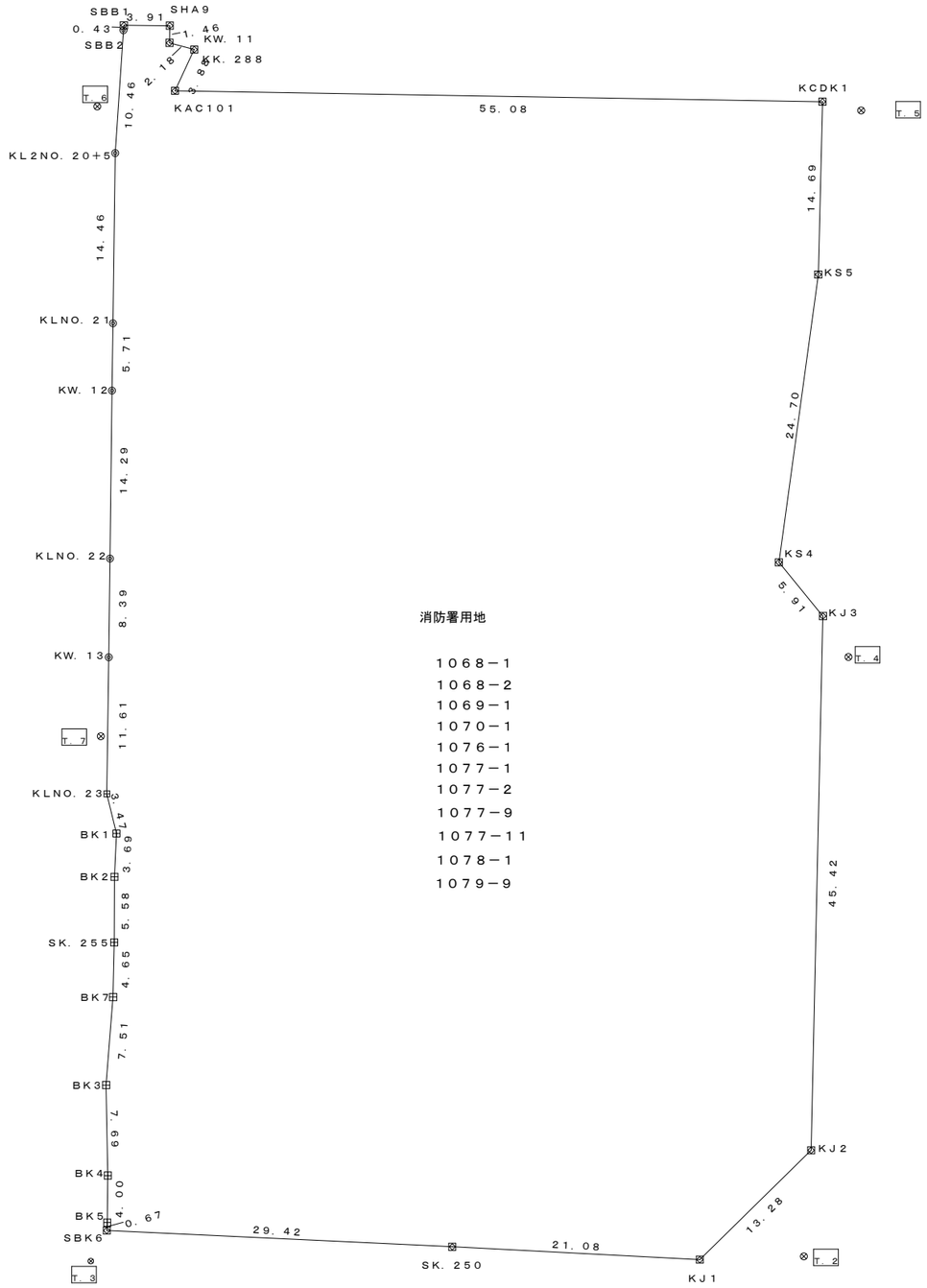
点　名	X座標	Y座標	備　考
T.2	−141568.223	−88664.190	
T.3	−141603.324	−88713.638	
T.4	−141524.303	−88690.297	
T.5	−141485.636	−88716.072	
T.6	−141522.612	−88769.491	
T.7	−141566.293	−88738.529	

杭種凡例

記号	杭の種類
⊞	コンクリート杭　:C
⊠	プラスチック杭　:P
◎	鋲　:R
◇	プレート　:RM
⊕	刻印　:M
□	石杭　:石
⦶	マーキング　:ペ
○	木杭　:木
⊙	計算点　:計

座標一覧表

点　名	X座標	Y座標	備　考
SK.250	−141584.698	−88689.157	
SBK6	−141600.418	−88714.030	
SK.255	−141579.996	−88727.552	
SBB2	−141516.040	−88771.372	
SBB1	−141515.674	−88771.593	
SHA9	−141513.455	−88768.379	



消防署用地

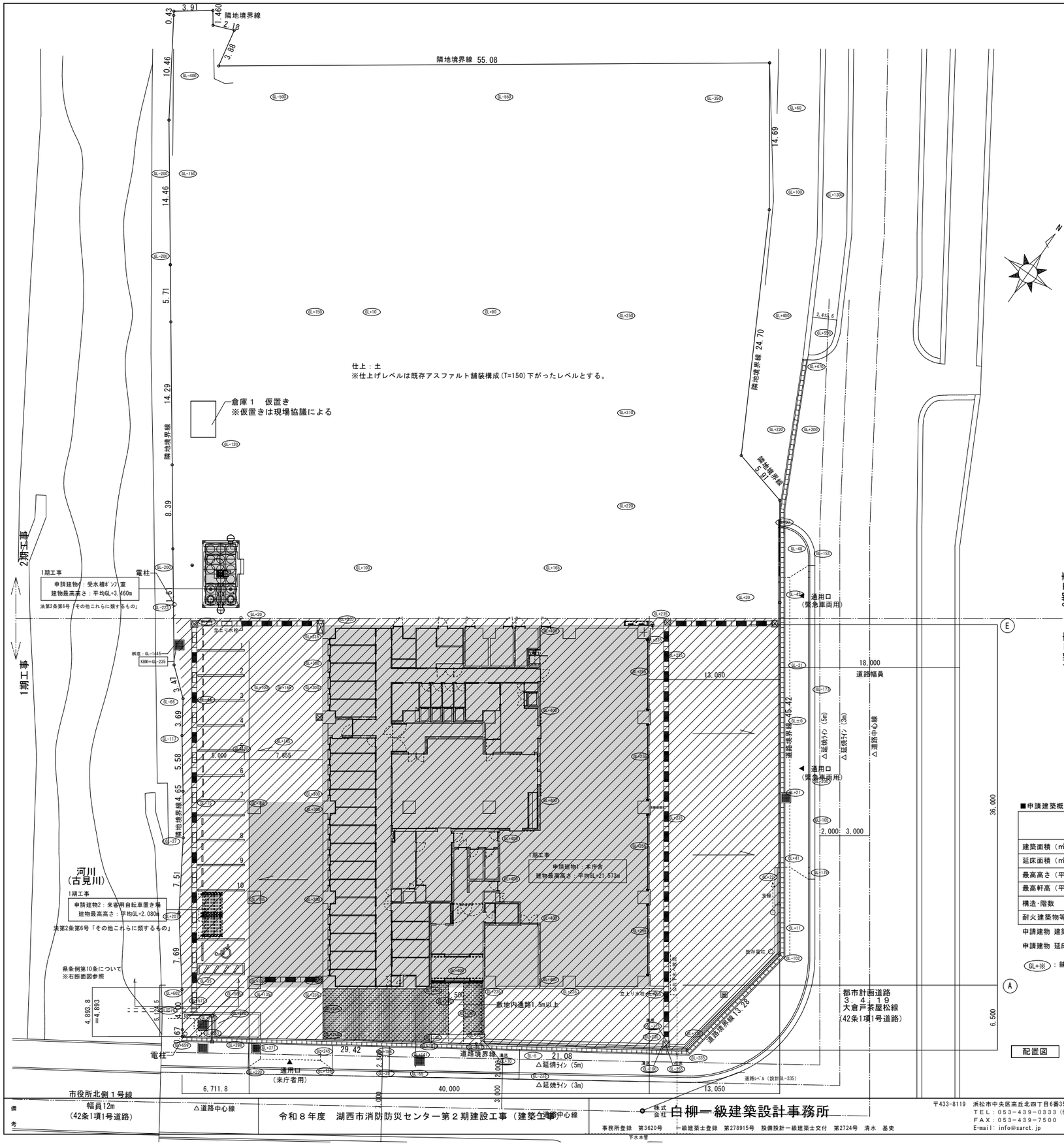
1068−1
1068−2
1069−1
1070−1
1076−1
1077−1
1077−2
1077−9
1077−11
1078−1
1079−9

S＝1／500

敷地求積図

大西測量登記事務所　大西 伸治

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録 第3620号　一級建築士登録 第278915号　設備設計一級建築士交付 第2724号　清水 基史	〒433-8119 浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053−439−0333（代） FAX：053−439−7500 E-mail：info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					R 8. 5. 29	敷地求積図	A1	1/250	A−13
							A3	1/500	



：１期工事範囲を示す。(工事対象外)

■申請建築概要（1期工事）

	申請建物1	申請建物2	申請建物3			合計
	本庁舎	来客用自転車置き場	受水槽ﾎﾟﾝﾌﾟ室			
建築面積（㎡）	1,355.80	9.81	9.00			1,374.61
延床面積（㎡）	4,902.78	9.81	9.00			4,921.59
最高高さ（平均GL＋m）	21.573	2.080	3.460			
最高軒高（平均GL＋m）	21.343	2.015	-			
構造・階数	RC造・4階	その他・1階	その他・1階			
耐火建築物等	耐火建築物	その他建築物	その他建築物			

申請建物 建築面積合計：1,374.61㎡

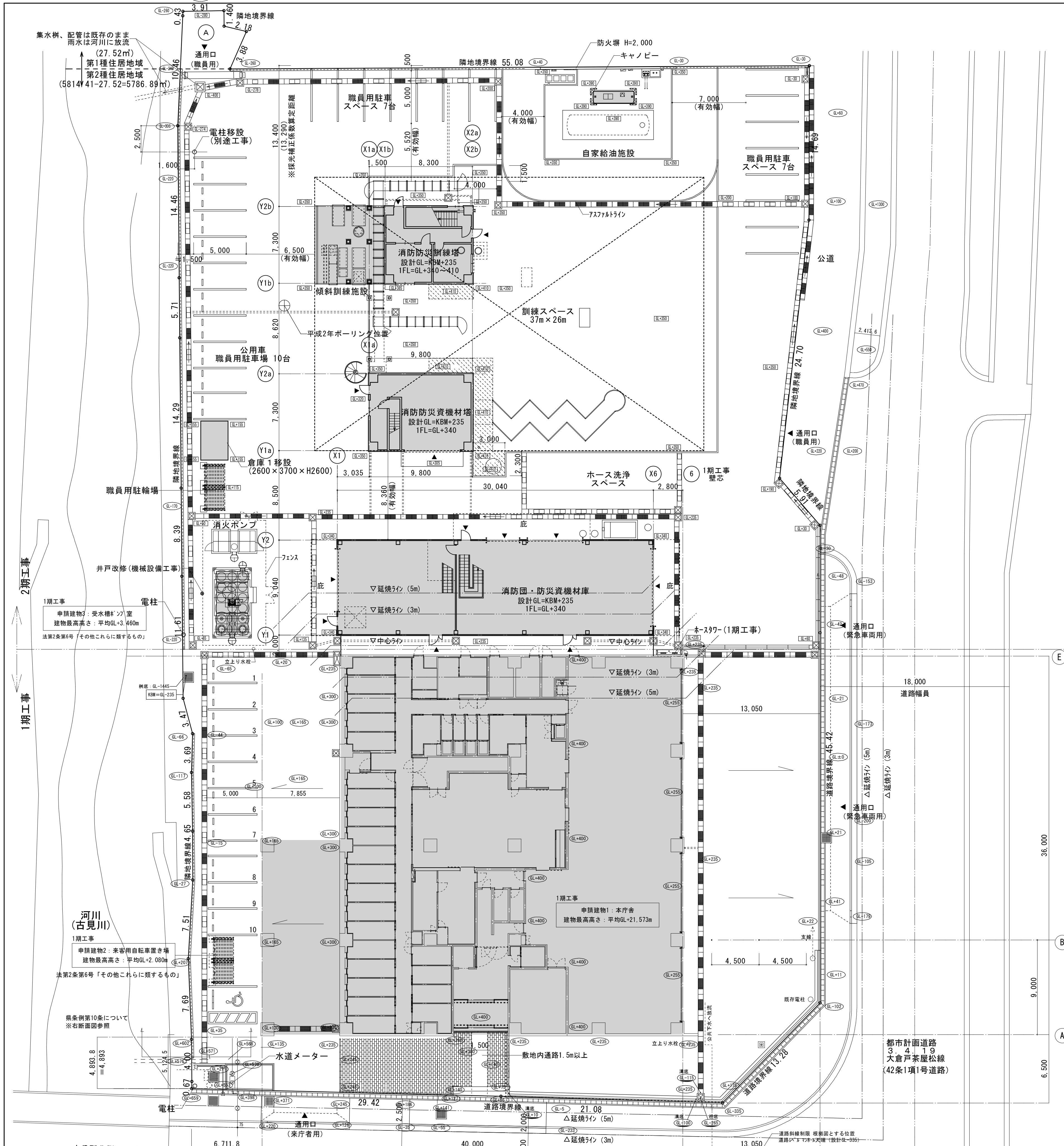
申請建物 延床面積合計：4,921.59㎡　（延床面積根拠より容積率において 4,320.19㎡）

GL+※：舗装仕上げレベルを示す。

配置図

※道路斜線検討→問題無し。
※隣地斜線検討→問題無し。

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所	検図	年月日	図面名称	縮尺	図面番号
		〒433-8119 浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333(代) FAX：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp		R 8. 5. 29	配置図（現況）	A1 1/200 A3 1/400	A－14
		事務所登録 第3620号 一級建築士登録 第278915号 設備設計一級建築士交付 第2724号 清水 基史					



■敷地概要

建設場所	静岡県湖西市古見字茶屋松 1068-1、1068-2、1069-1、1070-1、1076-1、1077-1、1077-2、1077-9、1077-11、1078-1、1079-9		
敷地面積	5,814.41㎡		
用途地域	第2種住居地域・第1種住居地域		
防火地域	指定なし(法22条地域)		
指定建ぺい率	70%(60%+角地10%)	計画建ぺい率	1,904.65/5,814.41×100=32.757235 70% ＞ 32.75% → OK
指定容積率	200%	計画容積率	5,125.44/5,814.41×100=88.150646 200% ＞ 88.15% → OK
地域地区	都市計画区域(市街化区域)		

■申請建築概要(2期工事)

※( )内は傾斜訓練施設を示す

	申請建物5	申請建物6	申請建物7	申請建物8
	消防団・防災資機材庫	消防防災資機材塔・消防防災訓練塔	自家給油施設	倉庫1
建築面積(㎡)	320.77	184.92	4.42	9.62
延床面積(㎡)	432.74	469.39	4.42	9.62
最高高さ(平均GL＋m)	8.421	13.167	2.795	2.600
最高軒高(平均GL＋m)	7.861	10.537	2.700	2.500
構造･階数	S造・2階	RC造+(S造)・3階	S造・1階	プレハブ造・1階
耐火建築物等	その他建築物	その他建築物	その他建築物	その他建築物

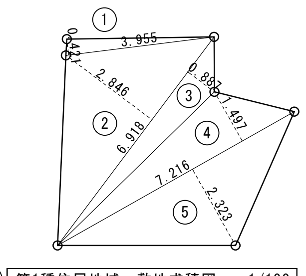
	申請建物4		合計
	職員用駐輪場		
建築面積(㎡)	10.31		530.04
延床面積(㎡)	10.31		926.48
最高高さ(平均GL＋m)	2.140		
最高軒高(平均GL＋m)	2.075		
構造･階数	その他・1階		
耐火建築物等	その他建築物		

申請建物 建築面積合計(1期工事＋2期工事):1,374.61＋530.04＝1,904.65㎡

申請建物 延床面積合計(1期工事＋2期工事):4,921.59＋926.48＝5,848.07㎡ 【延床面積根拠より容積率において(1期工事＋2期工事):4,320.19＋805.25＝5,125.44㎡】

■申請建築概要(1期工事)

	申請建物1	申請建物2	申請建物3			合計
	本庁舎	来客用自転車置き場	受水槽ﾎﾟﾝﾌﾟ室			
建築面積(㎡)	1,355.80	9.81	9.00			1,374.61
延床面積(㎡)	4,902.78	9.81	9.00			4,921.59
最高高さ(平均GL＋m)	21,573	2.080	3.460			
最高軒高(平均GL＋m)	21,343	2.015	-			
構造･階数	RC造・4階	その他・1階	その他・1階			
耐火建築物等	耐火建築物	その他建築物	その他建築物			



(A) 第1種住居地域 敷地求積図 1/100

番号	底辺(m)	高さ(m)	倍面積(㎡)
①	3.955	0.421	1.665055
②	6.918	2.846	19.688628
③	6.918	0.887	6.136266
④	7.216	1.497	10.802352
⑤	7.216	2.323	16.762768
倍面積合計(㎡)			55.055069
面積合計(㎡)			27.52~~7534~~

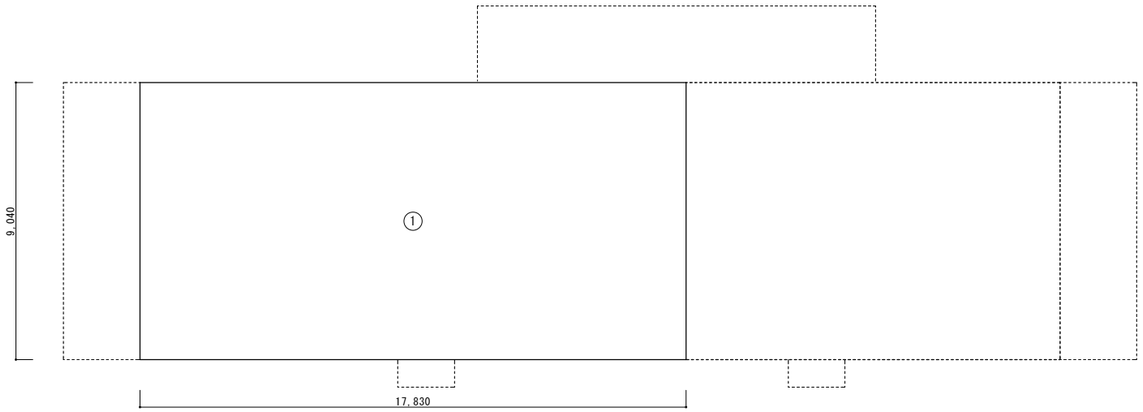
配置図

※道路斜線検討→問題無し。
※隣地斜線検討→問題無し。
※盛土規制法にかかる工事無し。

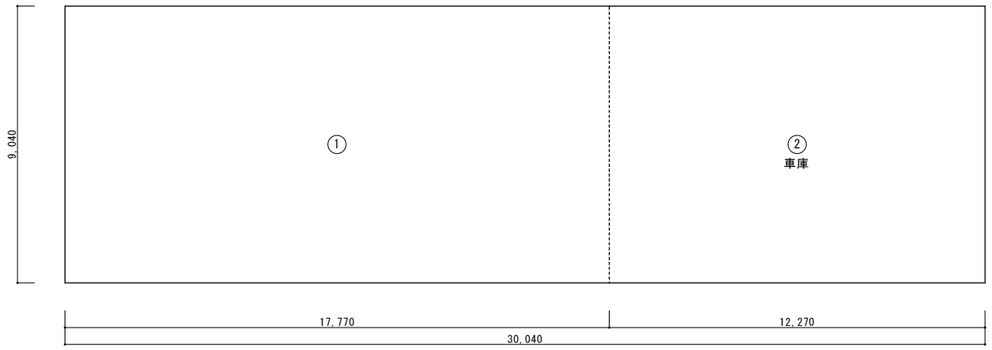
GL+※ :舗装仕上げレベルを示す。(1期工事・外部)
GL+350 :舗装仕上げレベルを示す。(2期工事)
:1期工事範囲を示す。(工事対象外)
:舗装レベルGL+410範囲を示す。(施工範囲は現場協議による)

備考	令和8年度 湖西市消防防災センター第2期建設工事(建築工事)	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録 第3620号 一級建築士登録 第278915号 設備設計一級建築士交付 第2724号 清水 基史	〒433-8119 浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL:053-439-0333(代) FAX:053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検図	
年月日	R 8. 5. 29	図面名称	配置図(改修後)	縮尺	A1 1/200 A3 1/400
図面番号	A－15				

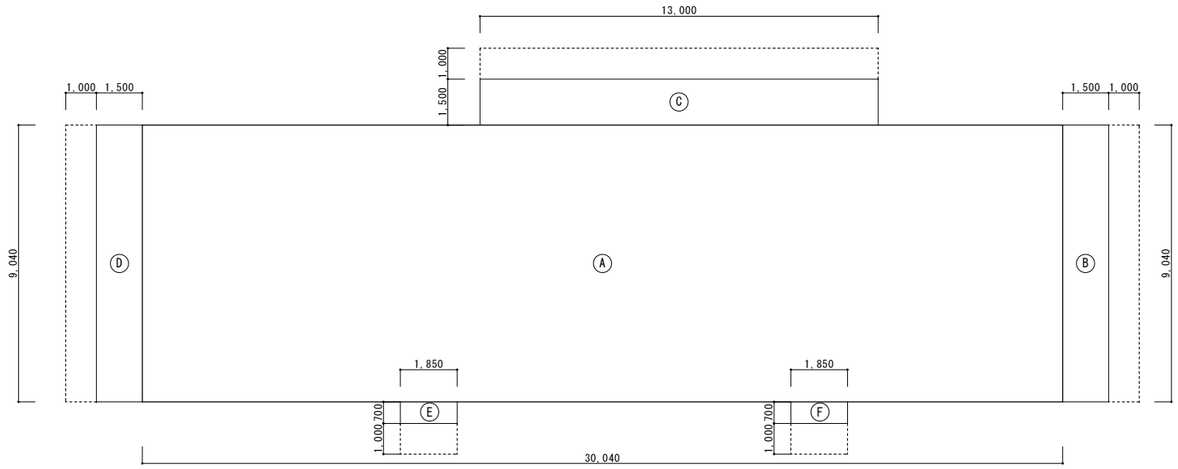
消防団・防災資機材庫



２階床面積求積図　1/100



１階床面積求積図　1/100



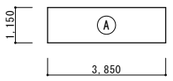
建築面積求積図　1/100

消防団・防災資機材庫　床面積求積表						(㎡)
１階床面積	①	17.770	×	9.040	＝	160.6408
	②	12.270	×	9.040	＝	110.9208
		合計				271.56~~16~~
２階床面積	③	17.830	×	9.040	＝	161.1832
		合計				161.18~~32~~
延べ床面積						432.74

消防団・防災資機材庫　容積率算定根拠						(㎡)
延べ床面積						432.74
自動車車庫	②	12.270	×	9.040	＝	▲110.92~~08~~
合計						321.82

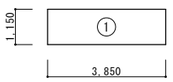
消防防災訓練塔　建築面積求積表											(㎡)
建築面積	Ⓐ	30.040	×	9.040	＝	271.5616	Ⓔ	0.700	×	1.850	＝ 1.2950
	Ⓑ	1.500	×	9.040	＝	13.5600	Ⓕ	0.700	×	1.850	＝ 1.2950
	Ⓒ	13.000	×	1.500	＝	19.5000		合計			320.77~~16~~
	Ⓓ	1.500	×	9.040	＝	13.5600					
建築面積											320.77

自家給油施設



建築面積求積図　1/100

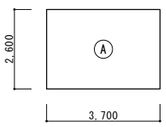
自家給油施設　建築面積求積表						(㎡)
建築面積	Ⓐ	3.850	×	1.150	＝	4.4275
		合計				4.42~~75~~
建築面積						4.42



１階床面積求積図　1/100

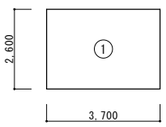
自家給油施設　床面積求積表						(㎡)
１階床面積	①	3.850	×	1.150	＝	4.4275
		合計				4.42~~75~~
延べ床面積						4.42

倉庫１



建築面積求積図　1/100

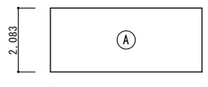
倉庫１　建築面積求積表						(㎡)
建築面積	Ⓐ	3.700	×	2.600	＝	9.6200
		合計				9.62~~00~~
建築面積						9.62



１階床面積求積図　1/100

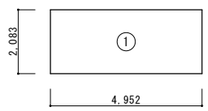
倉庫１　床面積求積表						(㎡)
１階床面積	①	3.700	×	2.600	＝	9.6200
		合計				9.62~~00~~
延べ床面積						9.62

職員用駐輪場



建築面積求積図　1/100

倉庫１　建築面積求積表						(㎡)
建築面積	Ⓐ	4.952	×	2.083	＝	10.3150
		合計				10.31~~50~~
建築面積						10.31



１階床面積求積図　1/100

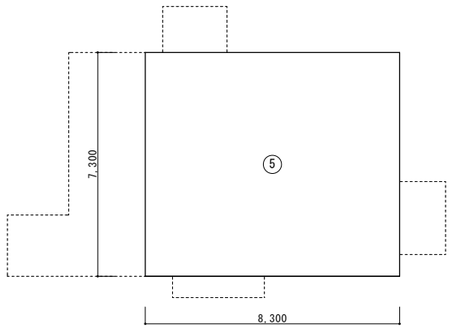
倉庫１　床面積求積表						(㎡)
１階床面積	①	4.952	×	2.083	＝	10.3150
		合計				10.31~~50~~
延べ床面積						10.31

備考

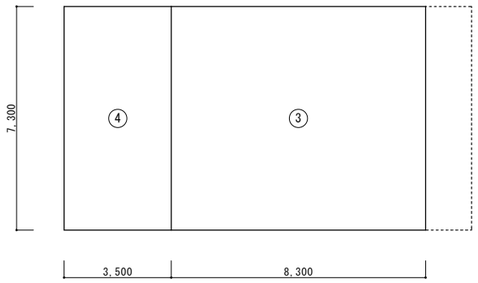
令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）

株式会社 白柳一級建築設計事務所
事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史
〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号
TEL：053-439-0333（代）
FAX：053-439-7500
E-mail：info@sarct.jp

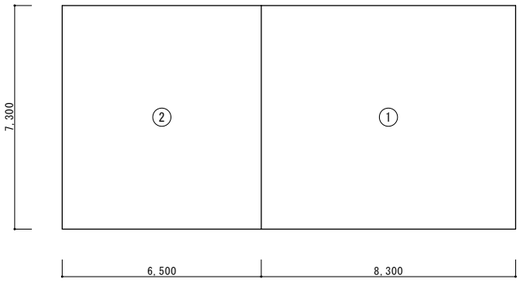
検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
	R 8. 5. 29	床面積求積図－１	A1	1/100	A－１６
			A3	1/200	



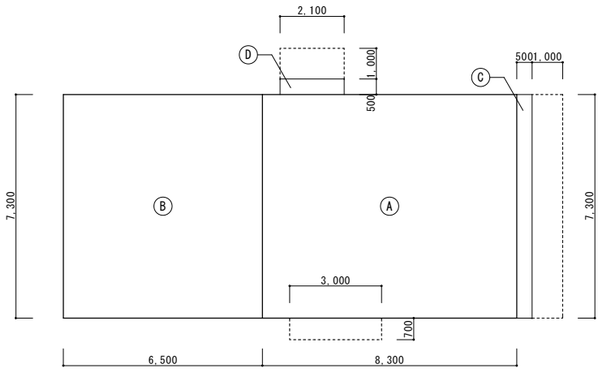
３階床面積求積図　1/100



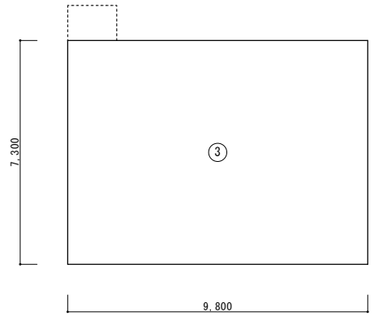
２階床面積求積図　1/100



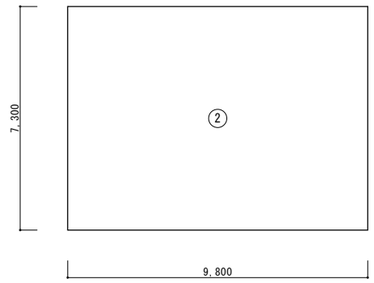
１階床面積求積図　1/100



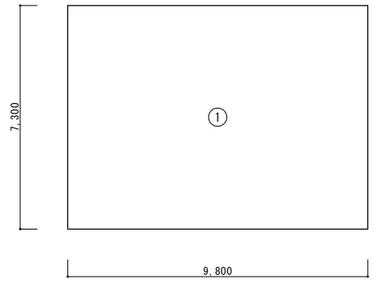
建築面積求積図　1/100



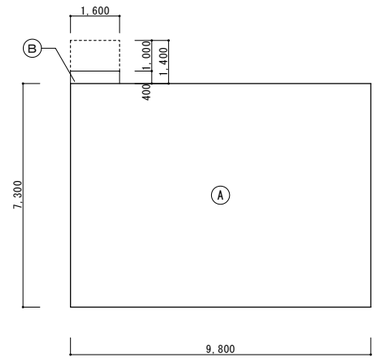
３階床面積求積図　1/100



２階床面積求積図　1/100



１階床面積求積図　1/100



建築面積求積図　1/100

消防防災訓練塔・消防防災資機材塔　床面積求積表　(㎡)

１階床面積		108.04	＋	71.54	＝	179.58
		合計				179.58
２階床面積		86.14	＋	71.54	＝	157.68
		合計				157.68
３階床面積		60.59	＋	71.54	＝	132.13
		合計				132.13
延べ床面積						469.39

消防防災訓練塔・消防防災資機材塔　建築面積求積表　(㎡)

建築面積		112.74	＋	72.18	＝	184.92
		合計				184.92
建築面積						184.92

消防防災訓練塔(全体)　床面積求積表　(㎡)

１階床面積	①	8.300	×	7.300	＝	60.5900
	②	6.500	×	7.300	＝	47.4500
		合計				108.04~~00~~
２階床面積	③	8.300	×	7.300	＝	60.5900
	④	3.500	×	7.300	＝	25.5500
		合計				86.14~~00~~
３階床面積	⑤	8.300	×	7.300	＝	60.5900
						60.59~~00~~
延べ床面積						254.77

【構造独立部分ごとの面積】
※消防防災訓練(RC造)：①60.59+③60.59+⑤60.59=181.77㎡
※傾斜訓練施設(S造)　：②47.45+④25.55=73.00㎡

消防防災訓練塔(全体)　建築面積求積表　(㎡)

建築面積	Ⓐ	8.300	×	7.300	＝	60.5900
	Ⓑ	6.500	×	7.300	＝	47.4500
	Ⓒ	0.500	×	7.300	＝	3.6500
	Ⓓ	2.100	×	0.500	＝	1.0500
		合計				112.74~~00~~
建築面積						112.74

【構造独立部分ごとの面積】
※消防防災訓練(RC造)：A60.59+C3.65+D1.05=65.29㎡
※傾斜訓練施設(S造)　：B47.45=47.45㎡

消防防災資機材塔　床面積求積表　(㎡)

１階床面積	①	9.800	×	7.300	＝	71.5400
		合計				71.54~~00~~
２階床面積	③	9.800	×	7.300	＝	71.5400
		合計				71.54~~00~~
３階床面積	⑤	9.800	×	7.300	＝	71.5400
		合計				71.54~~00~~
延べ床面積						214.62

消防防災資機材塔　建築面積求積表　(㎡)

建築面積	Ⓐ	9.800	×	7.300	＝	71.5400
	Ⓑ	1.600	×	0.400	＝	0.6400
		合計				72.18~~00~~
建築面積						72.18

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053－439－0333（代） ＦＡＸ：053－439－7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	床面積求積図－２	A1	1/100	Ａ－１７
							A3	1/200	

外部仕上表

名　称		仕　　上	名　称		仕　　上
屋　根		屋根：はぜ式(H166)二重折板断熱工法 上葺材：塗装GL鋼板 厚0.8　／　下葺材GL鋼板素地 厚0.6 断熱材：グラスウール 厚100 16kg/m3 裏貼材：不燃断熱材 厚5	鉄部見え掛り		亜鉛ﾒｯｷ処理
外　壁		透湿防水シート 窯業系サイディングt=16（塗装品、横張、通気金物共）	断熱材		外壁：グラスウールt=50（24kg品） 土間下：硬質ポリスチレンフォーム保温板(3種b)厚25
パラペット内側壁		透湿防水シート 角波サイディング 塗装GL鋼板 厚0.5	開口部		窓・ドア：アルミ製 電解着色品 東側・北側外部シャッター：電動オーバースライダー 西側外部シャッター：電動重量シャッター　焼付塗装
笠　木		アルミ笠木　200形　電解着色	樋	屋根	軒樋：塩ビ角型前高 W=200 ドレイン：自在ドレイン VP100用 竪樋：カラーVP100
庇	大庇	はぜ式折板 塗装GL鋼板 厚0.6 H90		大庇	軒樋：塩ビ角型前高 W=200 ドレイン：自在ドレイン VP100用 竪樋：カラーVP100
	小庇	既製品アルミ庇 先端樋付W1850×D1700(アルフィン AD-1同等品)	ガードパイプ		スチール製ガードポスト φ101.6 H=1,100 既成品　基礎(500×500×500)共
外部巾木		コンクリート打放し　1-FUCクリアー 誘発目地@1,500程度(目地材充填)	犬走り		コンクリート金ゴテ仕上 誘発目地@3,000程度(目地材充填) 砕石：クラッシャーラン 厚100
水　切		外部巾木取合：カラーGL鋼板 厚0.6	外構		外構図(外構リスト参照)
軒　天		折板裏表し	土間下地盤改良		セメント安定処理　セメント系固化剤80kg／m3　GL-800mm

内部仕上表

階	室　名	FL	CH	床 下地	床 仕上	巾木 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	廻縁	備　考	備品・別途
1階	防災資機材庫	±0	——	コンクリート	コンクリート直均し　ケイ酸塩系表面強化剤塗布 誘発目地@3,000程度(目地材充填)	コンクリート打放し補修	鉄骨胴縁、LGS25 LGS100	石膏ボードt=12.5　素地 石膏ボードt=12.5　素地	——	デッキ裏表し 鉄部：SOP塗	——	荷揚げ注意喚起塗装2400×2400(ゼブラ) 荷揚げ注意喚起看板900×600 中量ボルトレスラック・注意喚起塗装(ゼブラ)1000×1200	
	消防団資機材庫	±0	——	コンクリート	コンクリート直均し　ケイ酸塩系表面強化剤塗布 誘発目地@3,000程度(目地材充填)	コンクリート打放し補修	鉄骨胴縁、LGS25 LGS100	石膏ボードt=12.5　素地 石膏ボードt=12.5　素地	——	デッキ裏表し 鉄部：SOP塗	——	中量ボルトレスラック・注意喚起塗装(ゼブラ)1000×1200	
	消防団車庫	±0	——	コンクリート	コンクリート直均し　ケイ酸塩系表面強化剤塗布 誘発目地@3,000程度(目地材充填)	コンクリート打放し補修	鉄骨胴縁、LGS25	石膏ボードt=12.5　素地	——	折板裏表し 鉄部：SOP塗	——		
2階	防災資機材庫	±0	——	コンクリート	コンクリート直均し　ケイ酸塩系表面強化剤塗布	ソフト巾木　H100	鉄骨胴縁、LGS25 LGS100	石膏ボードt=12.5　素地 石膏ボードt=12.5　素地	——	折板裏表し 鉄部：SOP塗	——	電動ホイスト式クレーン 2t・中量ボルトレスラック スチール製落下防止手摺 H=1,100 荷揚げ注意喚起看板900×600・注意喚起塗装(ゼブラ)2300×8000	
	消防団資機材庫	±0	——	コンクリート	コンクリート直均し　ケイ酸塩系表面強化剤塗布	ソフト巾木　H100	鉄骨胴縁、LGS25 LGS65	石膏ボードt=12.5　素地 石膏ボードt=12.5　素地	——	折板裏表し 鉄部：SOP塗	——	中量ボルトレスラック・注意喚起塗装(ゼブラ)2000×1000	
共通	階段A	±0	——	コンクリート	コンクリート直均し　ケイ酸塩系表面強化剤塗布	鉄骨ササラ桁　SOP塗	鉄骨胴縁、LGS25 LGS100 鉄部	石膏ボードt=12.5　素地 石膏ボードt=12.5　素地 SOP塗	——	折板裏表し 鉄部：SOP塗	——	段鼻：SUS製ノンスリップ（ゴムタイヤ付） 手摺：※階段詳細図参照	
	階段B	±0	——	コンクリート	コンクリート直均し　ケイ酸塩系表面強化剤塗布	鉄骨ササラ桁　SOP塗	鉄骨胴縁、LGS25 LGS100 鉄部	石膏ボードt=12.5　素地 石膏ボードt=12.5　素地 SOP塗	——	折板裏表し 鉄部：SOP塗	——	段鼻：SUS製ノンスリップ（ゴムタイヤ付） 手摺：※階段詳細図参照	

特　記　事　項
壁、天井、床、建具、収納等の仕上材はＦ☆☆☆☆を使用する。
土間スラブ下断熱材：硬質ポリスチレンフォーム保温板(3種b)厚25　(※基礎梁際はGL-400mm立ち下げる)
ケイ酸塩系表面強化剤塗布：住友ゴム グリップガードA同等品
窯業系サイディングt=16：ニチハ エクセラード16同等品
土間・スラブ誘発目地：5×15目地材充填(土間用PU-2)@3000以内とする。

防火認定番号		
石膏ボード　厚12.5	不燃	ＮＭ－8619

消防法　無窓階チェック表

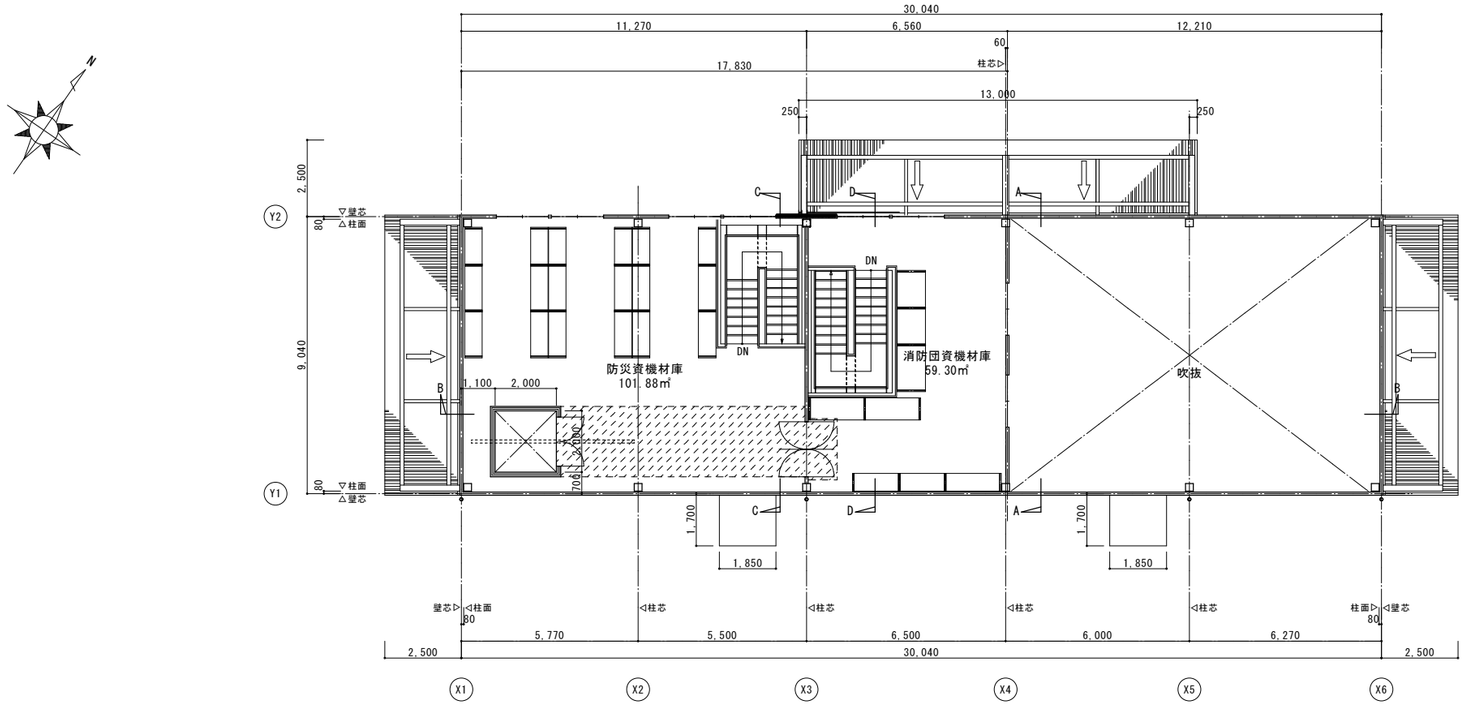
階	床面積(㎡)		必要開口(㎡)		有効開口(㎡) 建具番号	W	H	数	箇所		判定
1階	面積表より	271.56	271.56 × 1/30 =	9.06	AD-1	0.900 ×	2.000 ×	1 ×	2 =	3.60	
					AD-2	1.250 ×	2.000 ×	1 ×	2 =	5.00	
					SS-1	5.900 ×	2.820 ×	1 ×	1 =	16.63	
	合計	271.56	合計	9.06	合計					25.23	普通階
2階	面積表より	161.18	161.18 × 1/30 =	5.38	AW-1	1.700 ×	1.300 ×	2 ×	2 =	8.84	
	合計	161.18	合計	5.38	合計					8.84	普通階

備考

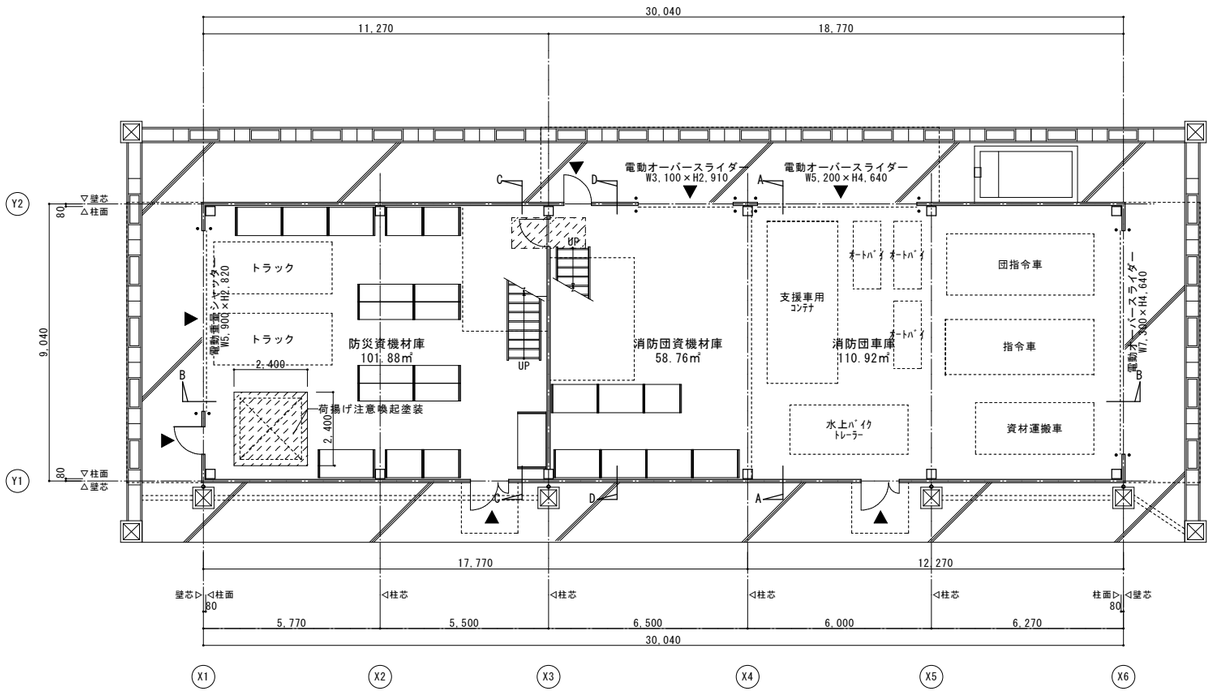
令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）

株式会社 白柳一級建築設計事務所
事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史
〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号
ＴＥＬ：053－439－0333（代）
ＦＡＸ：053－439－7500
E-mail：info@sarct.jp

検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺	図面番号
	Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	Ａ－１８
		仕上表・法チェック表	A3	

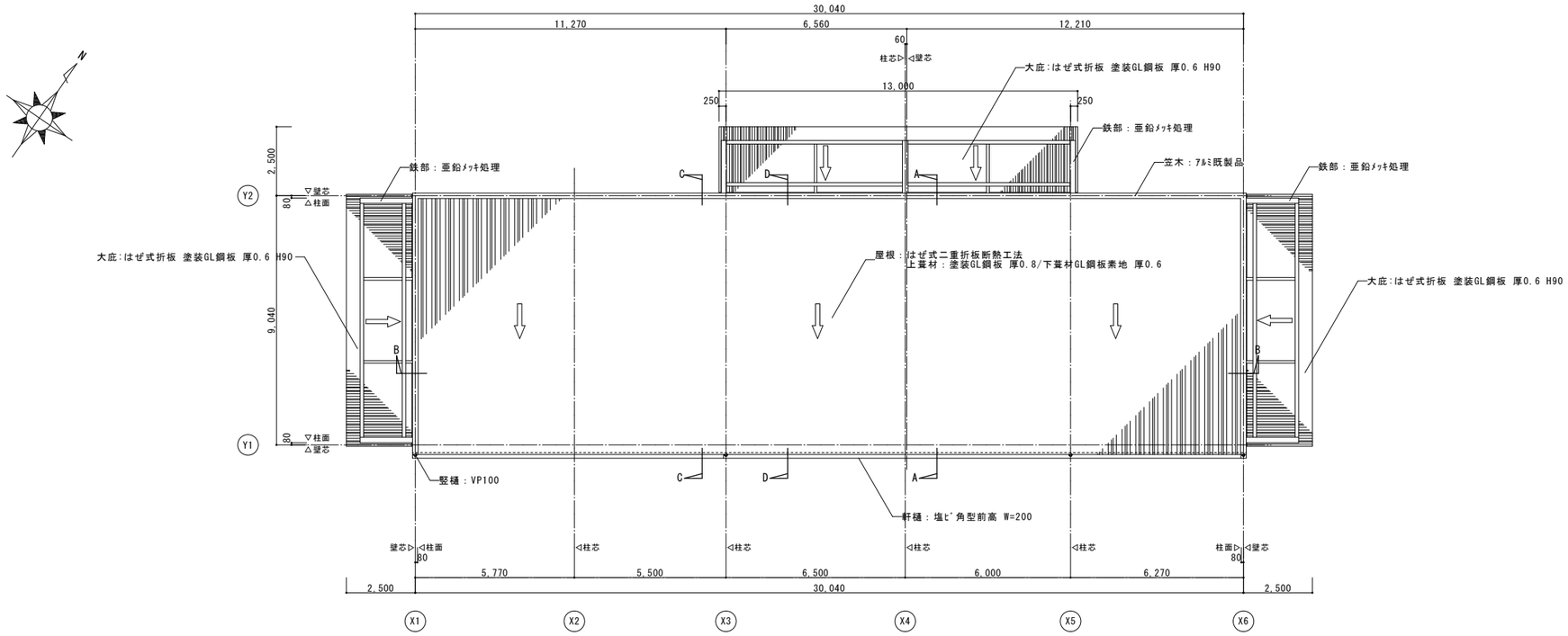


２階平面図　1/100



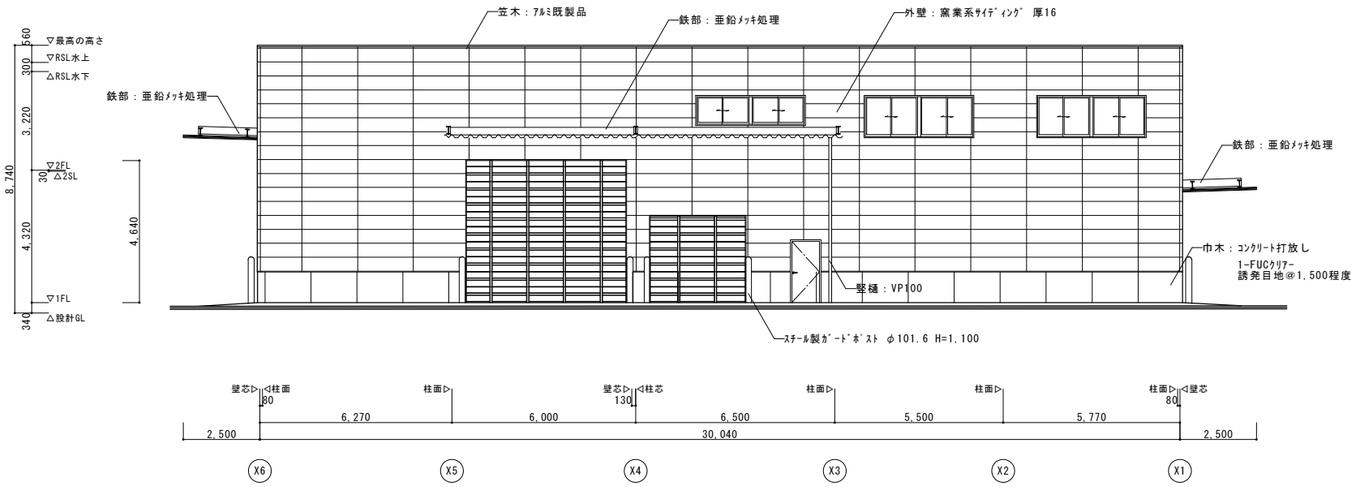
１階平面図　1/100

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053−439−0333（代） ＦＡＸ：053−439−7500 E-mail: info@sarct.jp	検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
					Ｒ８．５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/100	Ａ−１９
						平面図	A3	1/200	

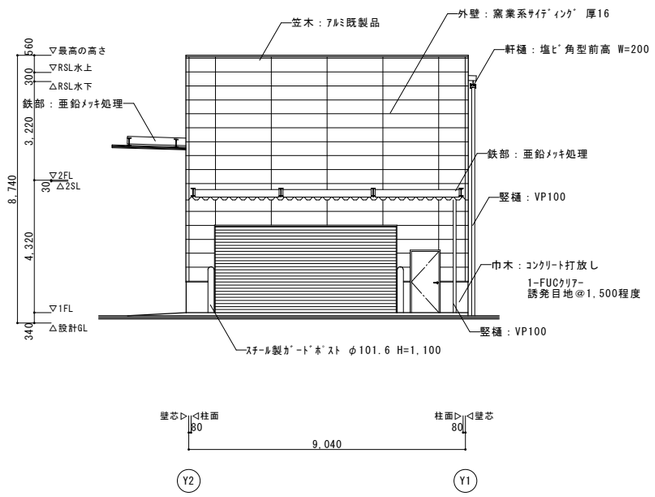


屋根伏図　1/100

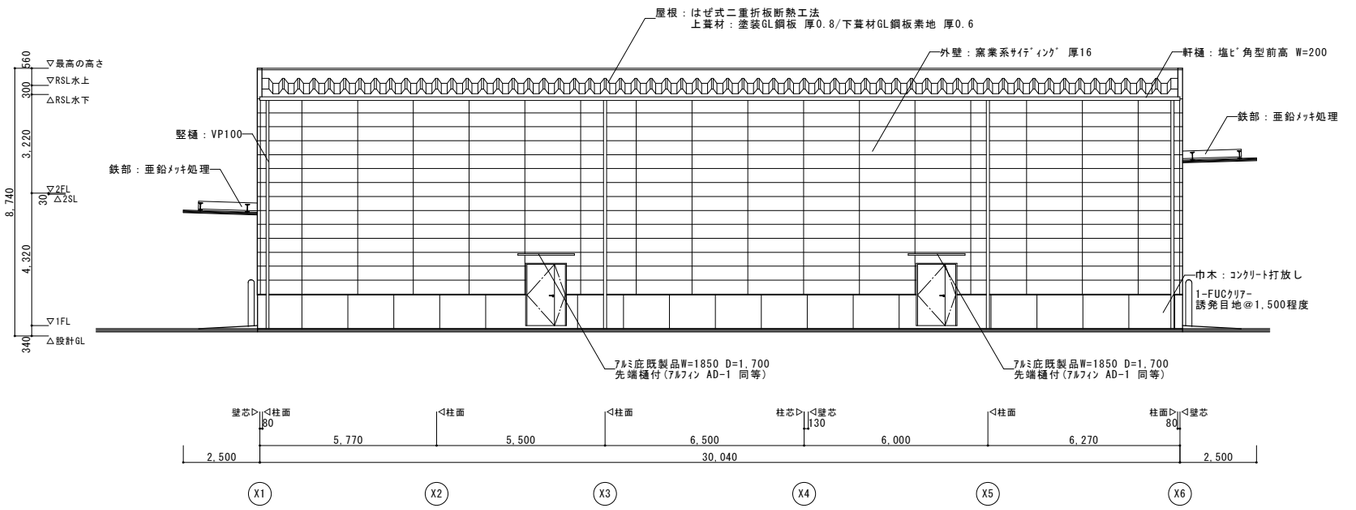
備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053－439－0333（代） ＦＡＸ：053－439－7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/100	Ａ－２０
						屋根伏図	A3	1/200	



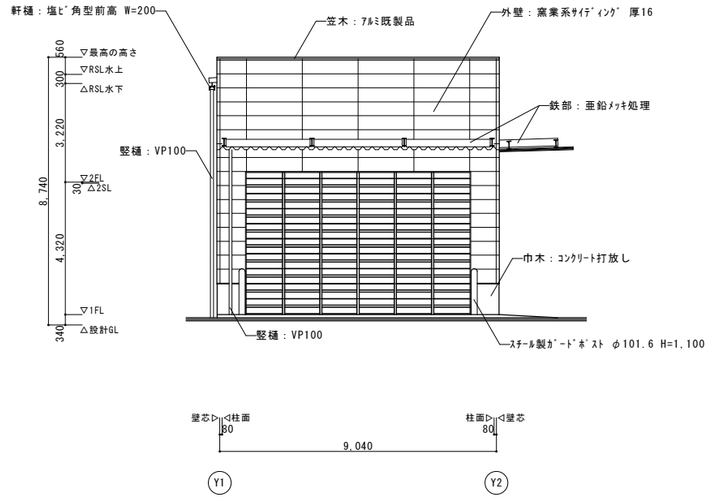
北立面図　1/100



西立面図　1/100

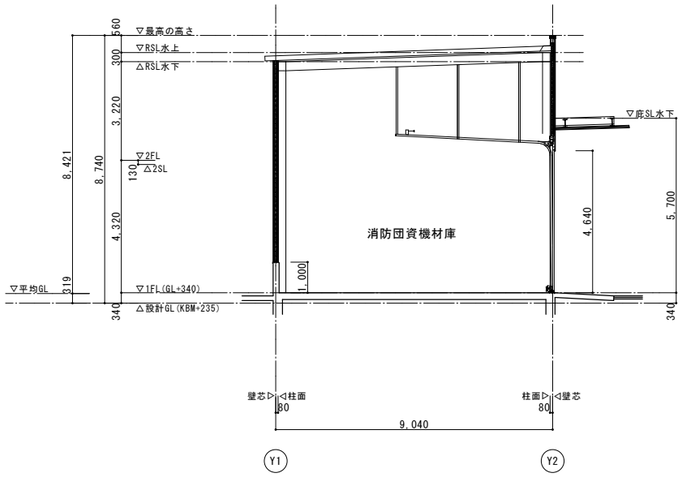


南立面図　1/100

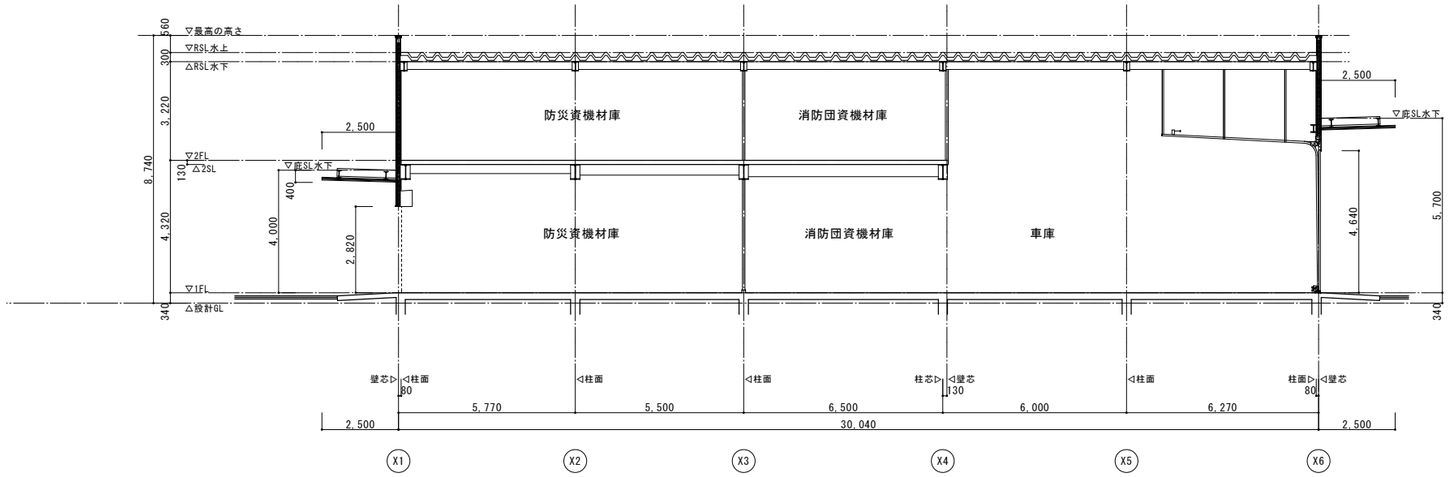


東立面図　1/100

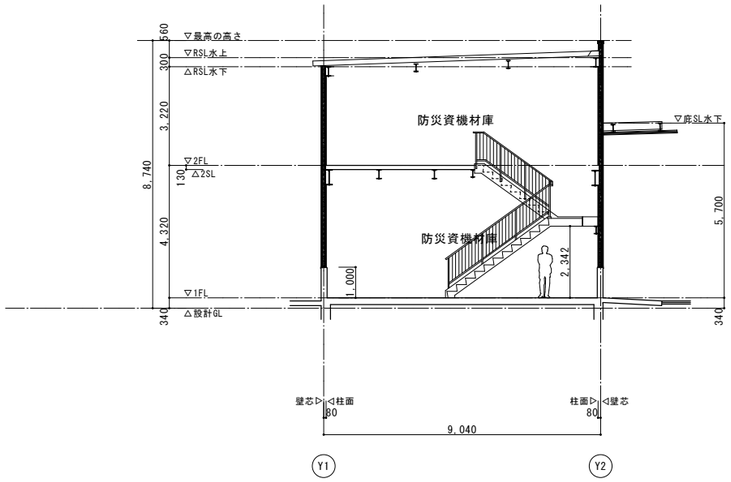
備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053−439−0333（代） ＦＡＸ：053−439−7500 E-mail：info@sarct.jp	検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
					Ｒ８．５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/100	Ａ−２１
						立面図	A3	1/200	



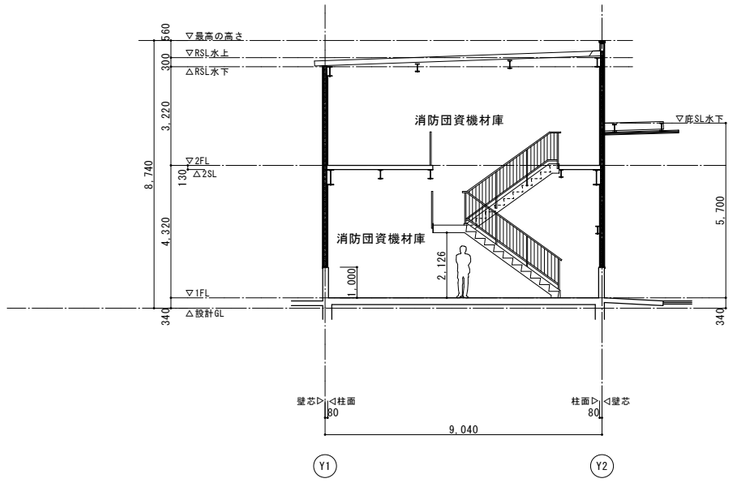
A-A断面図　1/100



B-B断面図　1/100

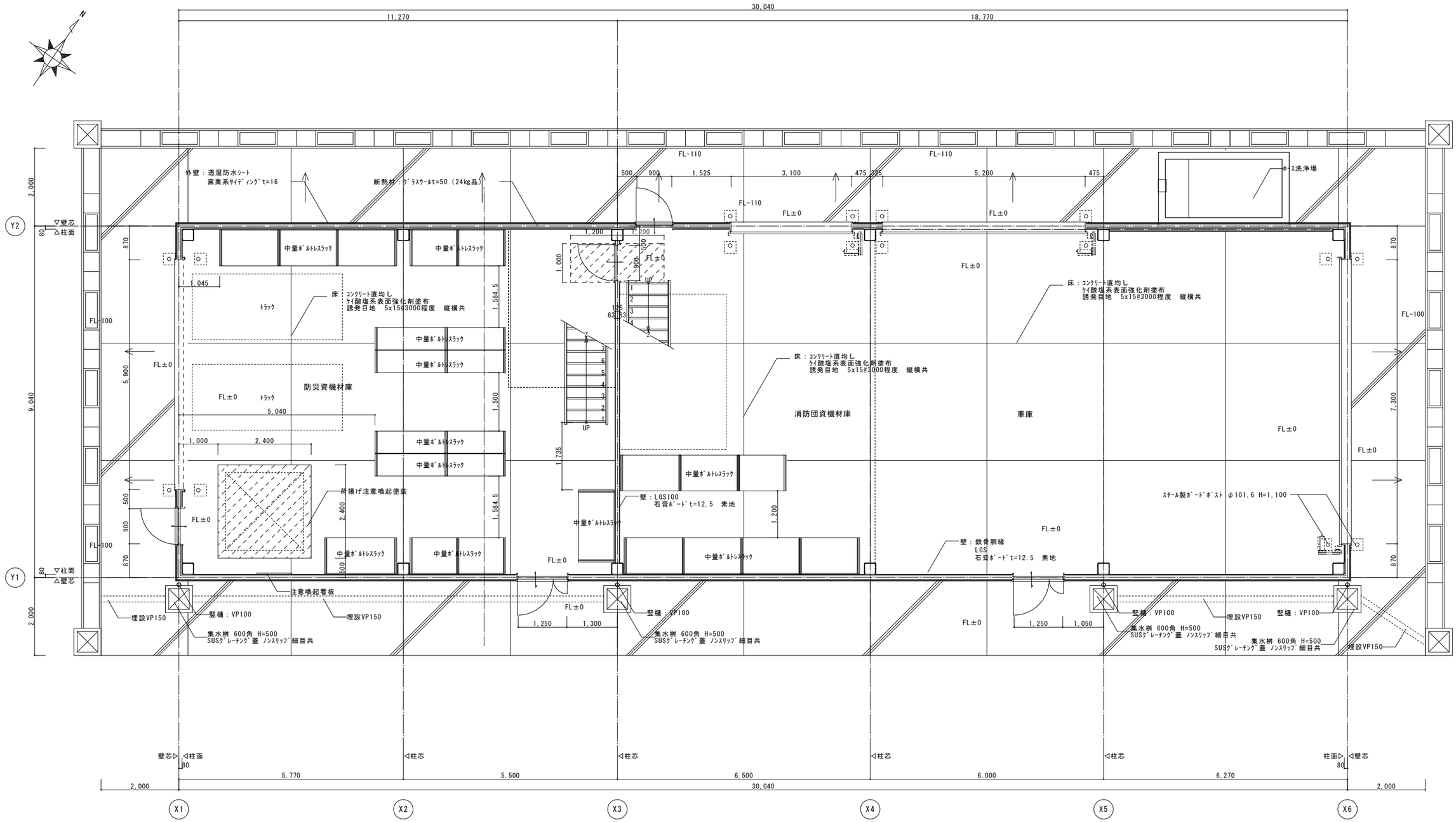


C-C断面図　1/100



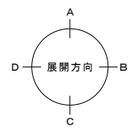
D-D断面図　1/100

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053-439-0333（代） ＦＡＸ：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/100	Ａ－２２
						断面図	A3	1/200	

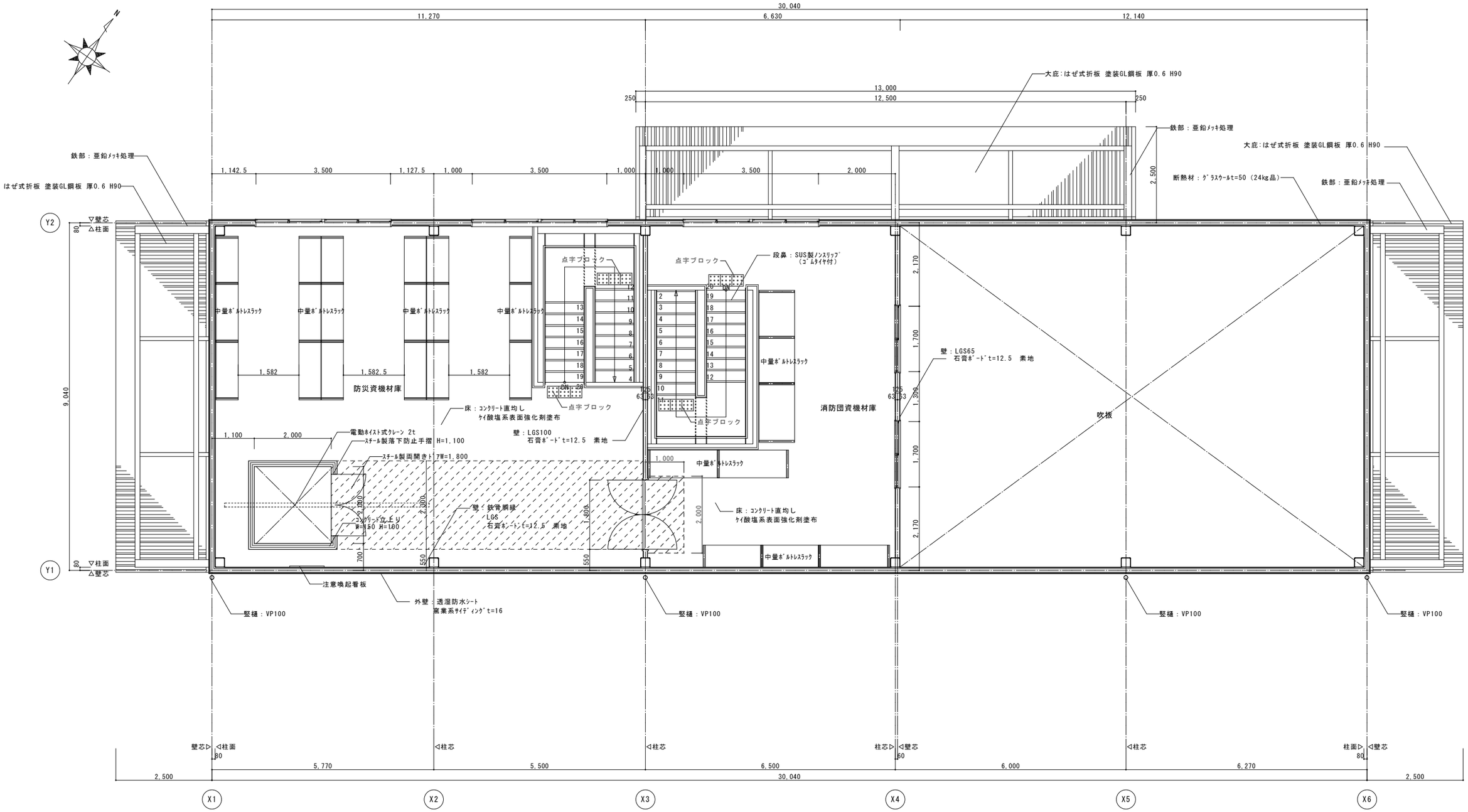


1階平面詳細図　1/50

：注意喚起塗装（ゼブラ）

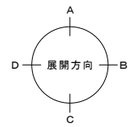


備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333（代） FAX：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					R　8.　5.　29	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	A－23
						1階平面詳細図	A3	1/100	

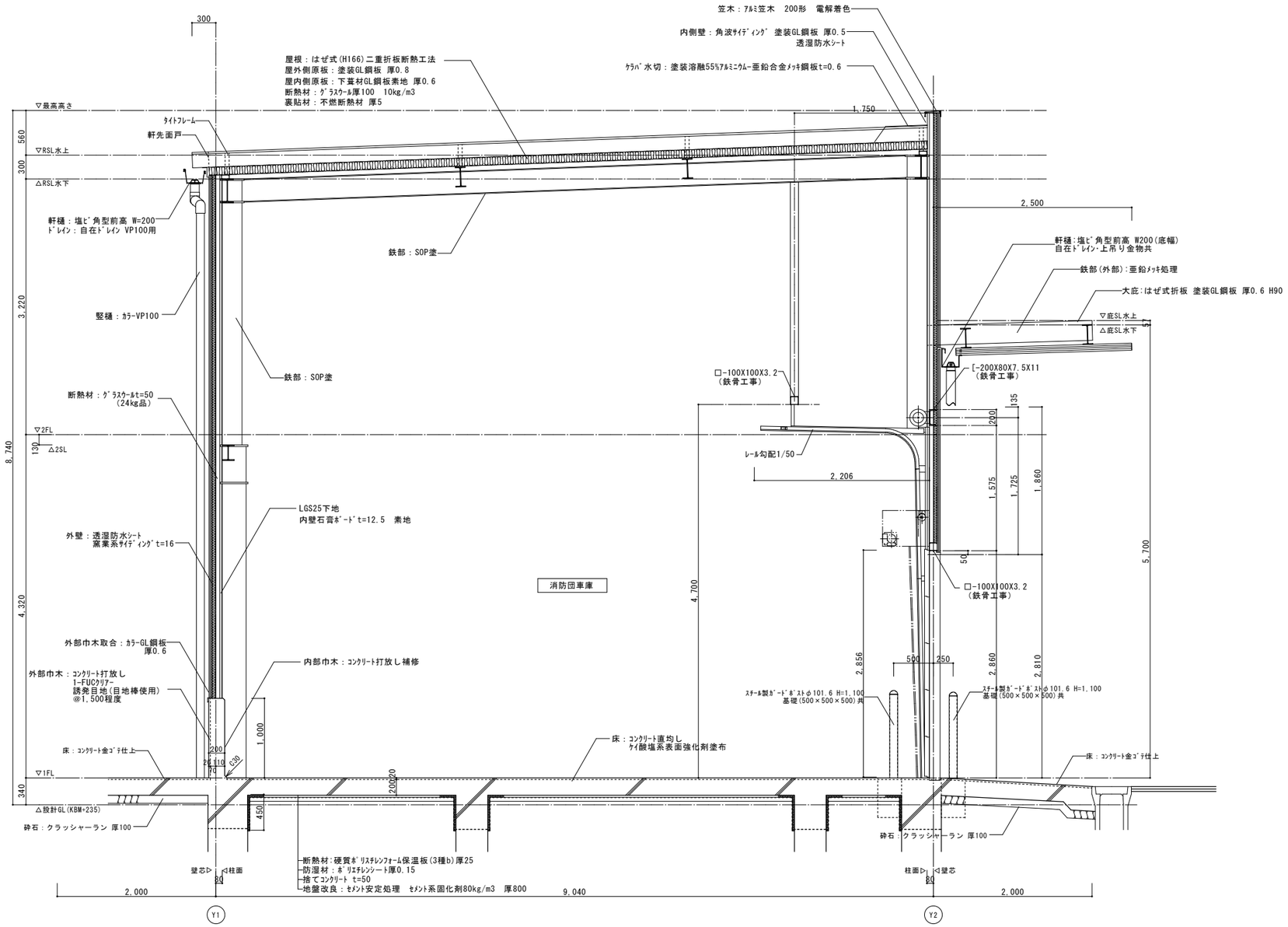


2階平面詳細図 1/50

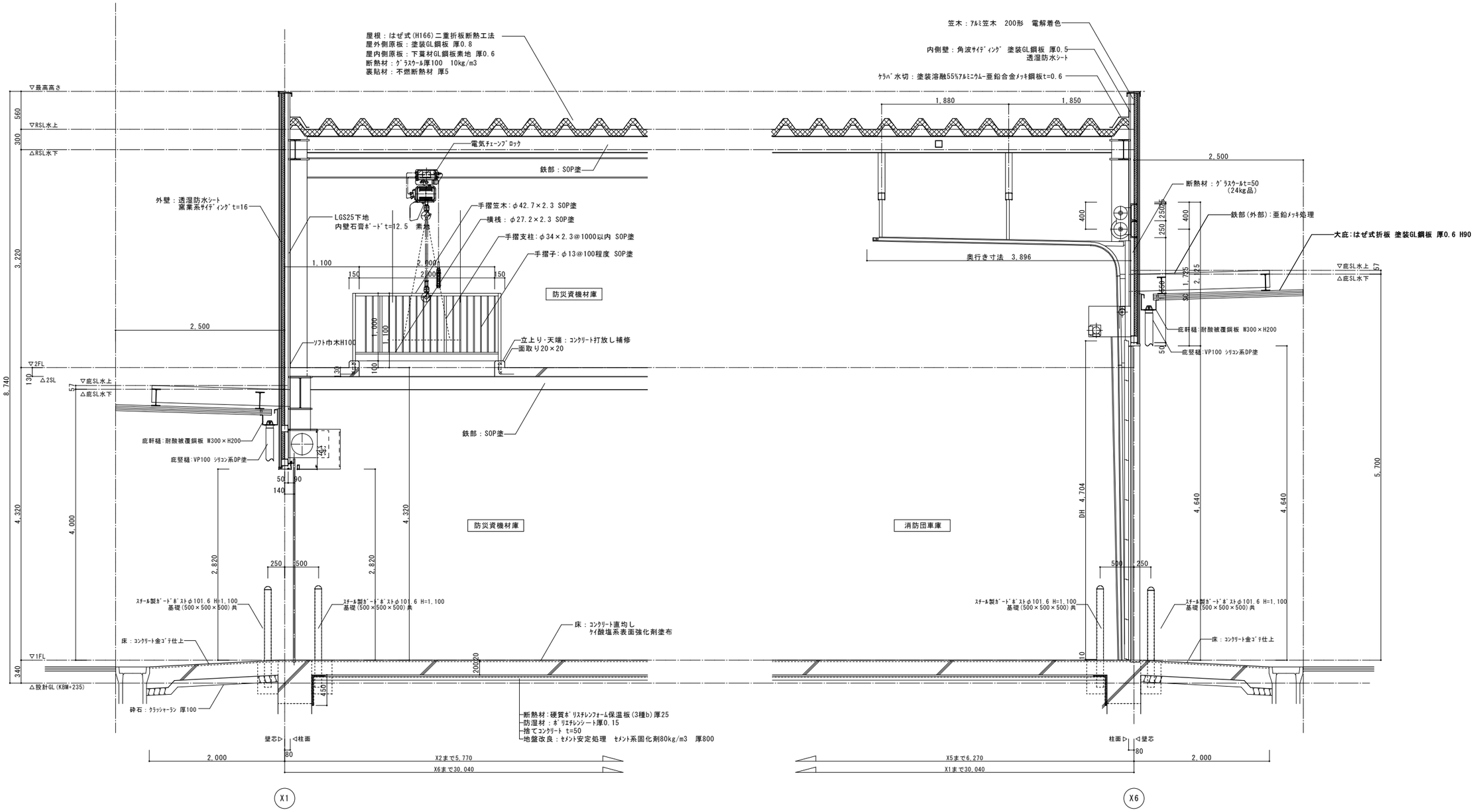
：注意喚起塗装（ゼブラ）



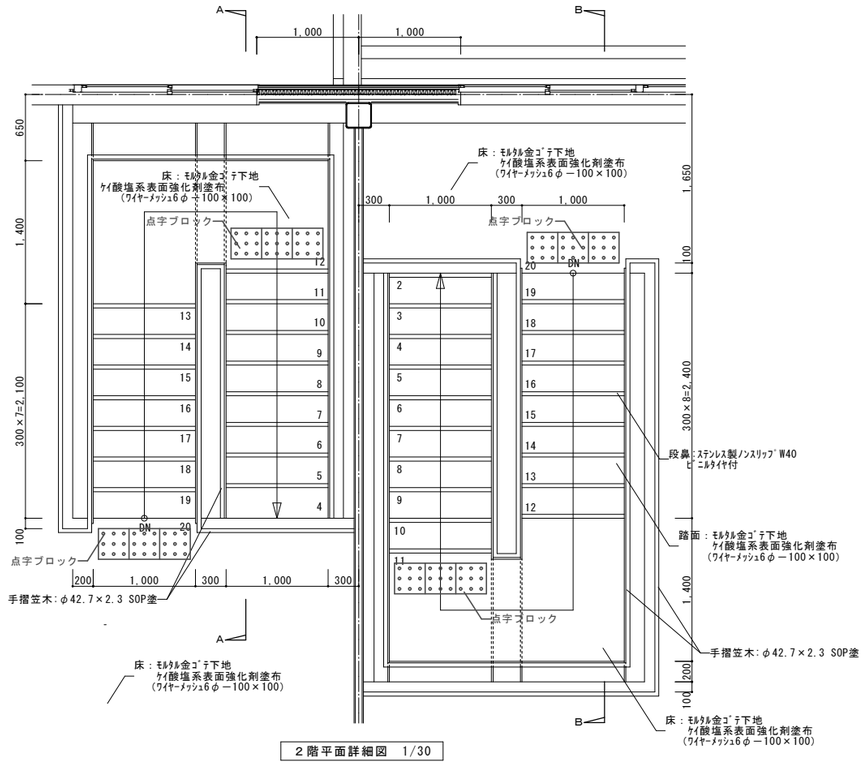
備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録 第3620号　一級建築士登録 第278915号　設備設計一級建築士交付 第2724号　清水 基史	〒433-8119 浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333(代) FAX：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
					R 8. 5. 29	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	A－24
						2階平面詳細図	A3	1/100	



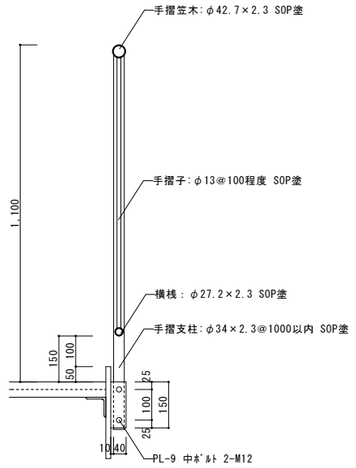
備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053−439−0333（代） FAX：053−439−7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日 R　8.　5.　29	図面名称 消防団・防災資機材庫 断面詳細図－１	縮　尺 A1　1/30 A3　1/60	図面番号 A－25



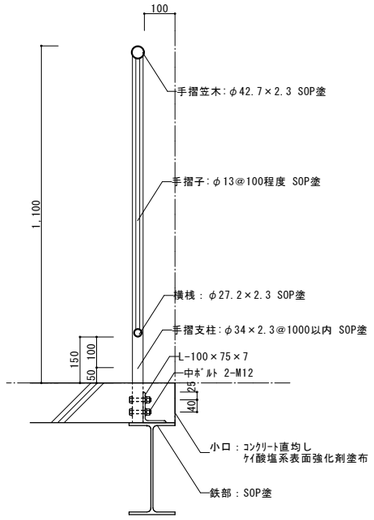
備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録 第3620号　一級建築士登録 第278915号　設備設計一級建築士交付 第2724号　清水 基史	〒433-8119 浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053−439−0333（代） FAX：053−439−7500 E-mail：info@sarct.jp	検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
					R 8. 5. 29	消防団・防災資機材庫	A1	1/30	A－26
						断面詳細図－２	A3	1/100	



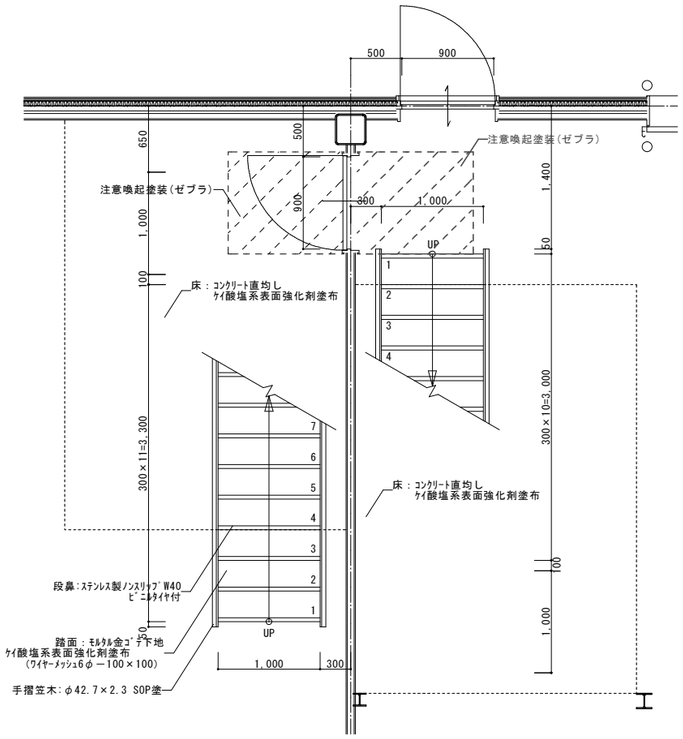
２階平面詳細図　1/30



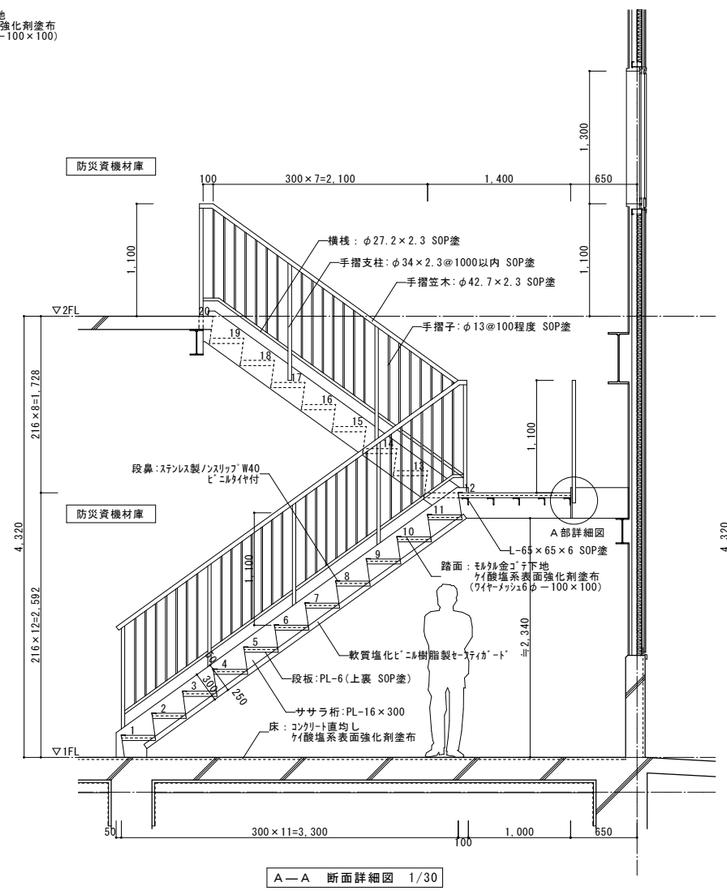
Ａ部詳細図　1/10



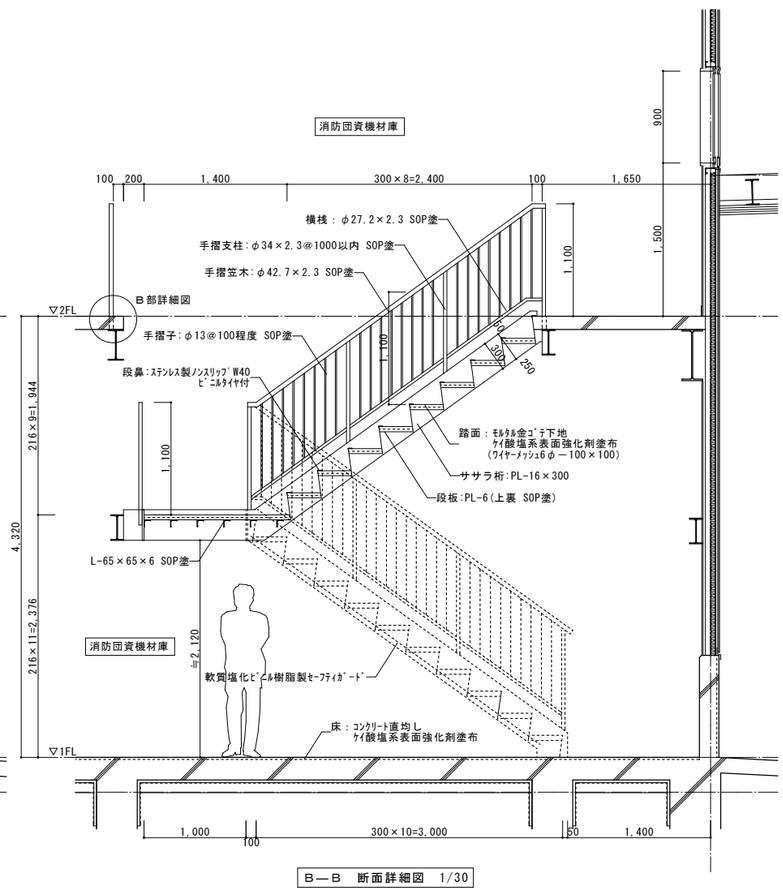
Ｂ部詳細図　1/10



１階平面詳細図　1/30



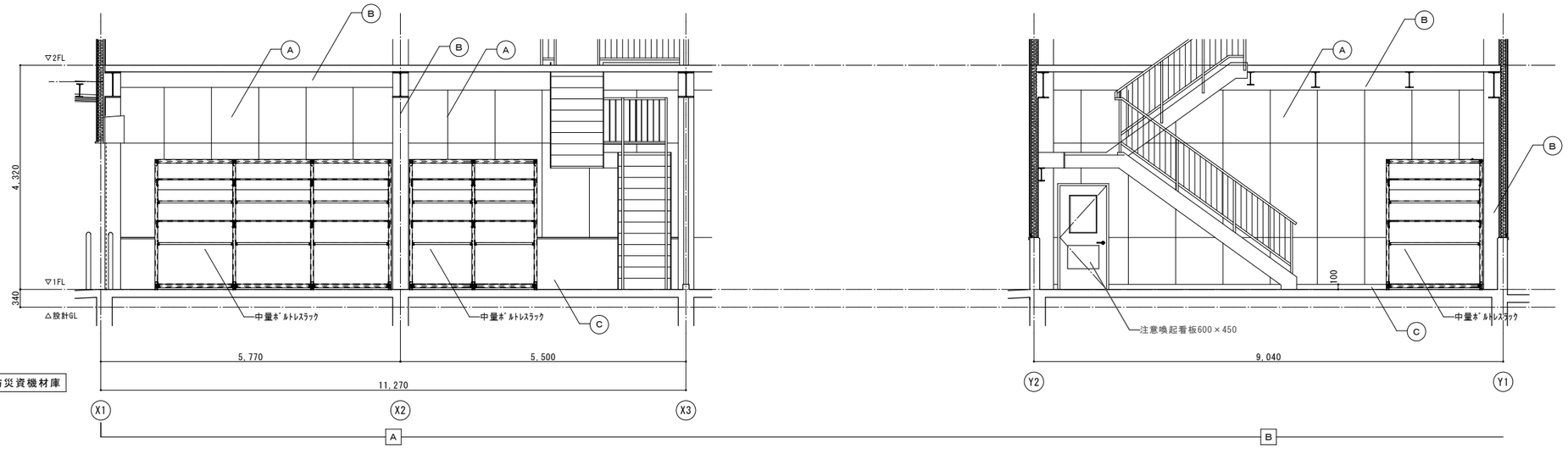
Ａ―Ａ　断面詳細図　1/30



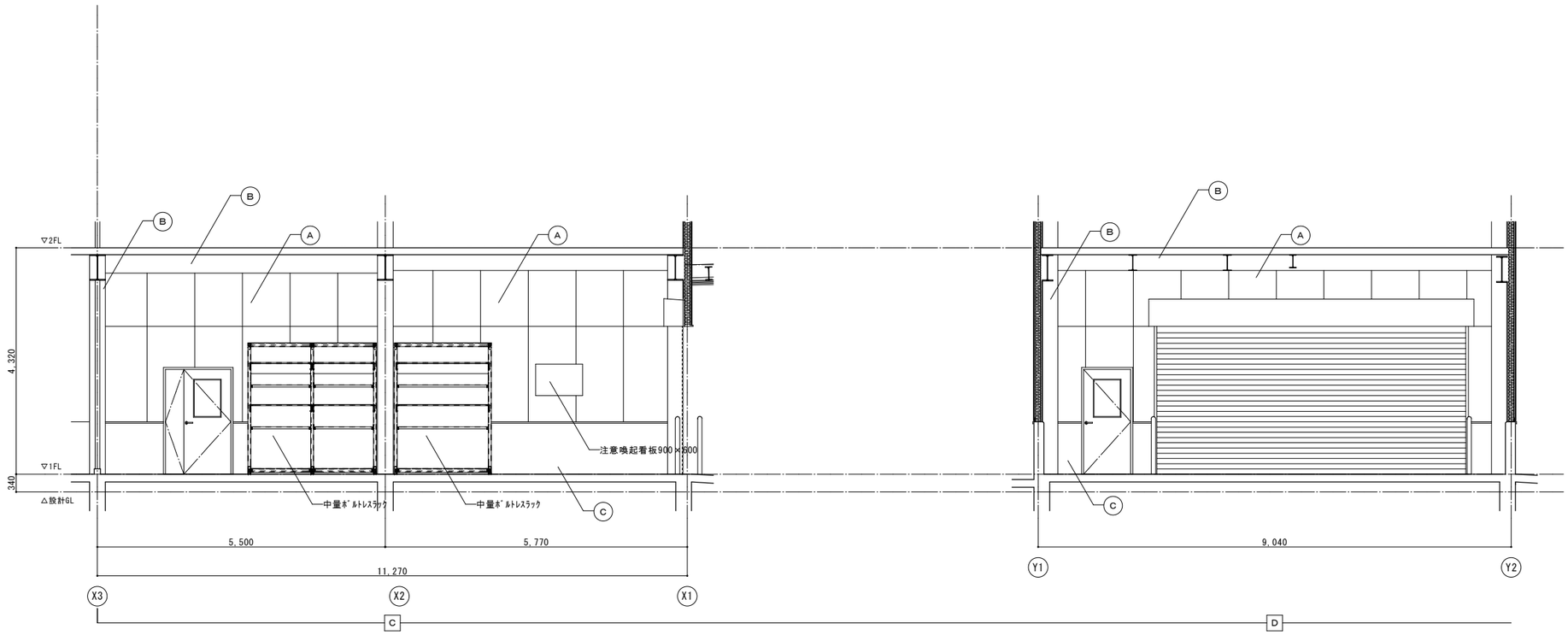
Ｂ―Ｂ　断面詳細図　1/30

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053−439−0333（代） FAX：053−439−7500 E-mail：info@sarct.jp	検図	年　月　日 R　8.　5.　29	図面名称 消防団・防災資機材庫 屋内階段詳細図	縮尺 A1　1/10・30 A3　1/20・60	図面番号 A−27	

符号	仕　上
A	石膏ボードt=12.5　素地
B	鉄部　SOP塗
C	コンクリート打放し補修
D	ソフト巾木　H100

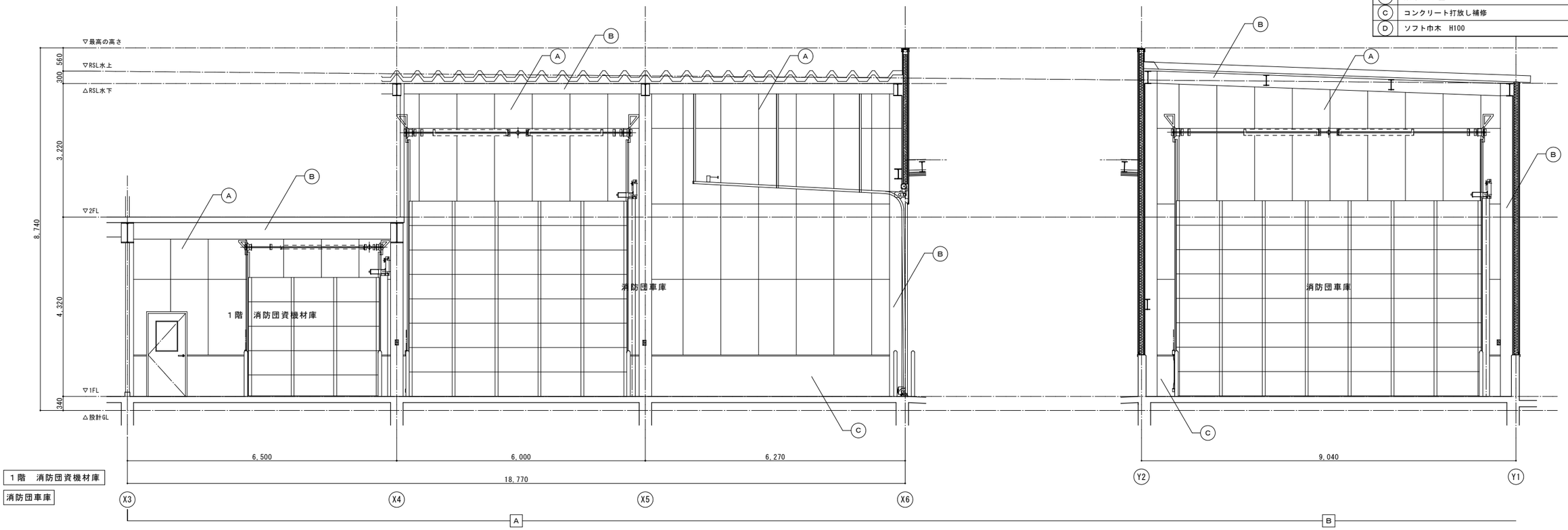


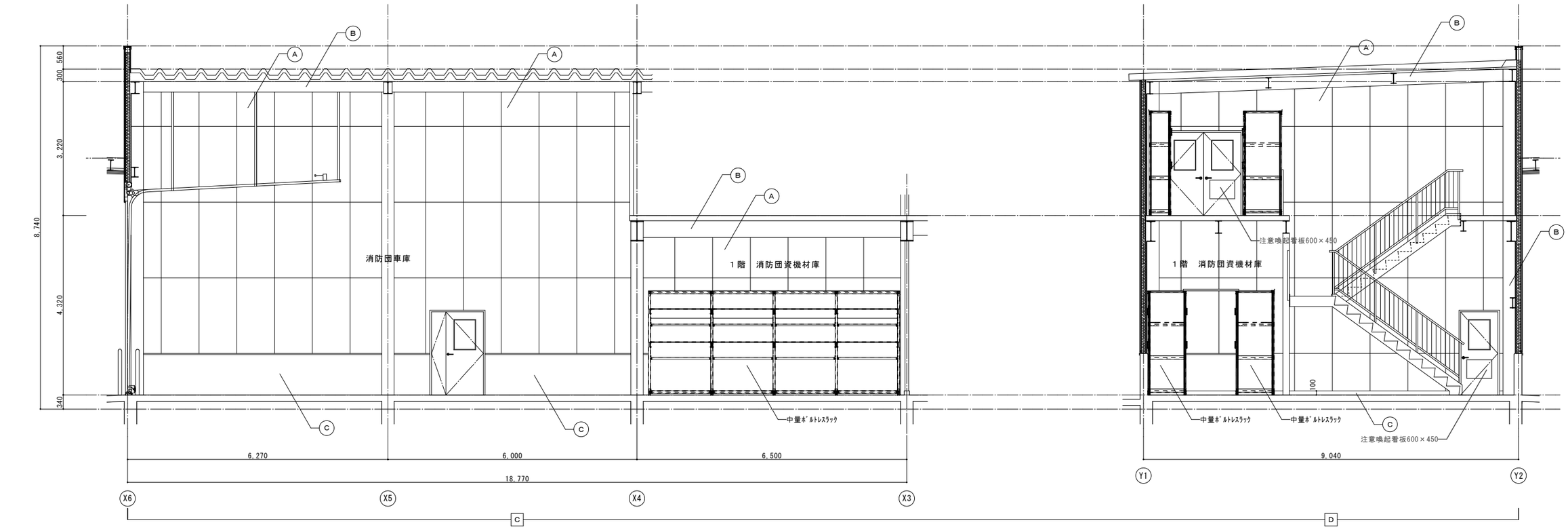
１階　防災資機材庫



備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053－439－0333（代） ＦＡＸ：053－439－7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/100	Ａ－２８
						展開図－１	A3	1/200	

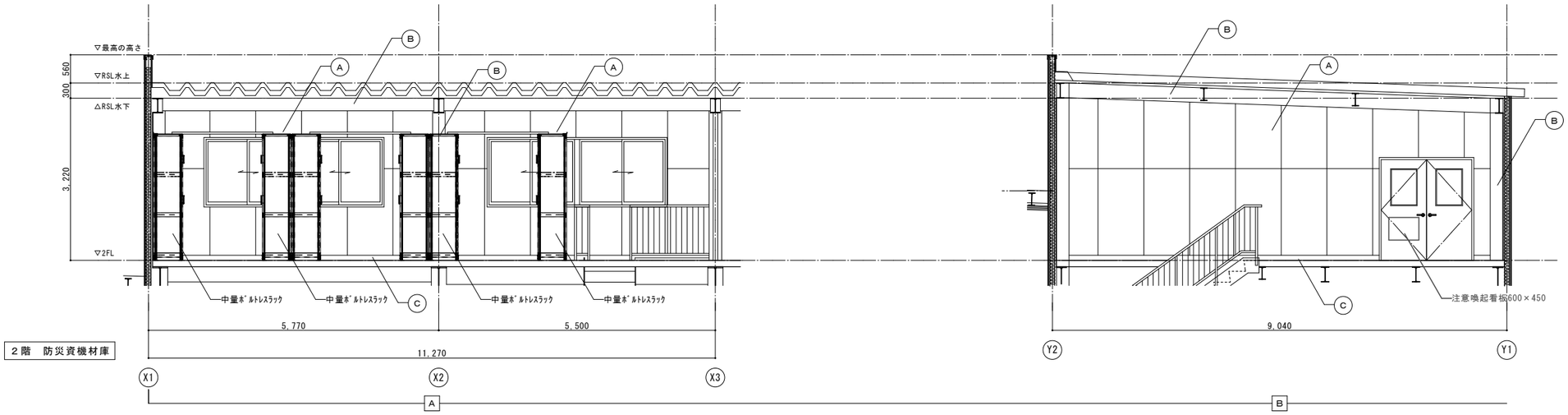
符号	仕　上
A	石膏ボードt=12.5　素地
B	鉄部　SOP塗
C	コンクリート打放し補修
D	ソフト巾木　H100



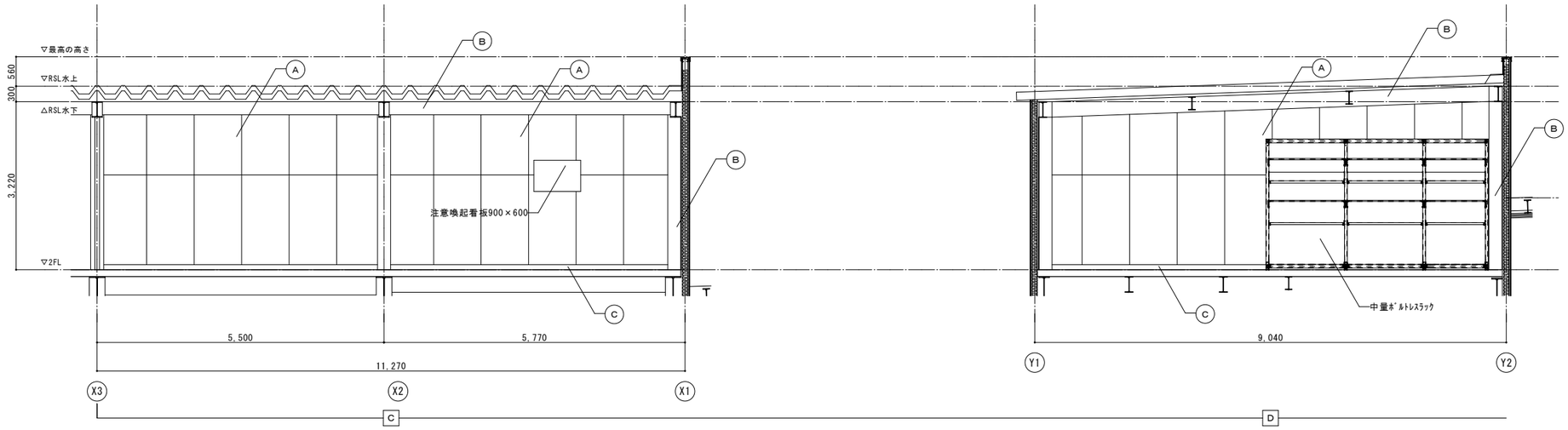


備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333（代） FAX：053-439-7500 E-mail：info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					R　8.　5.　29	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	A－29
						展開図－２	A3	1/100	

符号	仕　上
A	石膏ボードt=12.5　素地
B	鉄部　SOP塗
C	コンクリート打放し補修
D	ソフト巾木　H100

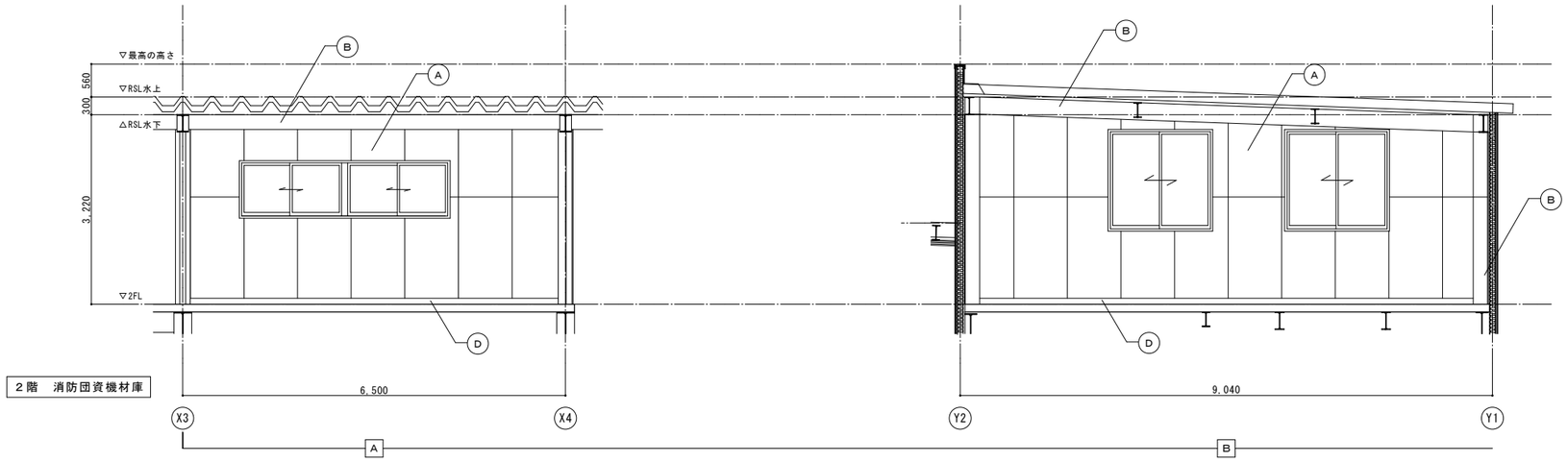


２階　防災資機材庫

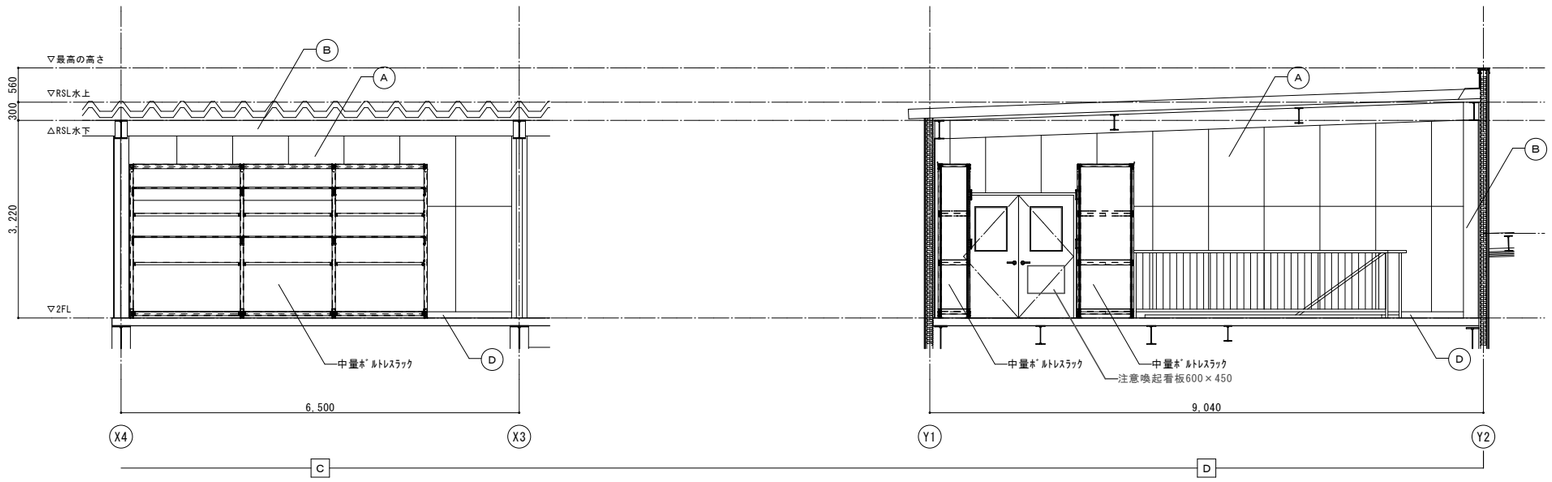


備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053－439－0333（代） ＦＡＸ：053－439－7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	Ａ－３０
						展開図－３	A3	1/100	

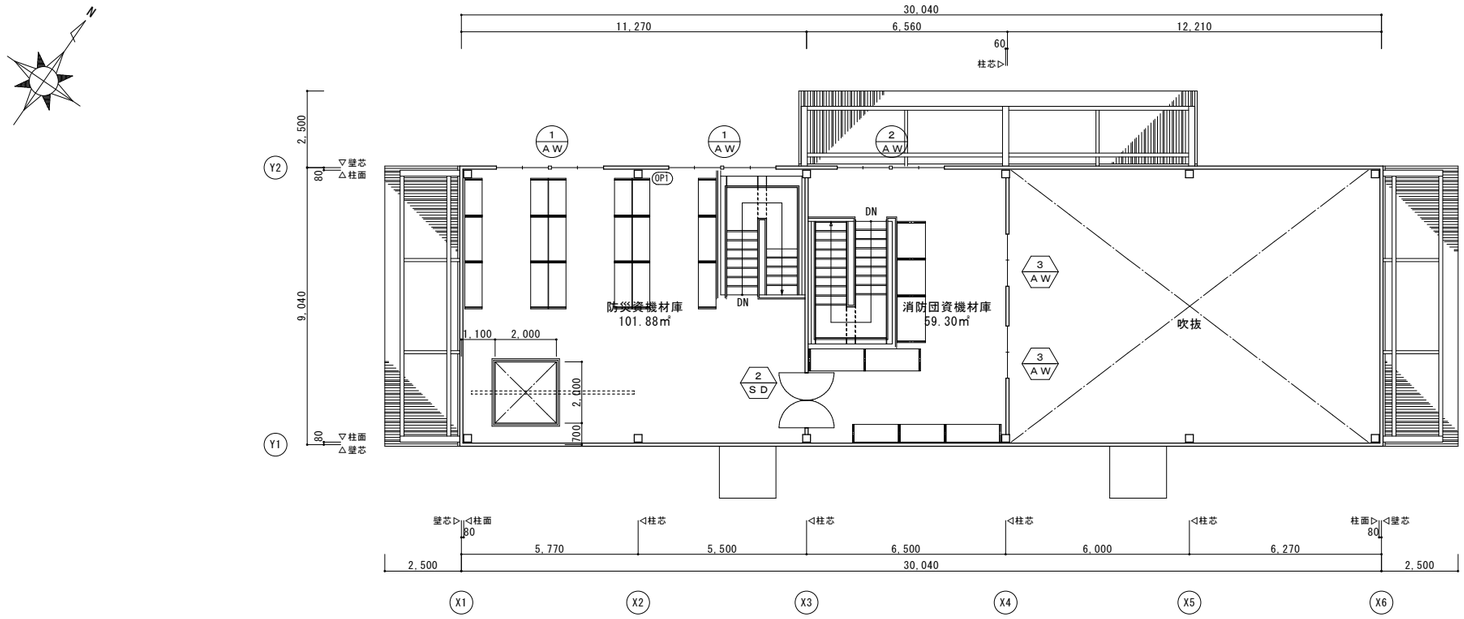
符号	仕　上
A	石膏ボードt=12.5　素地
B	鉄部　SOP塗
C	コンクリート打放し補修
D	ソフト巾木　H100



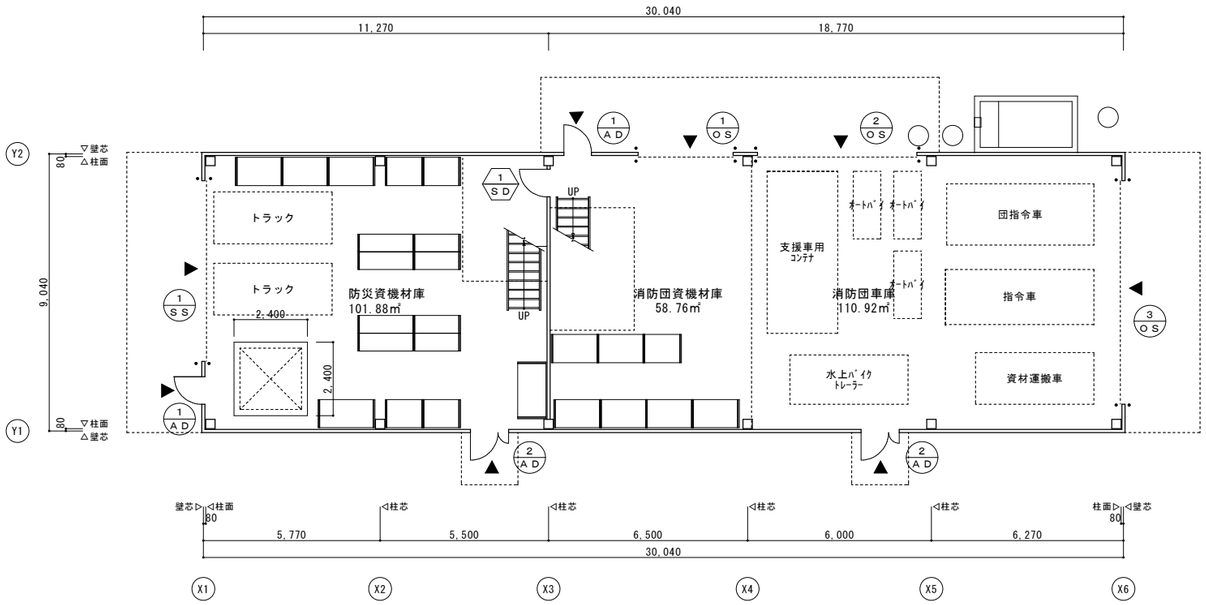
２階　消防団資機材庫



備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053−439−0333（代） ＦＡＸ：053−439−7500 E-mail：info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	Ａ−３１
						展開図－４	A3	1/100	



２階　建具キープラン



１階　建具キープラン

凡　例

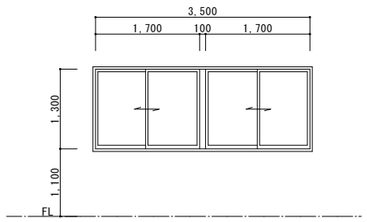
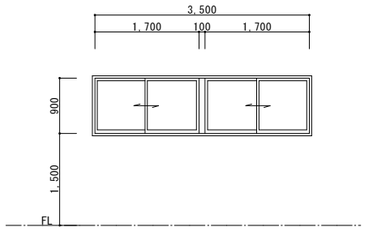
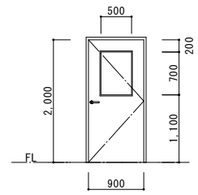
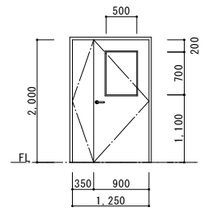
※	外部建具記号
※	内部建具記号
OP*	オペレーター

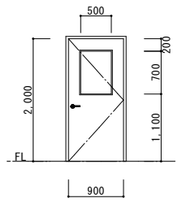
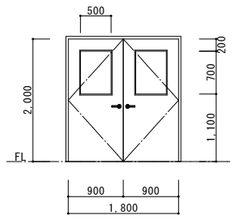
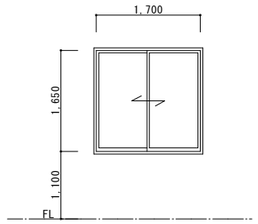
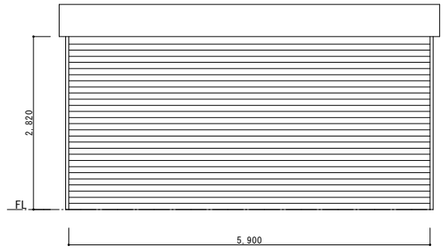
備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053-439-0333（代） ＦＡＸ：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/100	Ａ－３２
						建具キープラン	A3	1/200	

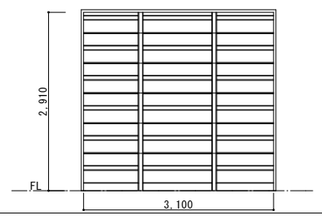
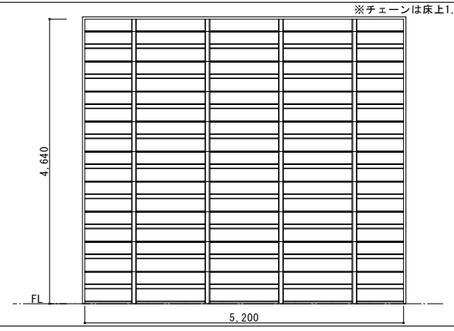
建具表－１

※原則として、姿図は内観図とするも開き勝手は平面図による。
※施錠種類は協議のうえ決定する事。

※ 飛散防止フィルム・遮光フィルムについては、ＰＥＴ製窓ガラス用フィルム（引裂強度を強くすることを目的として数十枚のフィルムを重ねたものを除く。）のうち、基材の厚さが１００マイクロメートル以下のもの または 塩化ビニル製窓ガラス用フィルムのうち、基材の厚さが４００マイクロメートル以下のものとする。

記号	1 AW	2 AW	1 AD	2 AD
箇所	２ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	２ヶ所
名称	アルミ製引違い窓	アルミ製引違い窓	アルミ製フラッシュ片開きドア	アルミ製フラッシュ親子ドア
姿図				
位置	２階　防災資機材庫	２階　防災資機材庫	１階　防災資機材庫・消防団資機材庫	１階　防災資機材庫　消防団車庫
見込	70	70	70	70
仕上材料	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミカラー	アルミカラー
ガラス	透明強化ガラス　厚5（遮光フィルム）	透明強化ガラス　厚5（遮光フィルム）	透明強化ガラス　厚5（飛散防止フィルム）	透明強化ガラス　厚5（飛散防止フィルム）
付属金物	付属金物一式・4方アルミ額縁・アルミ水切・ステンレス製網戸・オペレーター（１カ所）	付属金物一式・4方アルミ額縁・アルミ水切・ステンレス製網戸	付属金物一式・レバーハンドル・ＤＣ・外側シリンダー錠・内側サムターン 3方アルミ額縁・ステンレス沓摺・戸当	付属金物一式・レバーハンドル・ＤＣ・外側ナンバーキー（ｷｰﾚｯｸｽ ﾚﾊﾞｰ用自動施錠　K333CLF同等品） ・内側サムターン3方アルミ額縁・ステンレス沓摺・戸当
備考				

記号	1 SD	2 SD	3 AW	1 SS
箇所	１ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	１ヶ所
名称	スチール製フラッシュ片開きドア	スチール製フラッシュスイング両開きドア	アルミ製引違い窓	電動式重量シャッター
姿図				
位置	１階　消防団資機材庫	２階　防災資機材庫	２階　消防団資機材庫	１階　防災資機材庫
見込	枠：120　扉：36	枠：120　扉：36	70	
仕上材料	溶融亜鉛メッキ鋼板　厚1.6　ＳＯＰ２回塗り	溶融亜鉛メッキ鋼板　厚1.6　ＳＯＰ２回塗り	アルミシルバー	溶融亜鉛メッキ鋼板　厚1.6　DP塗
ガラス	透明強化ガラス　厚5（飛散防止フィルム）	透明強化ガラス　厚5（飛散防止フィルム）	透明強化ガラス　厚5（飛散防止フィルム）	―――
付属金物	付属金物一式・レバーハンドル・ＤＣ・シリンダー錠(両側)・ステンレス沓摺 ステンレス沓摺・戸当	付属金物一式・レバーハンドル・ＤＣ・シリンダー錠(両側)・ステンレス沓摺 ステンレス沓摺・戸当	付属金物一式・4方アルミ額縁	付属金物一式・ステンレスガイドレール・ステンレス座板
備考			室内用	障害物感知装置付・水圧開放装置（非バッテリー）

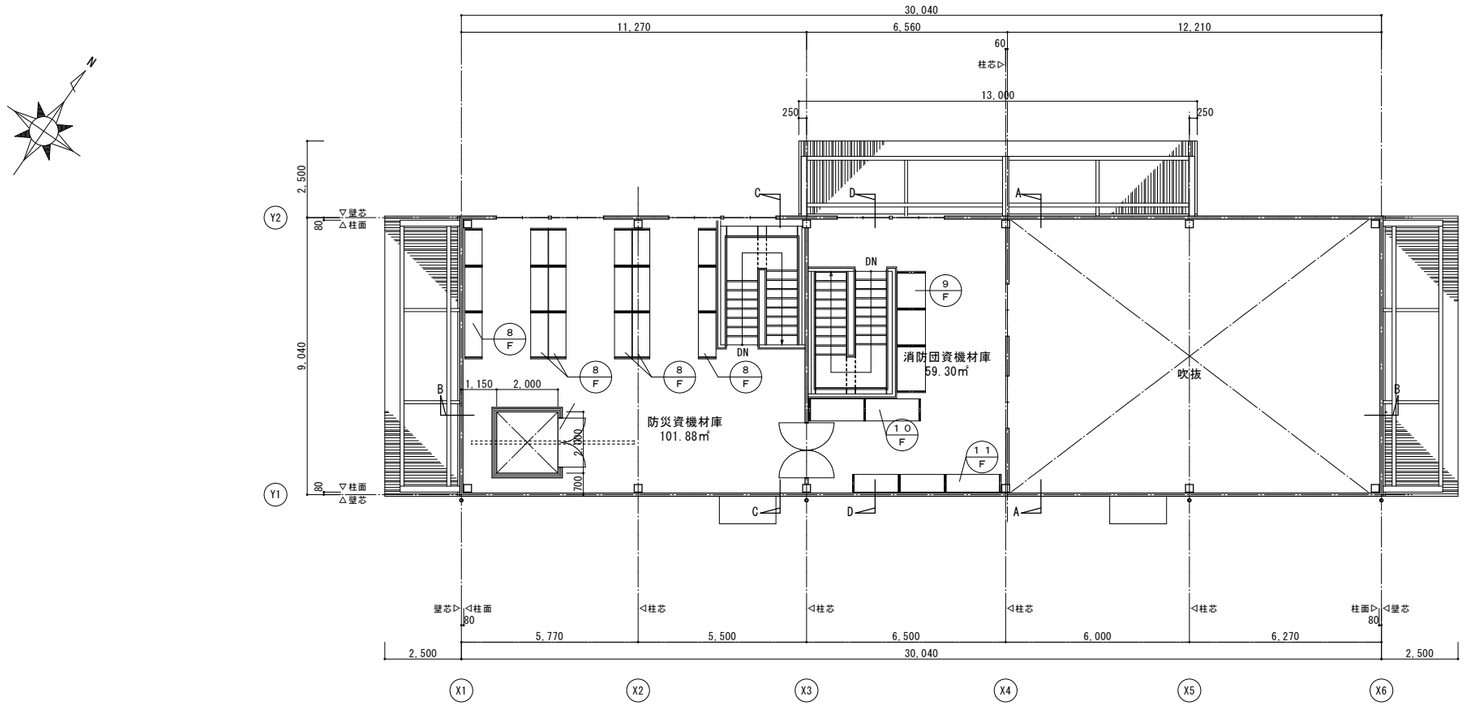
記号	1 OS	2 OS	3 OS
箇所	１ヶ所	１ヶ所	１ヶ所
名称	電動スチール製オーバースライダー	電動スチール製オーバースライダー	電動スチール製オーバースライダー
姿図	※チェーンは床上1,000の位置まで伸ばすこと 	※チェーンは床上1,000の位置まで伸ばすこと 	※チェーンは床上1,000の位置まで伸ばすこと
位置	１階　消防団資機材庫	１階　消防団車庫	１階　消防団車庫
見込	―――	―――	―――
仕上材料	―――	―――	―――
ガラス	―――	―――	―――
付属金物	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
備考	手動開放装置・手動操作チェーン・リモコン操作・水圧開錠装置（非バッテリー）	手動開放装置・手動操作チェーン・リモコン操作	手動開放装置・手動操作チェーン・リモコン操作

備考

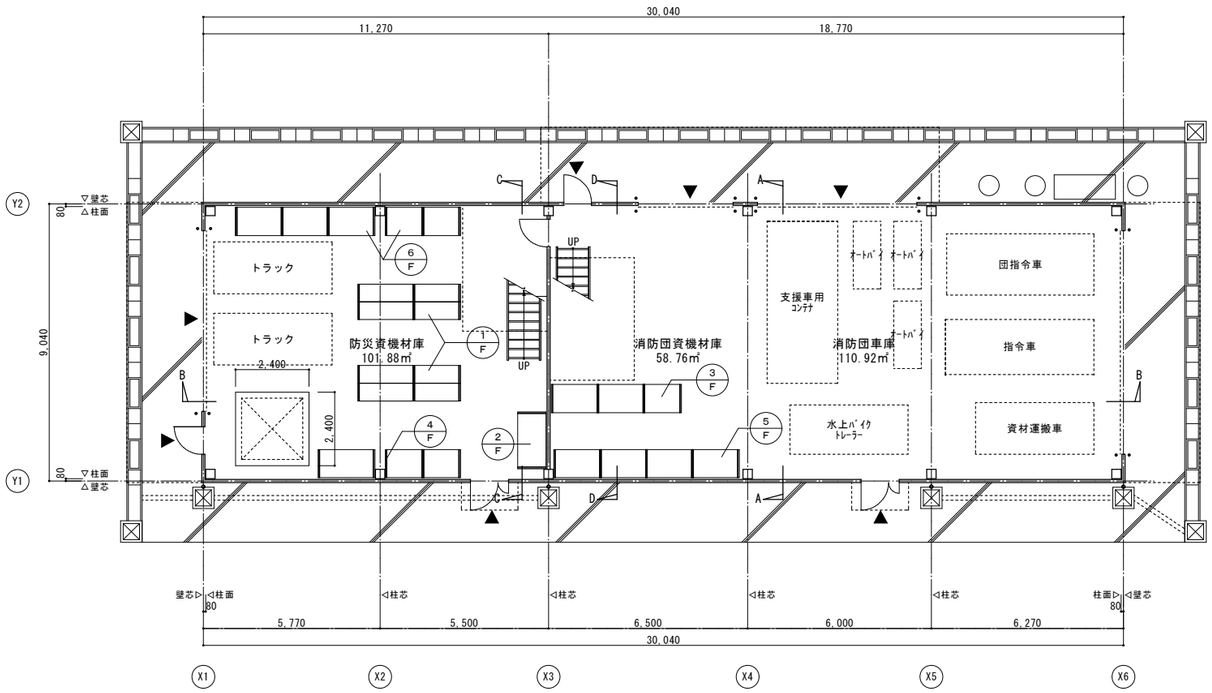
令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）

株式会社 白柳一級建築設計事務所
事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史
〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号
ＴＥＬ：053－439－0333（代）
ＦＡＸ：053－439－7500
E-mail: info@sarct.jp

検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
	Ｒ８．５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	Ａ－３３
		建具表	A3	1/100	



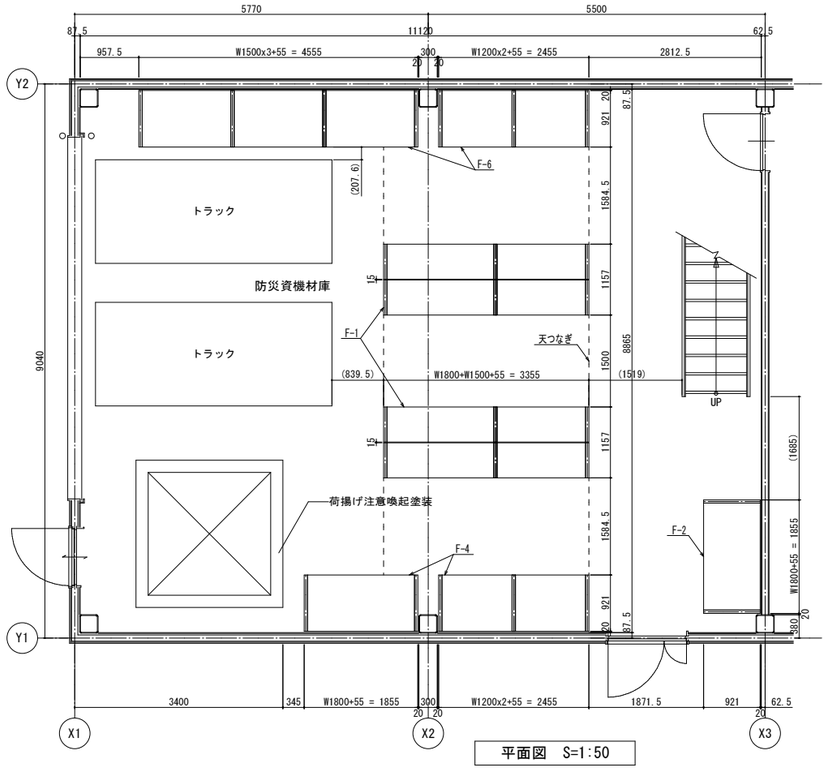
２階家具キープラン　1/100



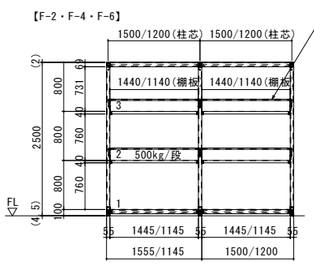
１階家具キープラン　1/100

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053−439−0333（代） ＦＡＸ：053−439−7500 E-mail: info@sarct.jp	検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
					Ｒ８．５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/100	Ａ−３４
						家具キープラン	A3	1/200	

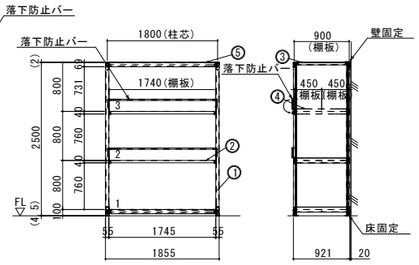
F-1・F-2・F-4・F-6	中量ボルトレスラック	1階 防災資機材庫／１式



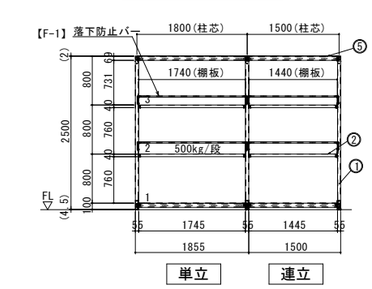
平面図　S=1:50



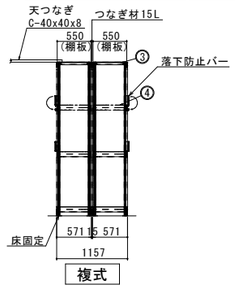
正面図　S=1:50



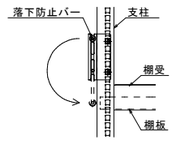
正面図　S=1:50　　側面図　S=1:50



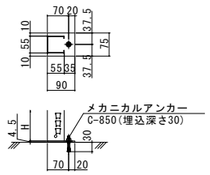
正面図　S=1:50



側面図　S=1:50



落下防止バー　拡大図



ベース詳細図　S=1:10

※全支柱下部対象

【1階 防災資機材庫】

【F-1】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1500 x D571　天地4段　4台(　　連立4台)
H2500 x W1800 x D571　天地4段　4台(単立4台　　)

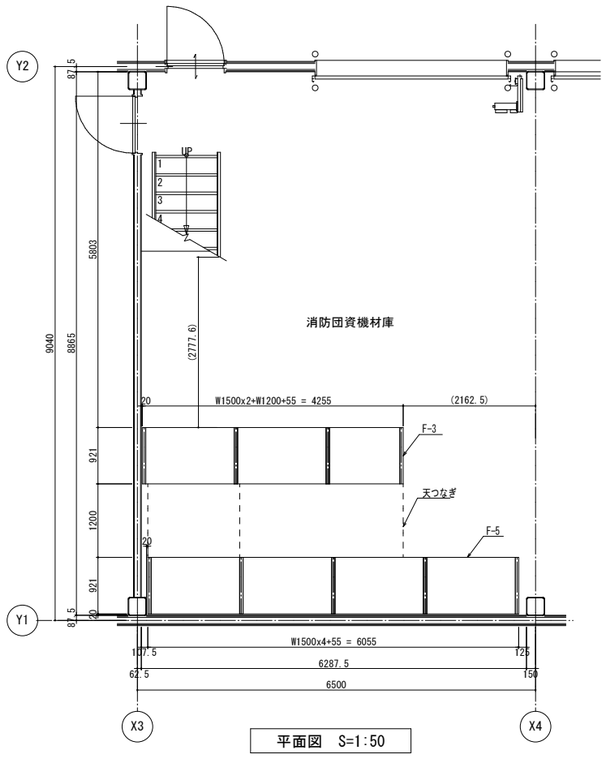
【F-2】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1800 x D921　天地4段　1台(単立1台　　)

【F-4】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1200 x D921　天地4段　2台(単立1台・連立1台)
H2500 x W1800 x D921　天地4段　1台(単立1台　　)

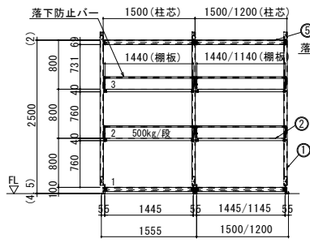
【F-6】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1200 x D921　天地4段　2台(単立1台・連立1台)
H2500 x W1500 x D921　天地4段　3台(単立1台・連立2台)

品番	部品名	材質名	板厚・サイズ	表面仕上
1	支柱	SPHC	t1.8	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
2	棚板	SPCC	t0.7/t0.8	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
3	天棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
4	中棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
5	ビーム	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
	壁固定金具	SPHC	t4.5	ﾕﾆｸﾛﾒｯｷ
	天つなぎ	SPHC	t1.5	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ

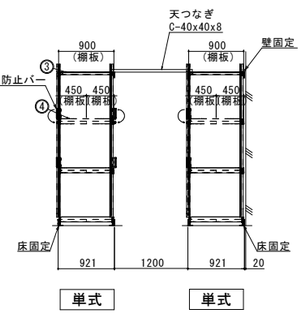
F-3・F-5	中量ボルトレスラック	1階 消防団資機材庫／１式



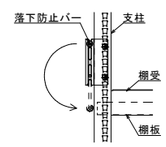
平面図　S=1:50



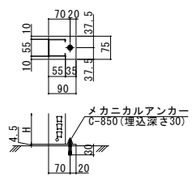
正面図　S=1:50



側面図　S=1:50



落下防止バー　拡大図



ベース詳細図　S=1:10

※全支柱下部対象

【1階 消防団資機材庫】

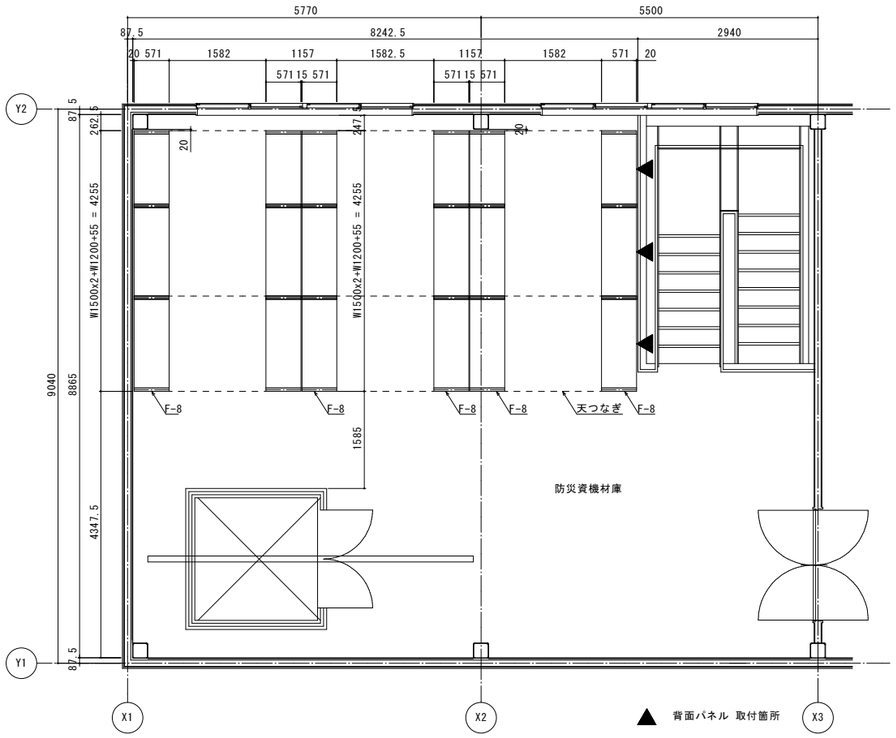
【F-3】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1500 x D921　天地4段　2台(単立1台・連立1台)
H2500 x W1200 x D921　天地4段　1台(　　連立1台)

【F-5】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1500 x D921　天地4段　4台(単立1台・連立3台)

品番	部品名	材質名	板厚・サイズ	表面仕上
1	支柱	SPHC	t1.8	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
2	棚板	SPCC	t0.7	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
3	天棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
4	中棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
5	ビーム	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ
	壁固定金具	SPHC	t4.5	ﾕﾆｸﾛﾒｯｷ
	天つなぎ	SPHC	t1.5	ｱﾝｸﾞﾙｸﾞﾚｲ

備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333(代) FAX：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					R　8.　5.　29	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	A－３５
						家具図－１	A3	1/100	

F-8	中量ボルトレスラック	2階 防災資機材庫／１式

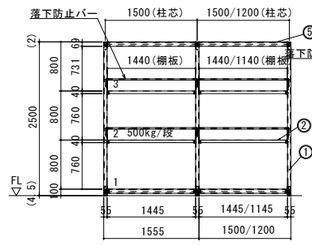


平面図 S=1:50

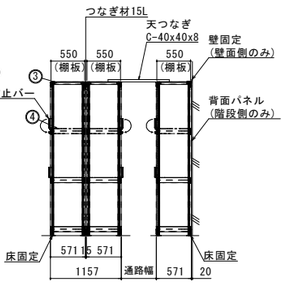
【2階 防災資機材庫】

【F-8】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1200 x D571 天地 4段 6台(連立6台)
H2500 x W1500 x D571 天地 4段 12台(単立6 台・連立 台)

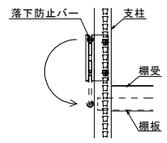
品番	部品名	材質名	板厚・サイズ	表面仕上
1	支柱	SPHC	t1.8	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
2	棚板	SPCC	t0.7	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
3	天棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
4	中棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
5	ビーム	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
	壁固定金具	SPHC	t4.5	ﾕﾆｸﾛﾒｯｷ
	天つなぎ	SPHC	t1.5	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ



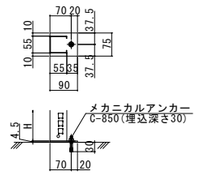
単立 連立
正面図 S=1:50



複式 単式
正面図 S=1:50



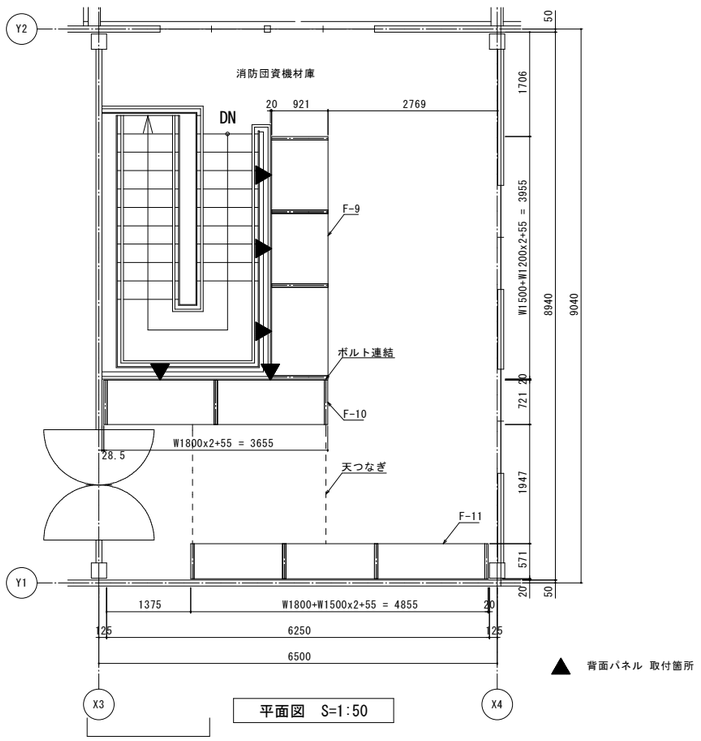
落下防止バー 拡大図



ベース詳細図 S=1:10

※全支柱下部対象

F-9・F-10・F-11	中量ボルトレスラック	2階 消防団資機材庫／１式



平面図 S=1:50

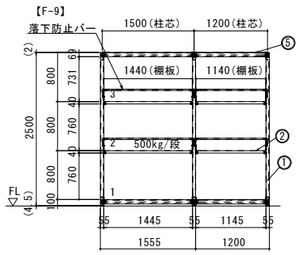
【2階 消防団資機材庫】

【F-9】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1500 x D921 天地4段 1 台(単立1台)
H2500 x W1200 x D921 天地4段 2台(連立2台)

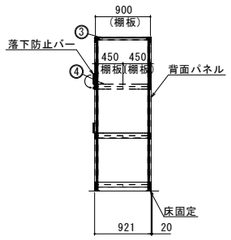
【F-10】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1800 x D7 2 1 天地4段 2 台(単立 台・連立 台)

【F-11】中量ボルトレスラック BL500
H2500 x W1800 x D571 天地4段 1 台(単立 台)
H2500 x W1500 x D571 天地4段 2台(連立2台)

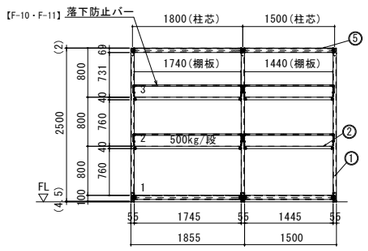
品番	部品名	材質名	板厚・サイズ	表面仕上
1	支柱	SPHC	t1.8	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
2	棚板	SPCC	t0.7/t0.8	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
3	天棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
4	中棚受	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
5	ビーム	SPHC	t2.0	ｱﾝｸﾞﾙﾀﾞﾚｲ
	壁固定金具	SPHC	t4.5	ﾕﾆｸﾛﾒｯｷ



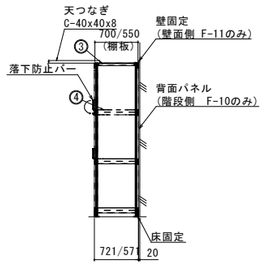
単立 連立
正面図 S=1:50



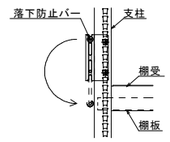
単式
側面図 S=1:50



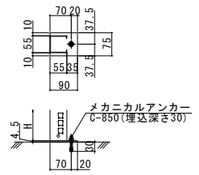
単立 連立
正面図 S=1:50



連立
側面図 S=1:50



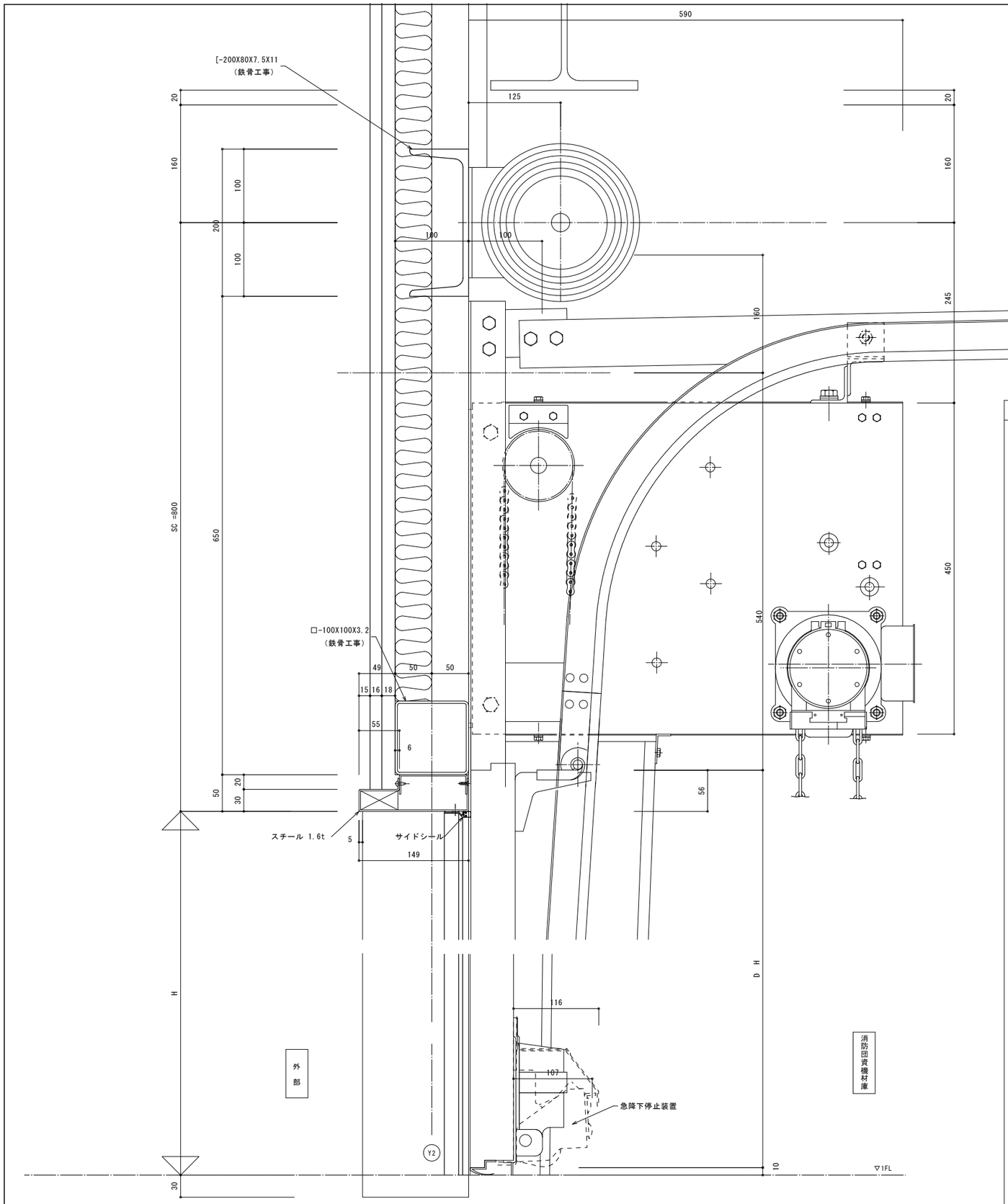
落下防止バー 拡大図

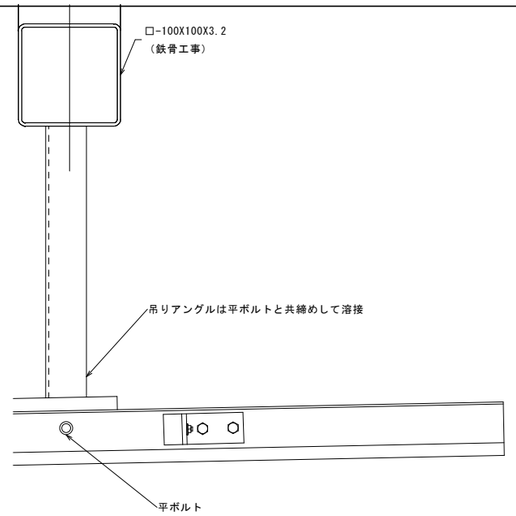


ベース詳細図 S=1:10

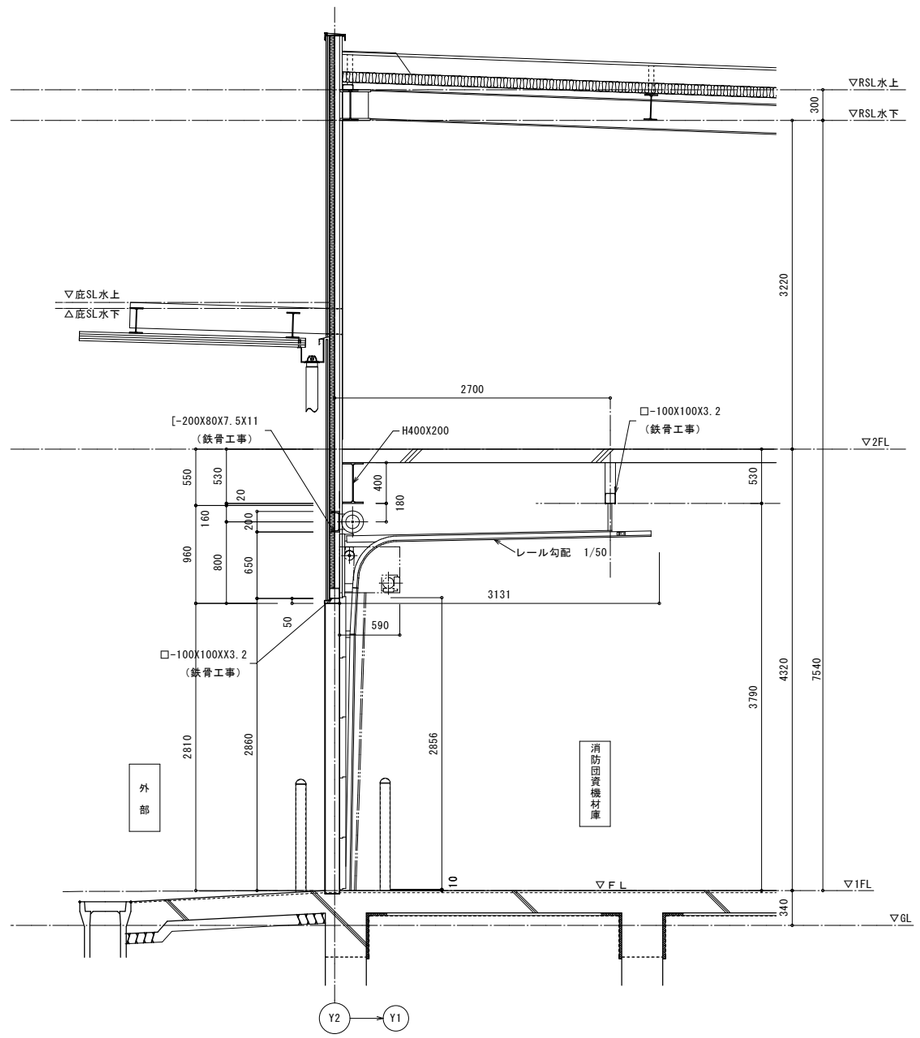
※全支柱下部対象

備考	令和８年度 湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録 第3620号 一級建築士登録 第278915号 設備設計一級建築士交付 第2724号 清水 基史	〒433-8119 浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333(代) FAX：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検 図	年 月 日	図面名称	縮 尺		図面番号
					R 8. 5. 29	消防団・防災資機材庫	A1	1/50	A－36
						家具図－２	A3	1/100	

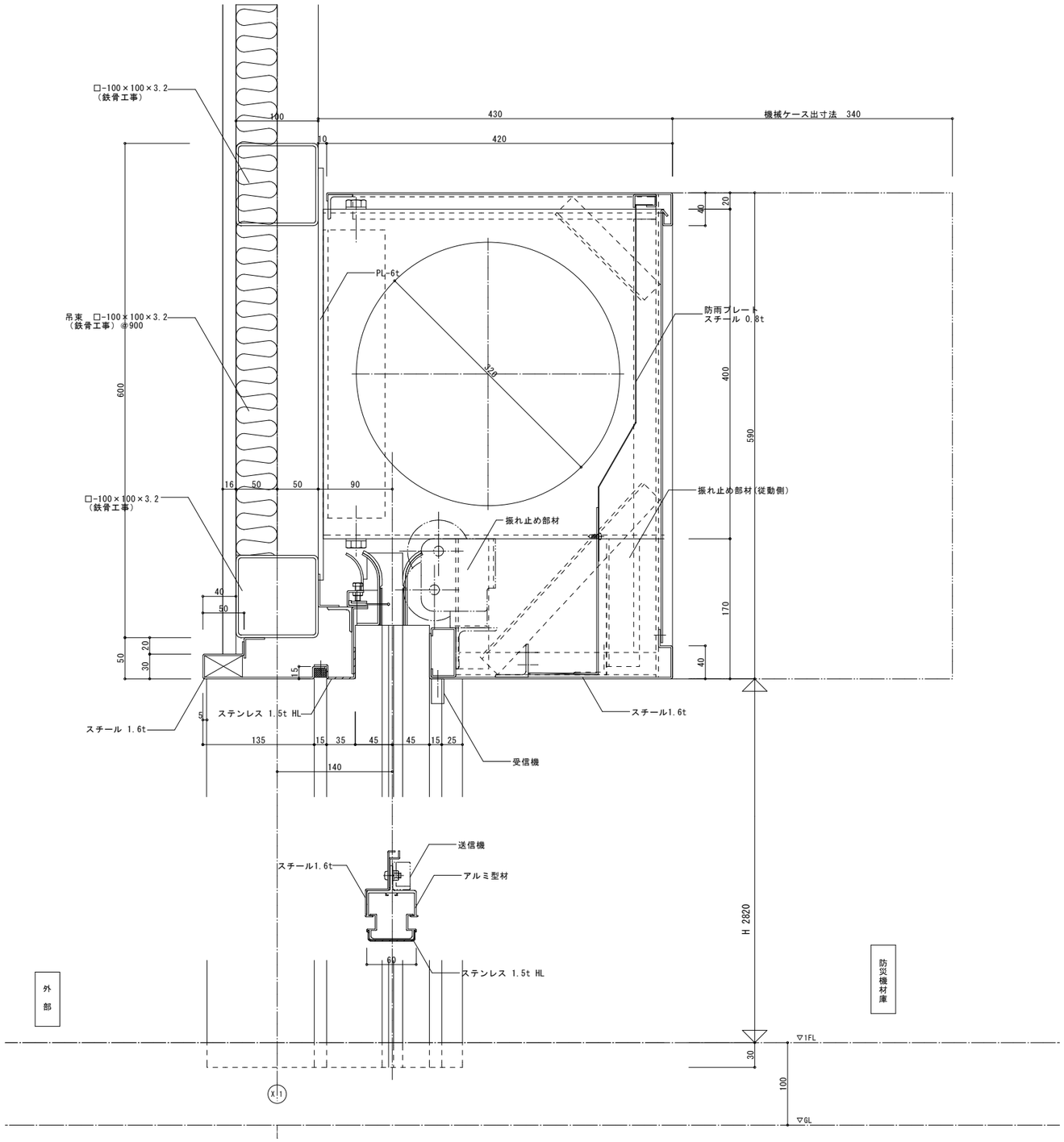


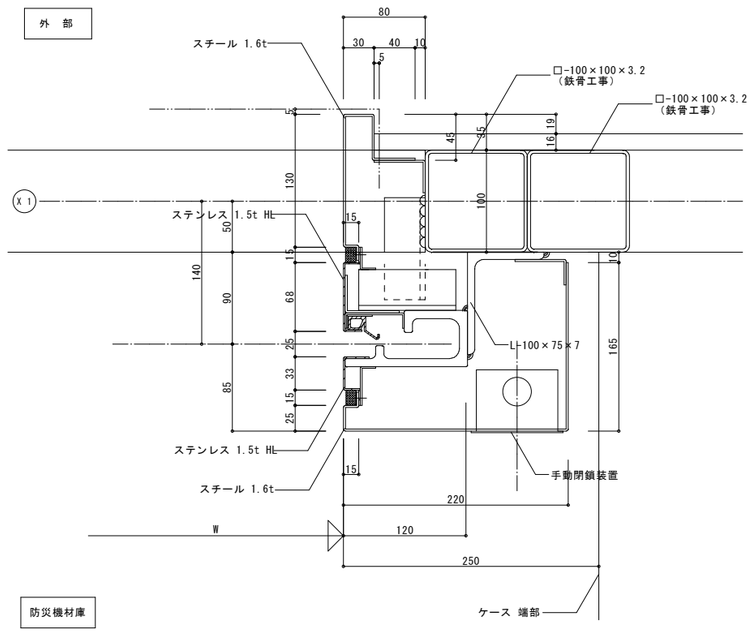


断面詳細図　1/30

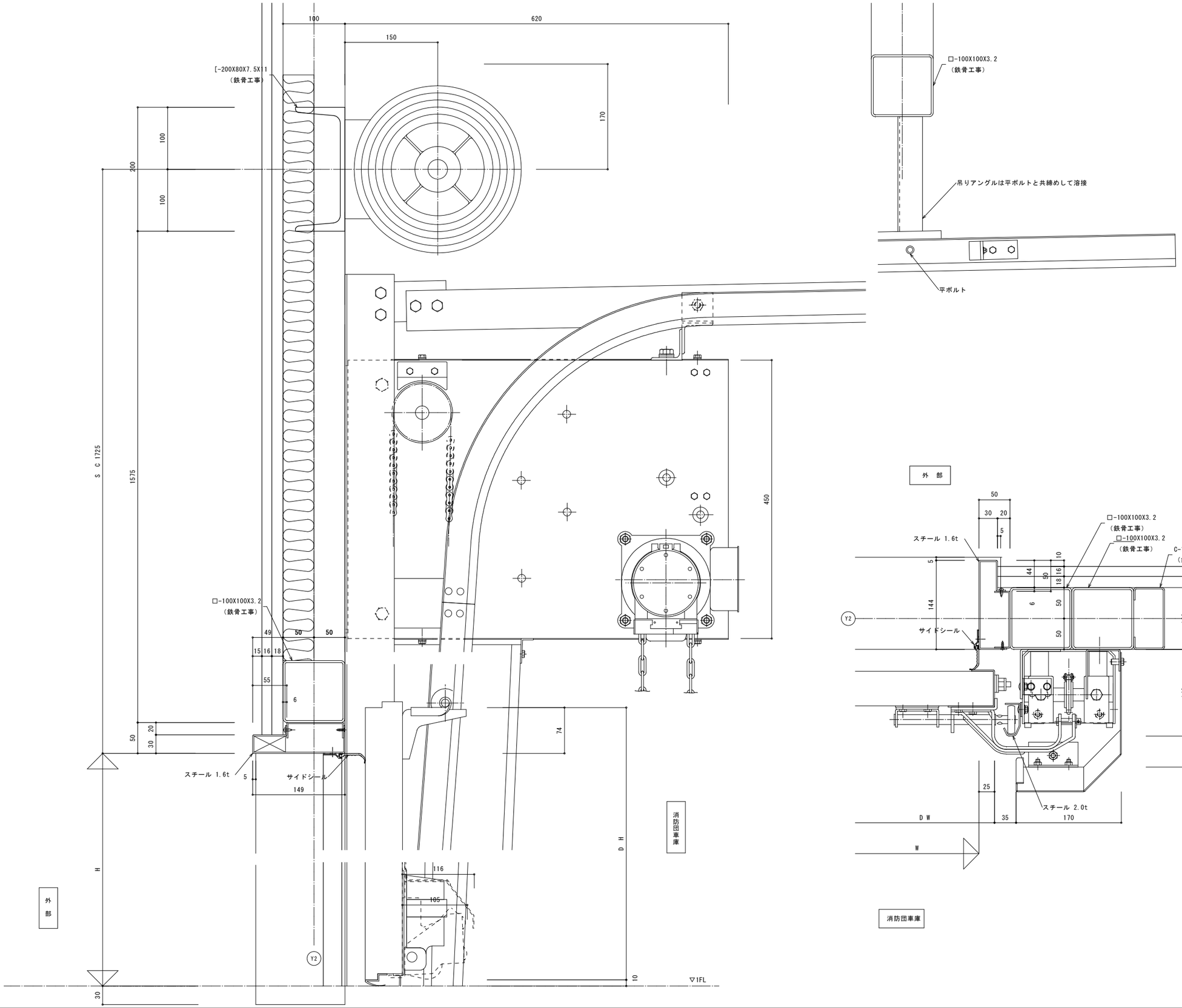


備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053-439-0333（代） ＦＡＸ：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺	図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1　1/3　1/30	Ａ－３７
						部分詳細図－１(OS-1)	A3　1/6　1/60	





備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録 第3620号　一級建築士登録 第278915号　設備設計一級建築士交付 第2724号　清水 基史	〒433-8119 浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 TEL：053-439-0333(代) FAX：053-439-7500 E-mail: info@sarct.jp	検図	年月日	図面名称	縮尺		図面番号
					R 8. 5. 29	消防団・防災資機材庫	A1	1/3	A－４０
						部分詳細図－４(SS-1)	A3	1/6	



備考	令和８年度　湖西市消防防災センター第２期建設工事（建築工事）	株式会社 白柳一級建築設計事務所 事務所登録　第3620号　一級建築士登録　第278915号　設備設計一級建築士交付　第2724号　清水　基史	〒433-8119　浜松市中央区高丘北四丁目6番35号 ＴＥＬ：053−439−0333（代） ＦＡＸ：053−439−7500 E-mail: info@sarct.jp	検　図	年　月　日	図面名称	縮　尺		図面番号
					Ｒ　８．　５．２９	消防団・防災資機材庫	A1	1/3	Ａ−３８
						部分詳細図－２（OS-2）	A3	1/6	